



阪神地区懇親会 昭, 6.1.5.18. 於, 神戸「KUC」
後列左より 吉田、平岡、金、榎原、酒井、石井、佐藤、山本、丸山
前列左より 白子、藤本、杉野、上田
三宅、荻野、小山、古賀

練習にて

於
六甲台プール



関西学生水球リーグ



対立命戦

S61.6.14.

於
大市大プール

対京大戦

S 61.6.15.

於
大市大プール



関西学生選手権 S61.7.27~29 於大阪プール

二部

400m Fr 継

一位

台上は浜田



2部

100m Bu の スタート 6コース郡



二部

100m Ba

一、二、三位独占





夏合宿にて

左より

近藤、黒田、三好、甲野、安井、小笠原、古谷、是枝、藍
 井口、島崎、日比、吉岡、岡崎、原田、奥村、郡、中川
 高元、竹本、浜田、坂田、村田、林、田中、中塚、羽瀬、後呂
 枝沢、加地、村上、川上、守冲、植松、有利
 徳永

目 次

(表紙題字 藤井正太郎先生)

S C協法人化について	昭 7 学 1	小山賢之助	1
水 泳 の 話	昭 42 L 15	宮部 高博	2
監督という名の一OBから	昭 53 A 26	酒井 正人	4
アメリカ雑感	昭 59 EII31	金 一波	6
昭和 61 年度 凌泳総会議事録			8
支部だより			
東京支部 夏のつどい	昭 42 L 15	宮部 高博	9
東京支部 忘 年 会	昭 42 L 15	宮部 高博	9
阪神地区 懇 親 会	昭 27 学 22	石井 義章	10
会員からのお便り			
凌泳総会案内状返信より			11
月見の宴案内状返信より			21
特 集			
マスターズスイミング			32
兵庫マスターズ大会に参加して	昭 21 学 16	三宅 林	33
第1回世界マスターズ参加の記	昭 30 B 3	田淵 五郎	34
'86 日本マスターズ長水路大会	昭 37 B 10	井上 隆史	36
.....	昭 39 B 12	武政 英幸	36
'86 日本マスターズ短水路大会	昭 42 L 15	宮部 高博	38
現役部員寄稿			
○体育会水泳部員としての姿勢	主 将	甲野 賢	41
○頑張って泳ごう	競泳主任	後呂 忠詳	42

○素朴な疑問	水球主任	有利 英明	42
○「初泳ぎ」に思うこと	主 務	近藤 直明	43
○体育会リーダーストレージング		竹本 和広	44
○卒 部 の 辞	昭和 62 年	卒部者一同	47
○現役部員紹介		二回生一同	54
○昭和 61 年度 活動報告			65
現役部員自己ベスト一覧表			86
歴 代 10 傑 表			88
凌 泳 会 会 則			94
凌 泳 会 役 員 名 簿			97
凌 泳 会 会 員 名 簿			99
凌泳会水泳部決算報告(予算案)			129
「商神」「応援歌」			133
編 集 後 記			138

SC協法人化について

(競泳会会長) 小山 賢之助(昭7学)

話は遡る。1984年、ロサンゼルス、オリンピックで、日本の水泳代表選手が大麻事件を起し、日本水泳連盟(以下NSRと略す)の会長が引責辞職をしたことは競泳会の皆様先刻御承知の事と思う。NSRが大麻事件に対する処置をすまして、文部省に挨拶に行ったところ、文部当局は大麻事件の事は殆んど触れることなく、「立派な水泳指導者を養成することが、之からの重大な仕事です」と言ったと伝えられている。当時私共はこの発言が何を意味するのかよくわからなかった。然し、昨年(昭7)の3月頃、スイミングクラブ協議会(SC協と略する)を「指導者養成」の為の公益法人として、法人化すべしという勧奨が文部当局からSC協に出されているという話が、NSR当局の耳にはいつてきた。諸情報を集めて見ると次の様なことが判明した。

① 指導者養成をSCの公益性のポイントとして、SC協を法人化することを文部省は強く望んでいる。(この法人の役員は有給であるところから、天下りを考えているとも考えられる)

② 現在のSC協の役員はオーナーが主になっているから、その法人化は一つの同業組合であるから、之は通産省官轄になるが、指導者養成という看板があれば之はまさしく文部省の官轄になるのである。オーナーの集まりであるSC協を改組して、指導者養成の公益法人を作るというのである。

③ NSRは既に数年前から指導者の養成を行っているが、SC協が之をやるとなると、二つが競争関係に突入する、指導者養成の二極分化である。

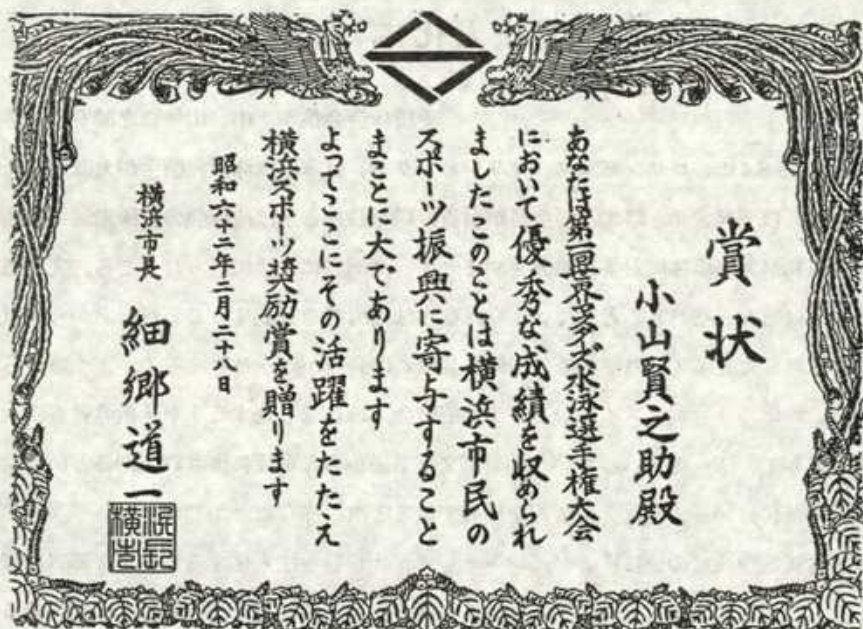
④ NSRは之に反対を表明したが、当局の腰は強く、SC協法人化の案を撤回しないので、NSRも不得已を承認した。そこでNSR、SC協代表相談の結果、SC協はNSRに加盟し、お互いに2名の理事を交換しあうこととし、この案が二月末のNSR総会で可決承認された。

私は問題は今後にあると思う。指導者養成が二元化すれば、柔道と同じ様に水泳の組織が二分化して、水泳の普及発達が阻害されるのではないかと、伝えられるところによると、地方の体育課長、教育委員会を通じて別の指導者養成機構を考える人々が居るともいう。今更指導資格を取る気もない我々老人は、どの会に出たらよいのだろうか。

然かもSC協の握るプールの数はNSRの握る数よりも圧倒的に多いから、NSRの危機につながることに兼ねない。

私はSC協、NSRの幹部が大局に立って組織の枠を越えて、両者が水泳発展のために一つになって努力されることを祈るものである。

以上



小山会長 横浜スポーツ奨励賞受賞

横浜市では毎年、市民の中で国際大会や全国大会で上位入賞者を表彰する制度があり、61年度は7月に開かれた第1回世界マスターズ水泳選手権大会も選考対象となり、75~79才の部平泳ぎで金メダル2ケを獲得された小山会長も表彰を受けられました。ここに報告致しますと共に
お慶び申し上げたいと存じます。

所がこの過程で一寸したハプニングがありました。というのは当初発表された受賞者名簿に会長が入ってなかったそうです。会長は催促する訳ではないが、表彰は平等に行はれるべきだし、他にも選考漏れがあるかもしれぬと市教育委員会へ問合せられたそうです。市当局は早速再調査した所会長には立派に受賞資格ありという事で急遽追加発表し、表彰式当日は間に合って他の人々と共に目出たく表彰を受けられたとの事。何でも会長が東京のYMCAチームから出場された為、市教委では気がつかなかったのが原因でした。
(文責 石井)

水 泳 の 話

(昭42L15) 宮 部 高 博

日本マスターズ水泳協会が設立され、小山先輩や石井先輩の契めを頂き、もう一度水泳に親しんでみようと思つたものでした。それから約1年半になりますが、同じ習志野市(千葉)在住

の田淵五郎先輩(S30)、同じく流山市(千葉)に居られる武政英幸先輩(S39)等と互に協力しつつ水泳を続けています。そのことについて書いてみたいと思います。

今から約1年半前の第2回日本マスターズ長水路大会に凌泳会所属で出場したことは、昨年「凌泳」にもある通りですが、「出場しよう」と決心がつくまではやはり不安でした。水から離れて約20年にもなる。「今更」という気持と「泳げるか」という不安で、初めてレースに出る時の気持を想い出していました。第2回マスターズでの私の成績は惨々なもので、体力の衰えを自覚しただけでした。

それからの私は、それまで毎日の如く続いた酒席を、二度に一度は断り、体調の維持に努めるようになりました。又近所のスイミングクラブにも月に1~2度通い、距離を泳ぐ感じを思い出すよう努力しました。しかし20年近い空白期間は想像以上に重く、今だに不安を持ちながら何とか続けているのが現在です。

先にも書きましたように第2回日本マスターズ長水路大会に出場した後、田淵、武政両先輩と短水路マスターズにも出場し、更に第一回世界選手権まで出場してしまいました。国際大会の雰囲気を経験出来て本当に良かったと今でもおもいます。

やはり昨年7月には田淵先輩を誘って習志野市民水泳大会にも出場しました。因らずも習志野市代表に選ばれて、8月には千葉県民大会にも二人で出場して来ました。(田淵先輩は惜しくも決勝2位で、私は予選10位で決勝レースには出場出来ませんでした) その大会に出て、水泳愛好家連との人の輪が少し拡ったようです。一方、武政先輩も地元流山市の市民大会に出場され「来年は県民大会に出る!!」お気持のようだと言っています。

この次に出場したのが第3回日本長水路マスターズです。この時は実に楽しかった。前述の田淵、武政両先輩以外に名古屋から井上隆史先輩が加わり、浅間啓介、山田貴彦両先輩も出場されたので、凌泳会も賑やかでした。勿論小山会長も出られたし、阿部洋三君、後藤信人君の姿もみられました。

私も、この頃になるとやや体力に自信が回復し200メートル個人メドレーに挑戦してみました。後日談ですが、凌泳会のマネージャー役と言うことで井上先輩の入賞メダルを名古屋出張の折にお届けし、ついでに一夜ご馳走いただいたのも楽しい思い出になりました。

長々と拙文を書きでしたが、思い切ってマスターズに出場したことで凌泳会の諸氏ともより親しくなれたし、又水泳好きな人達とも少しづつ人の輪が拡がっています。私事で恐縮ですが、小学校6年の息子がいます。スポーツが好きで、特に野球に憧れ少年野球チームに入っています。私も個人競技より団体競技の方が教育上良いのではと考え野球チームにも協力して来ました。しかし生涯スポーツとしての水泳を考えた時、又これも良いと考え、息子に水泳を奨めて

監督という名の一〇Bから

(昭53 A 26) 酒 井 正 人

凌泳会諸兄がこの寄稿文を読んでおられる頃、私は、すでに日本の地を離れ、あの四千年の歴史を持つ中国を東奔西走する毎日を送っていることと思います。私事ではありますが、今年の四月より、海外日本人学校派遣教員として、中国は上海に三年間の勤務をすることとなりました。

思えばたった二年間の至らぬ監督生活でしたが、私にとっては旅立つにあたり、やはり感慨深いものがあります。前監督の佐敷さんから引き継いだものの、当初は何をどうしてよいやらわからぬまま、不安と焦りのうちに毎日が過ぎて行ったことをきのうのこのように思い出します。本業の会間を縫ってのことですから、なかなかプールに顔を出すことができませんでしたが、それでも自分なりに神大水泳部に身を投じてきたつもりです。

さて、本来ならこの辺で二年間の監督生活をふり返ってということになるのでしょうかが困ったことに、限られた紙面を充実させるだけの監督としてのふり返るものがないのです。しかし、あえて言わせていただくなら、卒業以来、まだまだ自分自身が現役として、また神大水泳部の一〇Bとして関わってきた年月を思う限り、この歴史ある凌泳誌の末梢をけがすことを許していただけるのではないかと思うしだいです。

〇Bとしての7年間を思うと、言葉では言い尽くせない数々のエピソードが走馬灯のようによみがえってきますが、その全てを書くには、あまりにもこみ上げてくるものが大きく、書くに耐えられません。私自身、そんなにもこの7年間の〇B生活が、神大水泳部と、様々な形でつながりを持っていたのかと、今さらながら驚いています。文章として書き表わすことが恥ずかしいような、おおよそ監督という名にふさわしくないことばかりを積み重ねてきた私ですが、どんな形にせよ、我が神大水泳部を心から愛した者のひとりとして認めていただければ幸いです。

あれは、確か監督になった年のことだったと思いますが、六甲台に足を運ぶのがとても楽しみな行事のひとつである月見の宴でのこと、現役も〇Bもほろ酔い気分を通りこし、宴たけなわとなった頃、すっかり恒例となってしまった、プールへの落としし合いが始まったのです。我が身に降り注ぐ災難を予想してか、年輩の〇Bの姿はすでになく、私をはじめ、若い〇Bがなごやか？に思い出話に花を咲かせていた時のことです。辺りは、そろそろそんな穏やかなムードも壊れ始め、あちこちで血み泥ならぬ、水浸しの戦いが繰り返される中、今が潮時だと思った〇Bは、何食わぬ顔で平静を装って帰り支度を始めていたのです。ところがこれだけで終わっては面白く

ない、OBもひとりぐらいははめてやれと思ったのが運の月、

「おい、おまえら、その辺の若いOBもはめてやれ。」

と、大声で怒鳴るが早いか、ピラニアのように寄ってきた現役部員たちは、なんと、もうとっくに着替えもすまして帰ろうとしているこの私を、荷物もろとも一瞬のうちにプールへ突き落としたのです。それは私自身はもちろん、囲りにいたOBたちも予期せぬことであり、彼らは、こりゃいかんとばかりに先輩の私を助け上げようともせず、我先にと門の方へかけ出したのでした。私は、とりあえずは自力で上がったものの、以然、相も変わらぬ水戦争の最中、為す術もなく、しかたなく二、三の部員をつかまえてジャージの調達に走らせたのでした。

帰りの車中、水着の上に上下ちぐはぐなジャージ姿、おまけに靴はぐっしょり濡れたまま、しかし、はめられたことに対する怒りやみじめな気持ちは不思議とわいてこず、むしろ、うれしさに近い気持ちすらしていたのです。何と言いましょうか、現役部員たちは、私を落としてやろう、落としてもいいだろうというぐらい私に対して親密な感情を持っていたのだと思ったのです。つまり、私の思考も彼らの思考も同じレベルにあったということです。それはとりもなおさず、私が彼らと同じレベルで水泳について関心を持ち、また自分自身も時間の許す限り、練習を重ねてきたので、記録に対する意欲も現役部員のそれに近いものを持ち得たからでしょう。

毎年4回生が卒業し、そして新入部員が入ってくる中で、私も学生時代が遠くなり、名前と顔が一致しない部員の数も増えています。また、部員の方も私と水泳部をつなぐ数々の出来事を知る者がだんだん減ってきています。それは、時代の流れとはいえ、本当にさみしいものです。最近、顔を会わしても挨拶さえしない部員もいます。しかしそれは、部員だけが悪いのではなく、私自身が少し疎遠になったためもあるのです。

神大水泳部はこれからもずっと存在し続けるでしょう。六甲台のプールで泳ぐ人間は変わろうとも、プールはずっと私に来てくれることを望んでいるでしょう。かび臭い部室も、囲りのフェンスも、風呂も、そしてプールを囲む木々も、何もかもがまだまだ変わっていません。なつかしさそのものです。そのなつかしさがある限り、また気軽に部員たちに声をかけることでしょう。一緒に泳ぐことでしょう。それだけで名前も知らない部員たちとも心が通じ合うのです。監督をあまり意識せずに過ごした2年間でしたが、私にとっては本当に楽しい日々でした。一緒に泳いで、一緒に飲んで、そして心が通い合い、若い人たちの考えに触れ、私自身の物の見方も広まりました。

監督になってあわてて古い水球の本のページをめくったり、トレーニング方法の勉強をし直したりしました。春合宿の練習計画の相談を受け、親身になってアドバイスしました。ある時は、新居に入れ替わり立ち代わり部員がおしかけてきて困ったこともありました。夏休み、練習を見

に行くつもりで六甲台に上がったつもりが、気がつくとも自分も一緒に泳いでついには、最後まで練習をこなしてしまっただけでもありました。合宿では、疲れ切った部員たちの喜ぶ姿が見たくて、差し入れを山ほど抱えて早足で宿舎に向かったこともありました。また、久しぶりに酒を飲み交わして、酔いつぶれてしまっただけでもありました。そして、これからは私は水泳を通して部員たちの心に接していくことでしょう。私が水泳を続けている限り、彼らの内にも自分の姿を見つけることでしょう。

現役諸君よ！ 水泳を水泳部だけで終わらせることなかれ。暇があつての水泳は、だれでもできる。自分の仕事を持ち、自分という唯一ひとりの人間として生きていく上で、肉体と精神を磨きあげる一手段として大いに記録にも欲を出してほしい。人生の目標を立て、とことんやり抜き、進むべき道を、勇気を持って力強く踏み出してほしいのです。どうかいつまでも夢を追い続け、決して自分を見失わないでください。そして、はるか東シナ海を隔てた大陸にも、君たちと同じく夢とロマンを追い続けている男がいることを忘れないでほしい。

アメリカ雑感

(昭59 EII) 金 一 波

ユニバーシアードが神戸で開かれていたのが、つい先頃のように感じつつ、ソウルオリンピックが目前にせまっているという事に月日の立つ早さを痛感しております。“少年老いや早く功なり難し”

話はかわり、ユニバーでは幸運にも、世界一速い男、マットビオンディをはじめとした世界のトップスイマーの泳ぎをまのあたりにすることができ、彼らのパワー、スーパーテクニックに酔いしれました。しかし、水泳界にたずさわる私としては酔ってばかりでは何も始まらないと、とにかく少しでも彼らの強さの秘訣をさぐるべく、水泳王国アメリカへ旅立ちました。

アメリカでは、神戸ユニバー水泳チーム総監督フィリップ＝ダー＝コーチが率いるNOVAアクアティックを中心に、ノートソートンコーチ率いるゴールデンベアアクアティック(マットビオンディ、長崎宏子所属)や、ピーター＝デーラント＝コーチ率いるUSC(南カリフォルニア大学)、日本の緒方らが水泳留学しているサンタクララSC、などを見て回りました。

まず一番に感じたことは、とにかく理屈ぬきによく練習するということです。日本にいるとついつい科学的な練習方法や合理的なシステムに目を奪われがちですが、とにかく彼らはよく練習します。年間シーズンとしてはそんなにハードなシーズンにもかかわらず、たいいてい毎朝9000ヤード、午後も9000ヤード程度泳ぎ込んでいます。このような基礎的な積み上げの上に

はじめて科学的な練習法や細かいストロークワークなどが存在するという身をもち感じました。又、それらのハードトレーニングも、けっして強制や、国や学校の名誉のためという義務感でなく、本当に心のそこから自分のため、自分がエンジョイするために苦しい練習をこなしています。だから必然的に本当にやる気のある者だけが生き残り、そうでない者は落ちこぼれていきます。そんな厳しさから本当の名選手が生まれてくるのでしょう。一日たかだか2時間程度の練習で、勉強と両立できない、自分の自由な時間がほしい、クラブにそくばくされたくないなどのたまうどこかのクラブ員など、一瞬にして落ちこぼれるのは明白です。つけ加えるなら、USCらピオンディのいるCalバークレ大学などは、アメリカでも有数の名門校で、彼らは又勉強も本当によくします。(我が愛する神大水泳部諸君、クラブ一つでけんやつは何をやってもあかんだよ!) 自分のためにがんばるということは、わがままで自分勝手にやるということではなく、自分自身に厳しくするというを私自身深く感じさせられました。又、たまたまUSCでは、現在、全米で売り出し中のエディ＝リー＝コーチひきいるテキサス大との対抗戦を見ることができました。試合はビッグゲームというより、調整をかねた対抗戦という感じでしたが、泳ぐ1人1人は実に真剣で、又、日頃あれほど自由きままな選手たちが、チームのため一丸となって応援している姿をまのあたりにすることができました。(うちの市大戦、三商戦とはえらい違いでした) 日頃は、やれ先輩、後輩の関係とか、規律や統制といっているのに、試合になると自分の事だけでチームの事を考える、日本の大学チームとは大違いでした。本当のチームワークとは何か、チーム愛、母校愛とは何か、よく考えさせられました。とにもかくにも、アメリカはすごい、強いの一言でした。

とにかく本年度は時間のゆるす限り、後輩達の指導にあたり、少しでも神大水泳部を強くしたいと思っております。(ほんまに日大ぐらいが日本の大学のチャンピオンでは、日本水泳界の再建はないよ!)

最後に、この誌面をかりまして、アメリカ滞在中、たいへんお世話になった佐敷定雄先輩(A22)に、心から感謝します。(先輩は美しい奥様と2年前からロスに駐動しておられましたが、この凌泳が発刊するところには帰国されてると思います)

又、アメリカへ留学中の緒方君(サンタクララ)、長崎さん(ゴールデンベア)、宅和さん(MOVA)らのソウルでの活躍を心から願っています。

p.s. べ切りに追われ、くだらない雑文になったことをおゆるし下さい。べ切りはなくても、もともと文才のない私ですから……。

昭和61年度 凌泳会総会議事録

昭和61年5月18日 於 六甲台教官食堂

○ 出席者

小山賢之助(学 1)	石井 義章(学22)	佐藤 一夫(J 3)
榊原 修造(B 3)	富岡 道雄(B 4)	岡田 重義(B10)
井上与志男(J18)	酒井 正人(A26)	上田 剛弘(B29)
山本 隆(E129)	白子 靖則(B30)	酒井 潤(E31)
杉野 誓(T31)	土井 健治(E33)	藤本 栄美(準)

他 現役部員一同

1. 60年度物故会員へ黙悼
2. 会長挨拶 小山 賢之助 氏
3. 御出席OB自己紹介
4. 議 事

(1) 凌泳会

(イ) 60年度経過報告

- 日本マスターズ協会に凌泳会として登録
- 凌泳誌に関するアンケートの集計報告
- ユニバーシアード神戸大会へ役員として参加

(ロ) 60年度会計決算報告・61年度予算案

- 修正無しで承認 (別紙参照)

(2) 水泳部

(イ) 現役部員自己紹介

(ロ) 60年度会計決算報告・61年度予算案

- 修正無しで承認 (別紙参照)

(3) 凌泳会会則改正について

(イ) 第11条

- 『1. 正会員は、会員として年額6,000円を当会へ納入する。但し卒業後、44年を経過した者は、会費を免除する。
2. 準会員は、会費として年額3,000円を当会へ納入する。
3. 会員相互間で結婚した場合は、夫婦で年額6,000円を当会へ納入する。』と改正

(ロ) 第12条

『運営委員 若干名』を追加

(ハ) 第20条

『(運営委員) 運営委員は、会の円滑な運営を行う為に会費徴収の促進を図る。』という1条を追加

(ニ) 旧第20条～27条

各1条ずつずれる

(ホ) 第29条

『本会則は、昭和61年5月18日より発効する。』

(4) 凌泳会役員改正・承認

(イ) 幹 事 長 岡田 重義氏(B10)就任

(ロ) 会 計 幹 事 山本 隆氏(E129)就任

(ハ) 中 部 支 部 長 井上 隆史氏(B10)就任

(記録 奥村直樹
守沖 教)

支部だより

凌泳会東京支部夏のつどい報告

第一回世界マスターズ水泳大会が終わった7月23日(水)に、凌泳会の夏の集会を行いました。世界マスターズで見事にメダルを獲得された小山会長、田淵先輩、それに阿部君等からその披露があったりして、水泳人のつどいという雰囲気でした。季節も夏、ビールや林先輩からのウィスキーでほろ酔いの9時少し前散会しました。S 41年卒の方々が初参加の日野さん初め4名も出席されました。

出席者

小山賢之助(S・7)	草野 嘉一(S・7)	山口 宗樹(S・16)
平井 洋(S・16)	関山 道雄(S・28)	田淵 五郎(S・30)
細田 忠雄(S・33)	浅間 啓介(S・37)	林 荘八郎(S・38)
武政 英幸(S・39)	中畑 勝明(S・41)	山口 幸郎(S・41)
樋口 周平(S・41)	日野 康(S・41)	得丸 哲士(S・46)
呉竹 正人(S・59)	宮部 高博(S・42)	阿部 洋三(S・42)

幹事 宮部、阿部

凌泳会東京支部忘年会報告

12月9日(火)、日比谷のいつもの凌霜クラブで東京支部の忘年会を行いました。

その日は余り寒くなく、この種のミーティングをひらくにはまずまずの天候でした。有楽町から日比谷方向へ歩いたのですが、通り路にはXマスツリーもなく静かな雰囲気におタイムの解放感を感じました。

凌泳会の忘年会は温かい。出席メンバーが揃ってビールにはじまり、林先輩差し入れのサントリーウィスキーでの水割りにかわる頃には、ほどよく酔もまわり話題が飛び交う。各メンバーがひと言づつ喋る。山口宗樹先輩から小山会長への御注告には驚きました。「会長、電車が来るからと言って階段の2段とびは危険だと思いマース。」そのほか、神大の古い話題や新しいマスターズのことなど……。余韻を残しながら、P:M9:00頃散会しました。

出席メンバー

小山賢之助(S・7)	森 芳夫(S・16)	山口 宗樹(S・16)
------------	------------	-------------

井川 俊夫 (S・20)	田淵 五郎 (S・30)	石本 茂樹 (S・33)
永野 一彦 (S・35)	黒田 英雄 (S・35)	上村 久治 (S・35)
山田 貴彦 (S・37)	荒井 康之 (S・38)	林 莊八郎 (S・38)
武政 英幸 (S・39)	中畑 勝明 (S・41)	後藤 信人 (S・54)
幹事 宮部高博 (S・42) 阿部洋三 (S・42)		

以上17名でしたが、若い方々是非とも御参加下さい。

文責 宮部高博

阪 神 地 区 懇 親 会

(27学) 石井義章

昭和61年5月18日、恒例の凌泳会総会を六甲台で開いた後、席を改め三の宮駅前のKUC(神大クラブ)に於いて懇親会を持ちました。

毎年この日の為になぞわざわざ東京から御参加頂いている小山会長を始めとして古賀先輩、荻野先輩等古参OBから卒業間もない若手迄、17名の参加を得て楽しい一時を持つことが出来ました。

阪神地区ではこの5月の総会の後の懇親会と、暮れの忘年会(会場、大阪)を恒例行事として定着させ、会員相互の親睦を更に深めたいと思っておりますので、今後益々多数の御出席を頂きますようお願い申し上げます。

出席者氏名

小山賢之助 (S・7)	古賀 克己 (S・11)	荻野 茂希 (S・18)
三宅 林 (S・21)	石井 義章 (S・27)	佐藤 一夫 (S・30)
榊原 修造 (S・33)	平岡 昭朗 (S・38)	丸山 昱也 (S・40)
酒井 正人 (S・53)	上田 剛弘 (S・56)	白子 靖則 (S・57)
山本 隆 (S・57)	杉野 誓 (S・58)	金 一波 (S・59)
藤本 栄美 (S・59)	吉田不二彦 (S・60)	

会員からのお便り

凌泳総会案内状返信より

○岸 楯夫(特)

元気に過しております。切角のご案内でしたが、当日、先約があり欠席致します。ご参会の皆様によりしくお伝え下さい。ご盛会をお祈り致します。

○溝口 卓郎(大13 高18)

13日に転居を了しました。目下整頓に大わらわです。盛会を祈ります。

○高森 安夫(大14 高19)

目の調子が悪くて今外出がむづかしいので欠席。御盛会を祈る。

○足達 英彦(大14 高19)

高令84才、余り健康デ有リマセンノデ勝手ナガラ御ユルシ願イマス。

○木村 芳雄(大15 高20)

先ず先ず元気に暮しています。何分私のゴルフ好きは常規を逸しているとも言いましょうか、82才の当今でも週に2~3回はプレーしますし、歌舞伎やオペラもマニアに近いほうで。更には又、会社の仕事も診ていますので寸暇もなくよく動き廻っています。お陰で病気が遠のいているようです。

○植木 実就(昭6 高25)

御盛会をお祈り致します。

○小山賢之助(昭7 学1)

凌霜誌の研表の記事傑作です。凌泳会の面目躍如たるものあり、今後共OBが現役の世話をし、役員その他の奉仕をしてやって頂きたいと思ひます。

○草野 嘉一(昭7 学1)

お蔭様で元気しておりますが、近頃ほとんど泳ぐことがなく残念に思っております。小生も今年1月で満77才となりました。

○宮本 伯夫(昭9 学3)

3月末突然発病、入院加療、4月上旬退院、目下静養中です。

御盛会を祈っています。残念ながら出席できません。皆様に宜敷くお伝え下さい。

○本間孝之助(昭10 学4)

凌泳会総会の御案内拝誦しました。半世紀も以前の六甲台プールで練習した思い出、懐古の念を禁じ得ません。先輩、同僚、その他皆様様に宜しく御鳳声下さい。残念ながら遠路の事とて欠席させて載きます。

○池谷 俊一(昭10 学4)

体調を崩し、療養中の為欠席致します。61年度の御活躍を祈ります。

○小池 三郎(昭11 学5)

凌泳会総会のご案内ありがとうございます。小生も至極元気にしております。皆様の本来のご活躍を期待いたしております。ご盛会を祈ります。

○太田 正元(昭13 学7)

古稀を過ぎて健康も上々。最近週二回よみうりランドの水泳に行っています。これも水泳のおかげと思っています。本年もよい成績を挙げる様祈っております。

○大内 義仁(昭14 学8)

総会の御案内いただいて有難く拝見しました。当日は地元で会社関係の会合がありますので、残念乍ら欠席します。盛会を祈ります。体調を整えて若さを保つため、室内プールへ出かけています。河童100まで泳ぎ忘れずとゆきたいものです。

○大西 真博(昭15 学9)

新緑の候になると六甲山の景色とプールを思い出します。最近、茅ヶ崎市の室内プールで家族と泳ぎを楽しんでいます。これからも続けます。現役の方ガンバレ。

○山口 宗樹(昭16 学10)

総会にもなかなか出席できず申訳なく存じています。小生、昨秋より仕事の第一線を退きまして、最近では健康第一の生活を送って居ります。残った人生を如何に有効に世の中の為にと考えて居ります。現役諸兄姉の本年度の更なる御活躍を祈って居ります。

○前田 寿(昭16 学11)

OB会にだけでも出席したいのは山々ですが、当日箱根で凌霜11回の全国総会があり、それに出ます。御参加の皆様様に宜しくお願ひします。

○平井 洋(昭16 学11)

風吹べて大鯉のほり 力見す

生き延びし 負目の淵の桜かな

平井 洋城

○木村京一郎(昭17 学12)

昨年4月から勤務先変りました。福島市宮代乳児池 福島女子短期大学

○山川 初雄(昭18 学13)

当日は小生、旧名古屋高商同期の会合が伊豆修善寺にてあり、それに出席致しますので、凌霜会総会は残念ながら欠席致します。悪しからず。

○富中 暁(昭18 学13)

今年は4月末迄の累計水泳距離40,200米、サミットの御蔭(?)でヘルス・クラブ(オークラ)は1週間閉鎖され大ムクレです。もっとも東京には殆んど居ませんでした。皆様の御健康を祈り上げます。

○山内 利男(昭20 学15)

商社冬の時代に鉄冷えが重って苦難の数年を経験しましたが、今年の4月から地区担当常務として昔とった杵柄かと言うか25年駐在したインド専任となり、5~6月には時間をかけて訪印し出直し奉公の予定です。

○三宅 林(昭21 学16)

当日お昼に親戚の結婚式あり、総会には出席出来ません。

○山越 重義(昭23 学17)

今回も欠席です。皆さんによろしく。

○大西 繁(昭25 学20)

会費のみ出席したいのですが振替用紙を送って下さい。幹事には何時も申し訳ありません。

○石井 義章(昭27 学22)

ユニバに明け、ユニバに暮れた昭和60年でした。役員として御協力頂いた皆様、御苦勞様でした。その上凌泳誌のために多数の玉稿をお寄せ頂き有難う御座いました。重ねて御礼申し上げます。

○今井 政一(昭24 専1)

相変わらず元気でやっています。御出席の皆様宜敷くお伝え下さい。

○田渕 五郎(昭30 B3)

返事遅れて失礼しました。会社の旅行と重なり今回も欠席させて頂きます。先日日本マスターズ水泳短水路大会に出場した結果は、別信にて石井先輩に報告します。次回は世界マスターズ(7月上旬於東京)に挑戦の予定です。

○堂本 直正(昭30 T3)

勝手ながら欠席させていただきます。皆々様に宜しく。半年前からの計画で香川の友人と旅

行を計画しておりますので、石川県輪島より海上50 Kmの小さな離島「鮎島」へ行きますので。近況、まずはつつがなくサラリーマン生活を続けております。

○富岡 道雄(昭31 B4)

総会には出席させていただきますが、当日夕刻より大津市にて得意先接待がありますので、申し訳ありませんが16:00頃には退席させていただきます夜の懇親会は欠席させていただきます。悪しからずご了承下さい。

○松田 司郎(昭32 J5)

先約のため欠席致します。相変わらずプールへ通っています。200mフリーを計ったら3分20秒でした。もがいても、もう駄目です。出席の皆様宜しく。参考迄、私と同年代のマスターズの記録は2分31秒です。

○北村 敏(昭34 E7)

ご無沙汰ばかりで心苦しく思っています。5月15日より海外に出張する予定ですので残念ながら出席できません。相変わらずオートバイを売っておりますが、最近の急激の円高で対応に苦慮しております。今年1月住所変更しました。近くへおいでの折はご連絡下さい。

○栄川 泰介(昭34 E7)

相変わらず東南アジアの山林へのお出張続きで、今回も5/6~20迄スマトラ方面に出かけます。御出席の先輩諸氏に宜敷くお伝え下さい。毎度の欠席申訳なく思っています。

○山本 哲弘(昭34 B7)

残念ながら今年も欠席させていただきます。皆様によろしく。

○柳本 正雄(昭37 B10)

元気で頑ばっています。御盛会であります様に。

○井上 隆史(昭37 B10)

ご無沙汰しています。名古屋での単身赴任の生活にも少しは慣れ、休日で名古屋にいる時には、出来るだけプールに通おうと思っています。皆様によろしく。

○萩原 武(昭37 T10)

早いもので九州暮しも5年が過ぎました。凌泳会も水泳部もこの間皆様の御尽力御努力で大変隆盛となり心から御慶び申し上げます。おかげ様で家族ともども元気でおります。盛会を祈ります。

○岡田 重義(昭37 B10)

近くに居りながらあまり御世話が出来ず済みません。今年はまだ一人新入社員を採りましたので時間が出来るハズですが、何とか時間をひねり出して六甲台へも行きたく思っています。

御健勝を祈ります。

○高岡 保宏(昭37 P10)

当日あいにく仕事の関係での行事をもっています。総会、懇親会ともに出席出来なくて残念です。皆様にどうぞよろしく。

○米田 啓祐(昭37 P10)

御案内ありがとうございました。ここ数年、泳いだりトライアスロンに挑戦したり楽しんでいましたが、この4月から仕事の関係で当分きびしい生活が強いられそうです。

○浅間 啓介(昭37 E10)

昨年同期の井上君がマスターズ水泳に誘ってくれたのを契機に久しぶりで競泳し昔を思い出しました。ウエイトコントロールの点からも是非適当なスイミングクラブに入りたいと思っています。六甲台に参りたい気持ちはヤマヤマですが、機会が無くて残念です。いずれ又。皆様によろしく。

○荒井 康之(昭38 B11)

4月に異動があり(会社)20数年間なじんだ営業ラインからスタッフ部門に変わりました。今年の活躍をお祈りします。

○平岡 昭朗(昭38 P11)

今年、近くの学校へ転動しまして通勤には便利になりましたが相変わらず野球部担当で日曜日がありません。総会は失礼しますが懇親会には出席したいと思います。

○林 莊八郎(昭38 E11)

相変わらず酒の販売に携っています。そろそろ成人病に気をつけようと自分に言いかけながら飲んでいきます。

○武政 英幸(昭39 B12)

今年は珍らしく泳いでいます。市川へックと休日には柏のトーキンプールで休み休みで千M位が勢一杯ですね。

○前田 和彦(昭40 J13)

福岡在住あと2ヶ月で5年目を迎えます。すっかり気に入り、昨年春からの転勤の話をはかしくぐりぬけ今日に至りました。あと2年位は居つづけたいと思います。福岡に来てから海釣り、特に五島方面の大物釣り(石だい、ヒラマサ他)に熱中しています。

○手嶋 忠之(昭41 S14)

総会、親睦会、失礼させていただきますが宜敷くお願い致します。この5月25日に開かれます日本マスターズ水泳短水路大会には出てみようかと考えております。皆様によろしくお伝え下

さい。

○阿部 洋三(昭42 T15)

世界マスターズ東京大会に出場のため、週3回の練習を行なっています。

○玉置 明(昭45 E18)

相変わらず忙しく又楽しくやっています。此方へ来て5年半過ぎ、そろそろ転動ではないかと思っています。いつも乍ら凌泳会行事には出席出来ず残念です。幹事殿にはいつも乍らご苦労様です。

○木村多加緒(昭45 J18)

大阪から広島へ転動により引越しました。

○菊田 修三(昭45 T18)

住所変更しましたので、名簿の方の変更もよろしく。

○井上 史郎(昭45 B18)

おかげさまで家族全員元気でくらしています。今年は都内の担当になり毎日ラッシュアワーと戦っています。子供も大きくなり両親と離れて遊ぶようになりました。この連休はサミットで近くで遊ぶ予定です。

○以西 吉一(昭48 T18)

当日社員の結婚式に招待されており出席できません。宜しく願います。現役の皆様にも今年も頑張って良い成績を納められますように。

○小林 育夫(昭46 T19)

折悪しく出席できませんがよろしくお願い致します。小生も、月1~2回程度プールにつかっています。

○米田 章(昭47 J20)

昨年の12月に本社に異動となり、広島を担当することになり今年3月25日に広島に引越しました。8年間の営業所の生活と57年から4年間の営業所所長という現場を離れ、また広島での生活と少々とまどい気味です。広島の住宅地は廿日市町にあり、宮島から少し広島寄りです。海の見える場所にあり緑豊かな住宅地にしたいと思っています。

○佐敷 定雄(昭49 A22)

アメリカのロスへ滞在中にて失礼します。

○植西 勝(昭52 S22)

今年から勤務校が変わりました。池田市立秦野小学校で慣れない毎日を過ごしています。

○家本 博一(昭50 E22)

名古屋に住み5年がたちましたが、学生相手の仕事をしていると自己の学生時代がとくになつかしく思われます。会員諸兄の? 発展を祈り上げます。

○瓜生誠二郎(昭50 E23)

只今、禁煙中、シェイプアップのためにも今年こそ泳がねばと思っている今日この頃です。

○北川 敏行(昭51 J24)

今4月1日付で転勤となりました。(東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命保険業務開発部 03-283-8267) 61年皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

○平石 康(昭53 P26)

4月20日(日)に行われたマスターズ神戸大会に初めて挑戦しました。30~34才の部で、意外にも金と銀メダルをいただきました。体型はどんどん太めになっていますが、自分もまだ捨てたものではないと自信をもちました。また5年後には挑戦したいと思います。今度はフルマラソン、その次はトライアスロン、なかなか練習の時間はとれないのですが、目標をもたないと健康や体力は維持できないように思います。現役諸君も頑張ってください。

○後藤 信人(昭54 B26)

相変わらず月2~3万mは泳いで居ります。大阪で2年、東京で2年勤めた会社の水泳部のCaptainも本年度からは解放され、今まで以上に自由気ままに泳げそうです。又、長女は幼児コースの中でジャリンコと呼ばれ、次女はベビーコースの中で一番の美人と言われて居ります。本年も現役諸君の活躍並びに先輩、同輩、御諸兄の御発展をお祈り申し上げます。

○酒井 正人(昭53 A26)

最近ではマラソンに凝っています。5月には西宮で行なわれる10マイルレースに出場の予定です。30代からのスポーツは、何ととってもマラソンですね。

○阿部 誠次(昭53 J26)

職場の住所が下記に変わりました。〒163 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル20階 総務部秘書室法務課 TEL 03-342-1231

○平野 輝雄(昭53 P26)

私事で、5月18日出席できません。みなさんによろしくお伝え下さい。本年度も現役諸君、がんばって、よい成績を残してね。

○木下 修一(昭53 P26)

まだ生きています。正直一途に生きています。凌泳会費をまだ納めておりません。5月中にはどんなことをしてもお支払いしようとする覚悟でおります。雑務に携っておられる方、マ

ネージャーの方々、いつもごくろうさまです。

○星合(旧姓栗野)正子(昭53 S26)

昨年11月に結婚して、現在名古屋に住んでいます。住所、氏名ともに変更しましたのでお手数ですが名簿の訂正をお願いいたします。今年も現役の皆様の活躍を期待しています。

○館谷 彰司(昭55 T28)

5月11日結婚することになりました。みなさま近くにおいでの際はお立寄り下さい。

○土井 祐二(昭55 J28)

家族が1人増えて(彩子といいます)楽しくやっています。御出席の皆様宜くお伝え下さい。又、現役の方々の御健闘をお祈り申し上げます。

○芝 暢彦(昭56 E29)

卒業後、一度もプールを見ていない状況です。体重が気がかりですが昔の体型を維持すべく頑張っております。

○亀井 尚之(昭57 T29)

住所が変わりました。

○武内 啓子(昭56 A29)

長女麻耶(6ヶ月)と毎日忙しくしています。

○富岡 洋三(昭57 B30)

近々会社が合併することになり仕事がいよいよ忙しくなってしまった。都内のあちこちに屋内プールはあるので1ヶ月に1度は行こうと思っているのですが……。

○後藤 芳乎(昭57 E30)

昨年(60年度)は5月から約10ヶ月仕事でジャマイカに行っておりまして為、水泳部の活動に参加することができませんでした。今年は日本にいそうなので東京近辺の試合には応援に行きたいと考えています。今回の総会は都合により欠席させていただきます。

○嶋田 陽子(昭57 P30)

4月に主人の転勤に伴い東京へ転居しました。連絡物等こちらへ郵送して下さいますようお願い致します。

○土井 紀子(昭57 P30)

彩子(S・60.8.16生)の相手で1日が終わります。去年はついに泳げませんでした。今年こそはノと思ってはいるのですが入る水着が……。皆様の御活躍をお祈り申し上げます。

○金 一波(昭59 EⅡ31)

当日、兵庫県SC協西部地区BC級大会を主管することになり、残念ながら出席できません。

試合が早く終われば、懇親会だけでも参加したいと思っていますが……。みな様によろしくお伝え下さい。

○太田 雅彦(昭58 A31)

非常に忙しくて頭の中がパニック状態です。運動不足のはずなのに体重が2kgも減ってしまいました。水泳部の皆様は元気にやっていますか? 今頃はきっと新入生を何人か加え、今年度の展望などを語りあっていることでしょう。競泳, 水球, 麻雀に頑張ってください。

○石本日 AND 子(昭58 P31)

去年3/27に結婚し、今年1/17に長男“甲六”を出産。現在、育児休業中で、子育てに奮闘中です。毎日失敗ばかりですが、それでも子どもはスクスク育っているからオソロシイ。“甲六”とは六甲をでんぐり返す程のBigな男になってほしいとの願いをこめた名ですが、さてさてどんな子に育つのやら……。ナント出べそで、色黒、丸鼻です!! 今は欠席ばかりで申しわけありませんが、そのうち子づれで伺います。

○久保田勝己(昭59 E32)

行事に参加できなくて残念です。ご参加の諸兄に宜しくお伝え下さい。私の方はいたって元気です。

○吉岡 宏之(昭59 J32)

皆様ごぶさたしております。昨日大阪に戻ってきて早や1年を向えようとしております。初めての保険の営業ということで毎日遅くまで残業が続いております。さぞかしやせ細ったと思いきや、皆様の予想通り着実に太り始めております。もうかつての勇姿で皆様の前に登場することはないと思います。今尚現役で頑張っていらっしゃる方がうらやましい次第です。最後に現役諸君/ せいぜい気張ってやノ

○山野 和則(昭59 A32)

あいかわらず週2回、3000mほど泳いでいます。新歓コンパも総会も行けず申し訳ありません。また試合の日程を教えてください。

○呉竹 正人(昭59 J32)

住所変更願います。毎日遅いので寮から放り出されました。遊びに来て下さい。

○谷水 利行(昭59 J32)

昨冬のスキーで新4年生といろいろ話をしすぎて分BIGになったなァと(自分が育てたわけでもないのに)本当にうれしく思いました。私は元気にはしておりますが、今では競泳などという野バンな行為をする勇気がありません。

○浦野 敏明(昭60 B33)

入社して2年目、仕事にも少しずつ慣れてきました。コンピュータの営業として東京の街を歩き回っている今日この頃です。水泳も月に2回ぐらいのペースでやっています。とりあえず元気でやっています。

○土井 健治(昭60 E33)

素晴らしい青春の汗をながすことはできませんが、仕事の汗をながすことに励んでがんばっております。皆様に宜しく!!

○川島えみこ(昭60 P33)

1月から1人暮らしを始めました。いろいろな失敗を経験して、やっと慣れてきたところです。

○坂東 美枝(昭60 P33)

多分総会の日、手術後間もないため出席することができないと思います。簡単な手術ですが、1週間ほどは安静にとのことです。(恥かしい話ですが、親知らずが出てこないまま、中で炎症をおこしているの、たいそうなことになってしまいました。皆さん歯は大切に……ああ、なさない)

○越智 順子(昭60 P33)

今シーズンの皆様の御活躍に期待しています。健康管理を怠らず、おひとりおひとりが十分な成果をあげられますように。

○池辺 正雄(昭61 E33)

梅田でコンパの有るときは阻よろしく。06-371-7427 ☎06-363-3131
※(特にGALの多いときに限る!!)

○黒川 良介(昭61 E34)

大河の流れを横に見て学生時代より学生のような生活を送っています。その志し、鉄より熱く円より高し、休みの日には50mの温水プールでスイスイ、楽しい毎日、酒はうまいし、姐ちゃんはきれい。経費節減なんのその、金はなくともくらせる世界、それが田舎だ、水島だ。こんな天国から出たくはないが、気が向いたら顔出してやるけえ、がんばれよ、水泳部。

○太田久美子(昭61 L34)

今日(4/27)から会社は9連休、あさって、なつかしのいとしの神戸へ帰ります。あの涙しての別れから1カ月たって今はとっても楽しく“OL”しています。でも会社内で一番たくさん外線のかかってくる電話が私の机の上に置かれているんです!

○木村 典子(昭61 P34)

毎日毎日、あたらしいことばかりでわけもわからず、あわただしい生活をおくっています。

今日、学校の生徒（小2）が「早く夏にならないかなぁ、そしたら木村先生がおよいどうとこみれるのに」といってくれてうれしかったです。六甲の山水は、まだまだつめたいでしょうが頑張って下さい。

○小島 みか（昭61 T34）

毎日、大学の横を通りながら会社に行っています。みんながとってもなつかしくって会いたくてたまりません。早くお嫁さんになって遊びまわりたいです!? みかちゃんに愛の手を!

○平野 祐子（昭60 甲南女大）

早いもので勤務二年めになりました。人事課なので入社希望の履歴書の写真を見るぐらいが当面の楽しみです。むなしい。

○足立 小砂（昭60 YMCA専門学校）

元気です。新歓コンパも例のごとく出席させていただきます。（遅刻します）

月見の宴案内状返信より

○犬童 一男（特）

ご無沙汰しております。当日は学会の用事で上京している予定ですので失礼いたします。

○岸 樞夫（特）

ご案内有難うございました。当日先約があり欠席致しますが、ご盛會を祈ります。日本学生で田淵五郎君と会い、短時間でしたが昔話をしました。

○溝口 卓郎（大13 高18）

男女共1部の成績結構でした。来る年も頑張って下さい。

○川北 正喜（大13 高18）

幸に健康で日々是好日と遊びおります。

○高森 安夫（大14 高19）

何分高齢にて遠方へは出かけられないので失礼します。よい成績をあげられますように。

○足達 英彦（大14 高19）

今年もはや84才、老年、歳月は流れ早きものと我ながら驚いている。学生時代、柔道をやっていたお蔭か健康に毎日を通しています。私達夫婦お蔭様で共に健康にノンビリと老後を通しています。青年時代に水泳をやったり柔道をやったりしたお蔭でしょうか。若い時には身体を鍛えておく事ですね。

○木村 芳雄（大14 高19）

割合い元気にゴルフ三昧の生活とオペラや歌舞伎見物と好き勝手な余生を送っています。

○北条 貞夫(昭6 高25)

小山会長のカナダでのマスターズでの御健闘振りは頭の下る思いでした。

○三吉 吉郎(昭6 高25)

今年7月末日退職し、放免となりました。水より陸に上がってマスターズで頑張っています。昨年は全国大会(鳴門市)M75クラス砲丸投げで優勝しました(日本新で)。今年は東京国立競技場で10月18日~19日に参加します。乞御期待。

○植木 実就(昭6 高25)

いつも御案内いただき有難うございます。本年5月以来病臥静養中のため失礼致します。本年度は立派な御成績を挙げられお目出度うございました。御出席の皆様宜敷く。御盛會を御祈り致します。

○小山賢之助(昭7 学1)

第1回FINAMSI世界マスターズ水泳選手権大会

50 平泳 一着

100 平泳 一着

200 平泳 二着

日本インカレ応援に行きませんでした。御許し下さい。

○草野 嘉一(昭7 学1)

最近泳ぐこともなくなりましたが、お蔭様で元気です。今年5月~6月はスコットランド、北イングランド及び南フランスの旅を楽しんで参りました。

○山田 常雄(昭7 学1)

忙しくしていることが健康法の一つと心得ています。

○宮本 伯夫(昭9 学3)

平素は比較的壮健ですが、矢張り年齢が年齢でよく物忘れして困っています。泳ぐ事はありません。でも上筒井のプールがなつかしいです。卒業して14年応召する迄神戸インターカレッジの主事をしていた頃を思い出しています。

○古賀 克己(昭11 学5)

元気で毎日通勤しています。かねてから思っていることですが足腰達者なうちに遠い所を先に旅行するという事、8月末から9月始めにかけてカナダ旅行(ナイアガラ、カナディアンロッキー)をしました。老夫婦が他の人に迷惑をかけまいと努めながらついて廻る形です。ではお互に元気でいましょう。

○小池 三郎(昭11 学5)

神大水泳部、益々おさかんなご様子、大慶です。小生相変わらず壮健にて目下好きなことをやって過しております。まだまだやることがあります。ご盛会を祈る。

○伊藤 英二(昭13 学7)

月一回医者通いですが、許可を得たのでポツポツゴルフ場へ行っています。昨年は勿論ですが本年も泳いで居ません。凌泳春秋会に出席し、久しぶりに懐しい顔ぶれに会いました。学7が丁度中間ぐらいです。毎年メンバーが増えるでしょう。特に小山さんが元気な間は。東京凌泳会は夜の部のため欠席にします。小生入院中に野村先輩と7回の富岡君が亡くなり誠に残念です。

○太田 正元(昭13 学7)

本年も優秀なる御成績で誠に結構でした。私は相変わらず健康で生活しています。週二回の水泳と旧友との麻雀で(読売ランドグリーンクラブ)大変幸福です。

○大内 義仁(昭14 学8)

今年の夏はえらく暑いのでゴルフは敬遠して専らプールに通っています。お蔭で体調も上乘、ピンピンしています。諸兄、ご健在の程。

○山川 初雄(昭14 学8)

前略、水泳部部員各位、本年度も立派な戦績を残されておめでとう。さて小生こと、お蔭で今年も元気に消光している。往年の河童もこのところ水との縁はさっぱりである。それでも昔取ったなんとかで暇を見付けては身体だけは動している。今は専らテニスをしている。年齢相応にやっていると、とに角元気でいられるのが有難いことだと感謝しながら毎日を過ごしているのが近況である。草々

○大西 真博(昭15 学9)

学生諸兄の御活躍、御健闘、万才! 小生元気に過しています。市図書館のボランティア月一回～三回子供ら集めてグリム童話などおはなし会をやって結構楽しく勉強しています。頑張ってください。

賑やかに子ら土ぐる声 塀越に聞え プールの水音涼し

○山口 宗樹(昭16 学10)

第一線を退かせて頂きました。併し、毎日を楽しく、健康にをモットーに忙しく過して居ります。泳ぐ機会も多くなりました。OBの皆様の御健康と現役の方の御活躍を祈ります。

○前田 寿(昭16 学11)

例年、夏は余り泳がないのですが、今年は孫5人とよく泳ぎに行きました。

“ふりちんの 児を追いかける 涼し浜”

○平井 洋(昭16 学11)

この6月末で沢山汽船の相談役も退き、完全にネクタイから解放されました。水には全く無縁、晴吟雨甚の毎日です。

○尾上 信三(昭17 学12)

残暑厳しいですが元気にやっている事と思います。来年の好成績に鍛錬して下さい。三商大は頑張りましたね。皆さんの健康を祈ります。

○荻野 茂希(昭18 学13)

本年の部員各位の御活躍、関西インカレ一部復帰を果され所期の成果を得られたと思います。毎年惜しい方々を送り、又新しい人を得て神大の伝統の灯を守りつづけて下さい。そして仲良く楽しい思い出を残して下さい。

○富中 暁(昭18 学13)

相変らずマイペースの生活で、毎晩飲んで、翌日サウナと水泳で汗に流す(流した算?)生活10数年。御蔭様で目下の処、まだ続けられそうです。

○石川 七郎(昭19 学14)

脳梗塞にて、只今入院加療中でございます。

○井川 俊夫(昭20 学15)

非常に長い間、多分50年ぐらい、この会に出ていない。外国と最近では東京で思うにまかせないが、六甲台のプール、誠に懐しい。出席の皆様、先輩に宜しく。特に三宅(中村)林氏はじめ13回~20回のOBにはくれぐれも宜しくお伝え下さい。

○山内 利男(昭20 学15)

本年6月末で常務取締役は定年で鉄鋼担当は解け、7月からは常勤顧問(兼)インド総支配人として25年間駐在したインド地区を再び専任担当します。早速酪農のインドに一ヶ月の巡回出店を行いました。勤務地は東京本社で今迄通りの場所、電話番号です。

○三宅 林(昭21 学16)

会社の行事のため失礼します。皆様によろしく。

○佐脇 鷹平(昭25 学20)

近況をお知らせする度に、勤務地が変更になっており、いつまで経っても落ちつかない生活を送っています。今年の夏は泳がずじまいになりそう。以て外の態度と思います。反省はしますが仲々思ったようには行きません。諸兄姉の健斗を祈ります。

○石井 義章(昭27 学22)

妙に腹が出て来たかと体重計に乗ってみると 76 Kg。これはいかんと昼食ざるそば一杯で2ヶ月程頑張ったら 71 Kg迄減りましたが、それ以上どうしても減りません。何とかもう 5 Kg減らしたいのですが良い方法あれば教えて下さい。

○今井 政一(昭24 専1)

御無沙汰ばかりで申し訳ありません。元気でやっています。毎年夏には2~3回海水浴を楽しんでいます。皆様に暮々も宜敷く。

○田渕 五郎(昭30 B3)

日本マスターズ短水路(5月),世界マスターズ(7月),習志野市民大会(7月),千葉県民大会(8月)に夫々50~55才背泳で参加。37-31, 1-23-26, 3-17-65が今年のベストでした。あと11月の長水路マスターズに備えます。インカレ最後の日に神宮プールを訪ね,約30年ぶりに岸先生にお会いしました。

○堂本 直正(昭30 T3)

可もなく不可もなく暮しております。サラリーマンも32年目,あまり賞めた事でもなく,しかし反面真面目にやっております。出席の皆々様に良しく。彼岸のお墓詣りにて欠席させていただきます。お許し下さい。

○橋本 力(昭30 T3)

月見の宴が毎年高校水泳大会(水球)と重なってしまい,ここ2~3年は欠席ばかりして残念です。田渕君(3回)が世界マスターで活躍されたとか,同じ齡でもえらいちがいです。皆様によろしく。

○松田 司朗(昭32 J5)

先日記録会にて100m自由型1分24秒もかかりガックリ来ました。200m(自)3分20秒で年々確実に1.5秒ずつ退歩しております。

○細田 忠雄(昭33 E6)

50才になったら毎日毎日がものすごい勢いで過ぎて行く様な気がします。先日ALL三菱50才以上自由型25mに出場,15秒フラット,オチタものです。仕事ばかりでなく少し余裕を持たなくてはと反省しきり。皆様に宜しく。

○高橋 靖周(昭33 E6)

皆様にはお褒めございませんか。私も元気でやっております。今年は久しぶりに神戸に行きました。12年振りに母校佐伯鶴城高校が甲子園に出場(二男英二も選手で)したので応援に行ったわけです。月見の宴には残念ながら今年も出席できません。ご盛会と皆様のご活躍を祈念いたします。

○北村 敏(昭34 E7)

海外出張のため返信できませんでした。最近はプールサイドへ行くこともなく残念です。本日(9/26)野田浩志君(B36)が米国カワサキより帰ってきます(復職)。小生もまだ帰国後の住所等聞いていません。名簿作成までに左記へ電話して確認して下さい。彼はここに帰ってきます。079-921-1405

○柴川 泰介(昭34 E7)

相変わらず貧乏暇なしで毎月10~15日印度旅行に出張して居り、皆様の行事に出席出来ず失礼致して居ります。諸先輩に宜敷くお伝え下さい。

○山本 哲弘(昭34 B7)

今年の夏は水泳よりもゴルフの方に熱中してしまいましたが、やはりたまにはプールで充分に泳いでみたいものです。六甲台のプール、なつかしいプール、一度出かけてみたいと思いつながら御無沙汰ばかりで申し訳ありません。

○柳本 正雄(昭37 B10)

社内慰安旅行の為、欠席いたします。御盛会であります様に。

○井上 隆史(昭37 B10)

61年度も良い成績でおめでとうございました。三商大のポロはどうでしたか? インカレで東大の選手が優勝したようですが、そう言えば埼玉の川口のpoolで全国国公立戦で泳いでいるのを見た記憶もあります。皆様によろしく。

○萩原 武(昭37 T10)

身体だけは元気でいますが素材産業重工業の没落傾向には抗しがたく年を追って重苦しさのし掛って来る感じです。今シーズンも色々な成果を实らせて終り凌泳会の歴史に貢献して下さい。御慶び申し上げます。

○岡田 重義(昭37 B10)

本年度の好成績大慶の至りです。来春社会へ巣立つ諸君には新しい人生への大きな自信になるでしょうし、現役の学生諸君には励みの目標になると思います。毎年申す事を繰り返しますが、実社会で勝つ事も楽な事ではありません。天高い秋、勉学の方も一層の研鑽を積まれん事を祈ります。何はともあれ今季の好成績オメデトウ。

○高岡 保宏(昭37 P10)

久しく六甲台には行ってないので今年は参加したいと思っていたのですが、仕事が入ってしまい誠に残念ですが参加出来ません。皆様によろしくお伝え下さい。当日の御盛会をお祈り致します。

○平岡 昭朗(昭38 P11)

現役諸君の活躍、立派です。来年も期待しております。小生今年の4月に姫路西高に転動しました。近くになり喜んでおります。西高から神大へは毎年70~80名が進学しているそうです。立派な後輩育成に頑張るつもりでいます。

○武政 英幸(昭39 B12)

今夏はソフトボール、卓球、テニス、ヨットに水泳と、いささか活躍し過ぎました。8月末には流山市民水泳大会にも出場し来年は県民大会へ出られそうです。

○手嶋 忠之(昭41 S14)

本年も立派な成績御苦労様でした。当方今年の体の不調をやっと脱した様です。7月の世界マスターズには仕事の都合で参加出来ませんでした。5月の日本マスターズ(各務原大会)では個人メドレー(40才~44才)で優勝、又この前の春日井市民大会では50自(41才~50才)で優勝と調子が出てまいりました。これからも若い人に負けず頑張る積りです。

○阿部 洋三(昭42 T15)

今年は4月に台湾マスターズ、7月に世界マスターズとマスターズづいています。(記録は今一低調)現在は11月の長水路で200m Bu 3分を目標に泳いでいます。

○玉置 明(昭45 E18)

こちらに来てもうすこしで6年を終わろうとしています。酒井先輩共々相変わらずわいわいと元気でやっています。小生も月に3~4回温水プールで泳いでいますが寄る年なみには勝てません。今年の目標は50m自で30秒を切ることです。(現在31秒台)現役の皆様、今年もごくろう様でした。

○家本 博一(昭50 E22)

来春より1年半ほどの予定でポーランドのワルシャワ大学経済学部へ参ります。しばらくの間欠礼いたしますが、悪しからずご了承のほどお願い申し上げます。

○瓜生誠二郎(昭50 E23)

禁煙して7ヶ月、御蔭さまでお腹に貫禄ができました。

○藤森 一男(昭51 T23)

30代なかばをむかえ、体力の衰えを痛切に感じる今日この頃です。

○平石 康(昭53 P26)

当日は運動会であいにく出席できません。今の時期はいつも運動会の準備などで余裕がありません。どうしてこんなに忙しいのかと思います。マスターズニュースの10傑表に凌泳会の名をもっとのせましょう。大学の仲間の名を見るとやる気がわいてきます。体力は何もしない

と確実におちていきます。頑張って何かやりたいですね。

○後藤 信人(昭54 B26)

月見の宴当日は課のEVENTの為、又本年も欠席させて頂くこととなります。皆様に宜しく、御盛会をお祈り致します。6月に右肺自然気胸の為2週間入院生活を送り、その後2ヶ月半泳げなかったのが今シーズンはただただお腹のせり出すのをうらめしくながめていただけでした。年末までには元の調子に戻そうと9月に入りようやくプールに足を向けた次第です。長女は幼児コース、次女はベビーコース、女房も一般会員として泳いでます。

○酒井 正人(昭53 A26)

トライアスロン出場のためサイクリングで登下校(小学校)、水泳、ランニング週2回実施。これが今私が燃えていることです。

○木下 修一(昭54 P26)

元気に生きています。私もいつしか中年太り。成人病の世代となってきましたが、これらに打ち勝つためにも水泳はいつまでも続けたいと思っています。

○星合 正子(旧栗野 昭53 S26)

返事が遅くなり申しわけありません。7月に男の子が生まれて、ただ今育児に奮闘中です。

○上田 剛弘(昭56 B29)

去る8月9日～10日群馬県前橋市において全国実業団水泳競技大会が開催され、山本(隆)共々参加いたしました。成績はさておき神大水泳部OBが続々と集まり松山商大の村田先輩からYHPの浦野君まで9名も集まり、他大学の水泳部を圧倒しておりました。「やっぱり神大水泳部はええなあー」と感慨を新たにしました次第です。

○山本 隆(昭56 EⅡ29)

この4月に所属が変わりました。7月に長女が生まれました。(理沙といいます)400m自由型で社会人になってからのベストが出ました。(長水5分37秒)体重が昨年より7Kg増えました。

○富岡 洋三(昭57 B30)

最近会社で室内プールができたので月に1回は泳ぐようにしています。体力の低下には目を覆うばかりですが、バタフライの潜水泳法をあみ出し、個メが再び泳げるようになりました。

○後藤 芳光(昭57 E30)

今年(1986年)3月ジャマイカ出張から帰ってきて、現在の部署(海外営業本部)に配属になりました。今年の後輩諸氏の応援に行きたかったのですが、11月に華燭の典をあげる為、短期海外出張の為etcで1度も催しに参加できませんでした。1987年は夫婦そろって応援に

行きたいと思っています。住所が変わりました。

○土井 祐二・紀子(昭55 J 28, 昭57 P 30)

10月より引越して新住所に移ります。又その時には連絡します。今年は2人共、1回だけプールで泳ぎました。なんとしんどかったことか!!

○白子 靖則(昭57 B 30)

当日都合悪く欠席させていただきます。今シーズンもがんばって下さい。

○酒井 康司・恵(昭58 T 31, 昭57 A 30 旧姓森田)

4月に長女が生まれました。最近泳ぐ機会もなく腹が出てきました。(康司)

○太田 雅彦(昭58 A 31)

今年はずいぶん一回もプールで泳げませんでした。月見の宴では健在ぶりをこひろーしてあげましょう。

○酒井 潤(昭58 E 31)

急性盲腸炎で入院、出席出来ませんでした。10/19(日)結婚します。近くへお越しの時は、是非お立寄り下さい。

○杉野 誓(昭58 T 31)

最近スイミングスクール(J・S・S西宮コマ)に通っています。毎週1回ぐらいのペースで泳いでいますが、サッパリです…! とりあえず心身共に健康です。

○国本 温代(昭58 P 30)

21日は学校の文化祭と重なる為、出席できません。女子の活躍が期待されますが、是非、今後男女共御活躍期待しています。我が高校の水泳部は冬だけ府大と一緒にJSS深井で練習しています。しかしなかなかインターハイには行けません。

○山野 和則(昭59 A 32)

実家の引越の為、当日参れないことがとても残念です。今年は試合にもあまり行けませんでした。来年は見に行きたいと思っております。あいかわらず週2回2000~3000m泳いでおります。

○呉竹 正人(昭59 J 32)

噂の通りです。

○谷水 利行(昭59 J 32)

沖縄市内支店にて営業を行なうことになりました。羽田空港地上サービス職時代はフライトのインチャージ迄登りつめました。新しい分野で一から頑張っています。泊りに来て下さい。

○浦野 敏明(昭60 B 33)

先日前橋で開かれた全国実業団選手権に100m平で出場しました。結果は秘密。現役時代のスタミナはもはやなし!? 追伸 4回生の皆様ご苦労様でした。

○坂東 美枝(昭60 P33)

当日は学会のため山梨へ行きますので欠席させていただきます。本年度の女子の活躍に心からお祝いをいたいたいです。男子も負けずに頑張ってください……。もう400Frで6分を切るのがきつくなってしまいました。

○黒川 良介(昭61 E34)

当日は、所の“歩こう会”(岡山の野山を社員家族が歩く)の役員でバスガイドをやらなくてはいけなくて欠席いたします。現役の諸君、いい夏を送ったでしょうか。社会人の夏は短い…といいながらも海水浴3回をこなし、50m背泳でベストはだし、なかなか充実しておりました。今年いっぱい人事研修で現場にはりつきレポートに追われる毎日です。皆さんもお元気で!

○太田久美子(昭61 L34)

インカレに来られた現役生の皆さん、お疲れ様でした。インカレの最終日とその翌日、2日間フルに遊んでまたまた気分はすっかり“学生”してしまいました。たとえただの“ミーハー”と呼ばれても、この水球への愛情(?)だけは拭い去れないのです。4回生のみんな、月見の宴では4年間の想いを燃やし尽くして狂乱して下さい!

○藤本 栄美(昭59 準)

今年は何年ぶりかで試合に出ました。Timeは思ったよりまあまあでした。たまには試合前に緊張感もいいものですね。当日は少し遅くなると思いますが、たぶん間にあうと思います。

○松本 幸恵(旧姓友近)(昭58 準)

長男良平も満9ヶ月になりました。毎日育児にがんばっております。忙しくて応援に行けなくてすみません。私事で恐縮ですが、事情により退会させていただきます。長い間どうもありがとうございました。

○平野 祐子(昭60 準)

夏バテにより学生時代の最高体重より7kgも減ってしまって体力が劣えまくっています。週2回のテニスに燃えて体力増進のせめてもの救いにしてしています。ちなみに、今年の夏は一度も水着を着ませんでした。色の白い姿を月見の宴でご披露できないのが残念です。

○足立 小砂(昭60 準)

元気ががんばっています。今シーズンもごくろうさまでした。月見の宴にはぜひ出席させていただきます。

月見の宴御出席者

(敬称略)

石井義章(昭27 学22)	長谷川泰造(昭59 T31)
榑原修造(昭33 B3)	杉野 誓(昭58 A31)
前田 修(昭34 S7)	田中俊哉(昭58 T31)
岡田重義(昭37 B10)	長崎真人(昭59 T31)
酒井正人(昭53 A26)	吉岡宏之(昭59 J32)
塩浜英二(昭53 T26)	南谷昌宏(昭60 P33)
上田剛弘(昭56 B29)	浦野敏明(昭60 B33)
山本 隆(昭57 E129)	土井健治(昭60 P33)
金 一波(昭59 E131)	川島 えみこ(昭60 P33)
太田雅彦(昭58 A31)	藤本栄美(準)
高城俊介(昭58 A31)	足立小砂(準)

(以上)

特集 マスターズ スイミング

61年度凌泳誌上にも御報告しました通り、総会の御賛同を得て60年6月より凌泳会として、日本マスターズ水泳協会に登録致しました。これより先に小山会長は早くよりマスターズスイミングに出場され、世界大会で金メダルを獲得される等赫々の成績を挙げておられる事は御承知の通りです。しかし凌泳会がチームとして実際に活動を始めたのは61年であり、時恰も第1回世界マスターズ水泳選手権大会が東京に於いて開催されるという記念すべき年でもありますので、今回の「凌泳」をマスターズ水泳特集号として編集する事にした次第です。

61年は4、5月に開催された短水路大会（全国7箇所の会場で実施）、7月の世界選手権大会、11月の長水路大会、その他地方大会にと各地で凌泳仲間が出場し輝かしい戦績を残されますとともに、日頃健康増進の為生涯スポーツとして水泳を楽しんでおられる御様子に接し嬉しくも又心強く思っております。

以下、出場された皆様に競技会の様子、感想、エピソード等お書き頂きましたのでお読みいただきたいと存じます。又、現在凌泳会として登録を済まされているのは下記13名（この他に別の団体の所属で登録されている方が若干あります）ですが、更に仲間を増やし凌泳マスターズを盛大にしたいと思っておりますので、自分も登録してみようと思われる方は小生まで御一報下さい。登録書類一式お送り致します。

尚、マスターズ個人登録は年次登録（1年毎の登録）と100才登録（終身登録）の二通りありますが、凌泳会は事務処理の便宜上100才登録のみとしております。その登録料は15,000円（従来は10,000円でしたが62年4月1日より改訂）となっておりますので御承知下さい。

記

三宅 林(21) 中井三郎(27) 石井義章(27) 田淵五郎(30) 松田司朗(32)
細田忠雄(33) 浅間啓介(37) 山田貴彦(37) 米田啓祐(37) 井上隆史(37)
武政英幸(39) 宮部高博(42) 平石 康(53)

以上

〔おしらせ〕

昭和62年度の日本マスターズ長水路大会が9月12、13の両日神戸市ポートアイランドスポーツセンターで開催される事に決まりました。地元神戸での開催です。既登録の方は勿論、未登録の方も早めに登録を済ませ、多数御参加下さいますよう期待しております。

尚、短水路大会は4月、5月に全国11会場で開催されましたが、本誌がお手元に届く頃には
終わっておりますので省略いたします。 (凌泳編集幹事 石井義章)

兵庫マスタース大会に参加して

(昭21卒) 三宅 林

たまたま60年の凌泳会総会において、小山会長及び石井義章氏よりお奨めを受け、斯道奨励
程度の気持で1万円を納め、日本マスタース水泳協会の生涯会員となった。水泳はもとより好き
で、泳げる機会は逃がさずと言った私ではあるが、大会に参加する程の強い決意はなかった。し
たがって、大会に参加することを目標にしての練習もしていなかった。

7年前に近所に、山陽スイミングスクールが出来、以来週に一回のコースに入り月に2、3回
泳いで来たが昨年からはクラス数も増え、仕事の関係から時間的余裕も出来て来たので、週二回、
なるだけ休まぬよう努力して来た。

さて、昭和61年10月、西明石スイミングスクールに於て、兵庫マスタース水泳大会が開催さ
れることになった。仲間熱心な人がいて、この大会に出ようと誘ってきた。私を入れるとメド
レーレーの年令ランクが上るのである。つい引受けたものの、折角のことであるので、午前
に行われる百米平泳にも出ることにした。早速、大会までの10日間、毎朝ジョギングを始めた。
最初の2、3日は500米程で息苦しくなったが、その後は楽になり、約1.5キロを休まず走れる
ようになった。

大会の前日にタイムをとって貰ったら1分49秒であった。当日はメドレーの25米がアップと
なり、続いて100米平泳に出場した。私のグループは49才、54才、63才(私)の3人であ
った。着順は年令順となり、それぞれ2、3米ずつ水が空いた。ゴールにタッチした瞬間、競技
委員となっていた金一波君が「43秒ですよ」と教えてくれた(正しくは1分43秒3)。昨日
より5秒以上も縮めたのかと我れながら驚いた。あとで近畿支部長葉室さんの名によるA・A級
の認定書を頂いた。級で言えば10級で、12級になるとメダルを頂けるとのことである。61年
度日本マスタース短水路十傑表によると、60才プラスでは1位が1分30秒で断トツであるが2
位は47秒であるから、自分でも意外に思っている。

その後「凌霜」11月号で田淵氏の「第一回世界マスタース水泳大会参加の記」を読ませて頂
き、小山先輩、同級の佐々木力氏、田淵氏を含め7名の仲間を発見し、心強く思っている。ジョ
ギングはその後ずっと続け、私の朝の日課となっている。今年はジョギング、練習及び節制(ア
ルコール)により耐久力を増進し、1分40秒により近づくことを目指している。

第一回世界マスターズ水泳大会参加の記

(昭30營) 田 淵 五 郎

昭和61年7月12日から5日間、東京・代々木オリンピックプールにおいて、第一回世界マスターズ水泳選手権大会が開催された。マスターズ水泳については、本年5月1日号の「凌霜」誌に小山賢之助先輩(昭7学)がその歴史について触れられ、自ら参加された昭和60年8月(於カナダ・トロント)のワールドゲームズ水泳部門、75～79歳区分の平泳ぎ50米及び100米で、金メダル二個を獲得されたことを記されている。

今回は国際マスターズ水泳協会(MSI)の他、国際水泳連盟(FINA)が主催に加わり、19カ国、3,455人の最高参加者に発展した第一回世界選手権である。

男女とも25歳から5歳刻みでグループ分けされ、男女合計36種目もある。若人の競技大会と違い、マスターズは予選や推薦もなく、マスターズ登録してエントリー料を払えば、どんな実力のスイマーでも出場でき、一発勝負のタイムレースで結果が決まる。18カ国から903人の外国参加者を優先し、日本人希望者は2,552人で締め切られた。

それでも3,500人も参加者が36種目(2種目以上の出場者が多いので延べ約1万人か)も競うのだから大変である。毎朝9時(早い日は8時)から、夜7時頃まで、絶え間なくレースが行われている。50米の競技では、プールの片側から女子がスタートして皆ゴールすると、すかさず反対側から男子がスタートするという慌しさ。さらに400米、800米の長距離種目は、一つのコースの両側からスタートして(途中ですれ違うようにし)一コース当たり2選手をこなす過密ぶり。

私は以前から水泳を続けておられる小山大先輩などのお奨めにもかかわらず、60年5月まではほとんど水泳練習と無縁であった。ところが60年春に「50肩」に罹り、その治療リハビリのため、週1、2回あちこちのプールにビジターで通い始めたという妙な動機からマスターズ水泳に参加することになった。

神大水泳部OB(凌泳会)の東京の集まりで、熱心な後輩たちに推されて、60年11月の日本マスターズ長水路大会に初参加し、幸運にもメダルを獲得。それも励みになり、引き続き何とか練習を続け、その時の有志とともに今回の世界マスターズにエントリーした次第。

スイマーにとって憧れの舞台であった代々木オリンピックプール、30年前には経験したことのない電子計時装置、各国語が飛びかう華やいた雰囲気、体軀堂々たる壮年選手や白髪でも元気な中高年パワー……、時々アナウンスで紹介される往年のオリンピック名選手などなど……。世界マスターズはやはり権威を感じさせる大舞台であった。

さて我々神大OB勢の大会参加結果は次の通りであった。(敬称略)

小山賢之助(昭7学)(75~79歳)50m平泳48秒44 第1位。百m平泳2分2秒69

第1位。200m平泳4分46秒22 第2位。

佐々木 力(昭21学)(60~64歳)100m背泳1分47秒36 第7位。なお同氏は水泳部出身でなく、中年になられてから実業団大会などにチャレンジされた経歴のスイマーです。

田岡 五郎(昭30管)(50~54歳)50m背泳37秒91 第9位。200m背泳3分17秒65 第5位。100m背泳1分26秒40 第5位。

井上 隆史(昭37管)(45~49歳)50mバタフライ38秒77 第32位。50m背泳38秒42 第11位。同君は名古屋へ単身赴任中のハンディを克服して参加。

武政 英幸(昭39管)(45~49歳)50mバタフライ35秒06 第23位。

宮部 高博(昭42文)(40~44歳)50m平泳41秒96 第33位。

阿部 洋三(昭42工)(40~44歳)50mバタフライ33秒08 第17位。100mバタフライ1分17秒86 第7位。

やはり小山先輩の金メダル、銀メダルは傑出しており、昭和63年には80歳になられるのを機会に、同年オーストラリアで開催される第二回世界マスターズで世界記録を目指される程のお元気ぶりである。

第8位までは青銅メダル(直径5cmもある)を貰えて嬉しかった。それ以外の各氏の記録も多人数の参加者の中で優れたものである。余りに参加人数が多くて、出場種目が違うとお互いの応援もできなかったのは残念であった。勤務の都合で休めなかった日の種目は、言い訳になるが不調だった。しかし「世界大会」に参加できたことの喜びは大きい。

世界マスターズに申し込めなかった人には、日本マスターズの長水路大会(秋)と短水路大会(春)が毎年ある。大会の目標を持つことは非常に励みになる。凌霄会員の中には既にスポーツクラブなどで、泳ぎに親しんでおられる人も多いと思う。ぜひ試みにマスターズに挑戦されると良い。

これから何かスポーツを、と迷っておられる会員には、生涯スポーツとして長く楽しめる水泳をぜひお奨めしたい。中高年にも安全で手軽に健康に役立つスポーツで、体力・体格と忙しさに合わせて自分でセットできるのが良い。

以 上

’86日本マスターズ長水路大会

(昭37B10) 井上 隆 史

11月2日、3日のマスターズ長水路大会に出場、久しぶりに旧友の顔も拝み楽しくプレーしました。昨年、今夏のマスターズと3回目の大会になれば大分馴れてきて昼食時にビールを飲んだり、握り飯弁当を持参したり、アフターファイブの反省会をしたり、全く楽しく過しました。

- ・60才台、70才台の活躍も光りました。特にご婦人の出場は年々多くなっている感じです。
- ・合計参加者も回を積ねる毎に増えているのは嬉しいことです(今回2,143人)。
- ・+160の200mリレ、メドレーリレーは楽しいなかでも泳いでいる時は無中でした。途中で止めたい気分にも誰かが一瞬なるようでした。レースが終ると楽しいものです。

以 上(葉書より)

’86日本マスターズ長水路大会に参加して

(昭39B12) 武 政 英 幸

今年は本当によく泳いだ。試合を含め28回もプールに通った。ものぐさな私には驚くべきことである。又、試合出場は、卒業して4年目と5年目の2年間、宮部君(昭和42 L15)の発案で、関西水上選手権水球の部に急造らえの社会人チームで出場して以来であった。しかもこの一年で4回も試合に出た。最初が4月の短水路マスターズで、あと7月の世界マスターズ、8月の流山市民大会、そして今回の長水路マスターズである。

4月の初レースでは「マイペースでゆっくりと完泳を目指して」と自らに言い聞かせていたのに、久しぶりにスタート台に立った興奮からか、前半の20Mをノーブレで行ってしまったりして……すっかり若さを暴露した。それでも、20数年振りのこのレースで、「50Mなら完泳できる」という自信を得た。ついで世界マスターズに参加したのち、地元の市民大会で泳いだ。役員から『来年の県大会』の要請を受ける。

しんがりの長水路マスターズでは、遅刻して危く失格になるところであった。昼食に出掛けて予定時刻の20分程前に帰ってみると、私の種目がもう始まっているではないか。しかもアナウンスが『第5組男子のコース順を申し上げます。第一のコース……』とやっている。水泳パンツに着替えてプールサイドに急ぐ。集合場所の役員に『第7組ですが』『第7組は次のスタートです。急いで下さい』指定の9コースに着くと、既に反対側からは女子がスタートし、こちらに向っている。椅子に坐る間もなく『ピー』と笛が鳴る。スタート台に上る。しまった。あわててし

まってゴーグルをしていない。『ヨーイ…パン』センターラインを過ぎる。ゴールはぼやけ、はるか彼方に見える。10Mラインを過ぎる。長い長い。ゴールが遠い。もかいてもかいて、やっとゴール。水が重かった。余程悪いタイムのような気がする。(驚くことに、正式計時によれば本年のベストタイムであった)

後日の東京凌泳会忘年会で、この話をしたところ、荒井先輩(昭38 B11)より『お前は、昔からターンが下手だからなあ』とのご託宣あり。今年を並べてみるに、確かにその通りで、短水路の記録の方が悪い。昔の癖は直らない。

来年はマスターズに参加する有志が一人でも増えることを望みたい。私個人の目標としては、今年よりも泳ぐ回数を増やすこと。

○

長水路マスターズの記録は次の通りです。尚、会場の東京体育館室内プールは、本大会(11/2,3)を最後に改築のため取り壊されるそうです。

○

小山賢之助(75+)	100平	2:03.13(1位)		
田淵 五郎(50+)	50背	38.30(5位)	100背	1:27.20(4位)
	200背	3:21.29(3位)		
浅間 啓介(45+)	50自	30.56(7位)	200自	2:56.01
井上 隆史(45+)	50背	38.69(6位)	100背	1:26.27(4位)
	200背	3:22.17(4位)	200個混	3:23.26(8位)
山田 貴彦(45+)	50平	50.25		
武政 英幸(45+)	50背	41.44	50蝶	34.31(6位)
宮部 高博(40+)	50自	31.29	50平	41.81
	200個混	3:39.51(6位)		
阿部 洋三(40+)	50蝶	33.83(7位)	100蝶	1:17.52(2位)
	200蝶	3:10.82(1位, NR)		
後藤 信人(30+)	100平	1:23.28(2位)		
凌 泳 会(160+)	200継	(宮部・山田・井上・武政)	2:15.17	
〃 (160+)	200混継	(井上・宮部・武政・浅間)	2:23.42	

(注) ()内順位は入賞者, NRは長水路新記録

1986日本マスターズ短水路大会参加記

(昭42L15) 宮部 高博

私達有志は1986年日本マスターズ短水路大会柏大会(S61.5.4開催)に参加して来ました。大会当日は薄雲りの天気でしたが、時々雲間からこぼれる日差しも心地よく、スポーツする充実感を楽しんだ一日でした。

ここで短水路大会について極く簡単に書いておきます。日本マスターズ水泳協設立主旨に沿ったイベントのひとつで、毎年ゴールデンウィーク前後に開催されています。開催地は首都圏を中心に京阪神地区、中京地区等、全国7会場で行なわれ、交通や宿泊のことを考えると比較的気楽に参加出来る大会です。又各会場の開催日が工夫されていて意欲さえあれば何度かチャレンジ出来るのも好都合です。記録の点では、各会場での記録が一度協会に集められ整理された後に全国レベルのランクが発表されています。

扱、私達3名(田淵五郎 昭和30、武政英幸 昭和39、宮部高博 昭和42)は、住所が同じ千葉なので、最寄りの柏大会(柏洋スイミングスクール)に出場しました。僅か3名でしたが団体参加なので、凌泳会用の席も設置されておりました。これを目敏くみつけ後藤信人君(昭和54)も来て呉れました。彼は自分の所属するクラブからの参加でした。

当日の記録は次の通りでした。

田淵 五郎(昭30)	25米 背泳	19"94
	50米 背泳	1'23"26
武政 英幸(昭39)	50米バタフライ	35"03
宮部 高博(昭42)	25米自由型	14"33
	25米 平泳	19"07
後藤 信人(スクエア) (昭54)	100米 平泳	1'21"54
	100米個人メ	1'18"67

尚、日本マスターズ協会会報、昭和61年9月5日号をみると、凌泳会諸兄の活躍が載っているので附記しておきます。

手嶋 忠之(東レSC) (昭41)	100米個人メ	1'23"07
平石 康(凌泳会) (昭53)	25米 平泳	17" 1
	50米 平泳	36"91

マスターズ短水路大会・神戸大会

～NASポートピアプール～ S.61.4.20

(昭53P26) 平石 康

せっかく、100才登録をしたのだし、30才になったところでもあったので、今年がチャンスと思い、マスターズ大会なるものに初参加することにした。

とはいうものの、卒業以来、プールには子供の指導でよくつかったが、自分自身、練習らしいものは、まったくしていなかった。週一回ぐらいは、泳ごうと思いスイミングスクールに通ってみた時もあったが、2ヶ月ぐらいしか続かなかった。でも、今度は、少しぐらい練習しておかないと、凌泳会の名を汚してしまうので、1ヶ月ほど泳いだ。それも4・5回泳いだけで、どちらかという不安のほうが大きかった。

さて、当日、プールにつくとどこから来られたのか、プールの中は300人ぐらいの人・人・人。ここで、不思議に思ったのは、20代の若いやつがいっぱいいることだった。もっと年配の方ばかりと思っていたのに、どこがマスターズなんだと、驚いた。後で、知ったのだが、マスターズといっても24才以下の部もあるのだ。プールサイドには、スイミングスクールの名がはってあって、大きい所は30人以上もいる。凌泳会の名をさがしたが、はしっこのほうに1つ席が設けてあって、ひと安心した。となりの方も一人参加、なんと石川県の小松から来られていた。

大会は日本記録保持者の表彰から始まった。ふつうの大会なら、そんな人と同じ大会で泳げることは、ほとんどないが、この大会には20人ほど参加されていた。そうこうしているうちに、大会は年代別にどんどん種目が消化されていく。スタート前はいやがおうでも、緊張感が増す。久しぶりに現役時代の心境を味あわせてくれた。スタート台に立てば、少しは落ち着いたが、飛び込んでしまえば、もう無我夢中だ。ペース配分などなにもない、力まかせに泳ぐ、やっとゴール。横を見ると、みんなタッチの差だ。さすが粒がそろっている。「36"9です。」「なかなかのタイムだな」順位はまったくわからない。こんどは25m、これはスタートに失敗。自分では不本意な記録に終わった。後は発表を待つばかりだ。

となりの八田さんは、何と50～54才の部で、50m背泳33"9、100m背泳1'17"8、ともに日本新を連発された。せっかく来たんだから、私も何かみやげをと思っていたのだが、完全に圧倒されてしまった。しかし、記録発表をみると私も、50m平泳2位、25m平泳1位17"1という結果で、自分ながらまだやれると自信をつけることができた。思ってもみなかった金・銀メダルを獲得でき、とてもいい気分が帰ってきた。

凌泳会のみなさん一人では、あまりにもさみしい。せめて今度はリレーができるくらい的人数

で参加して、凌泳会の名をもっと日本全国に広めましょう。

熟年パワー爆発

神戸でマスターズ水泳大会 日本新続出し33個も

日本マスターズ水泳協会
(北村久寿雄会長)主催の六
十一年度短水路水泳大会が二
十日、神戸市中央区港島のN
ASポートピア・プール(室
内)で三百人余が参加して開

催された。この日は百がままでの短距離に限定されたが、年齢が五歳刻みに区分されるため、種目は六百に及ぶにぎやかだった。

女子四十五歳以上では皆懐かしいローマ五輪の花、大崎喜子さん(西五)旧姓佐藤、天理大出、男子五十歳以上では関大時代から実業団を通じ三十年も一線級選手生活を通じた「万年青年」といわれた山本新吾さん(五世)の健在ぶりもみられた。

大崎さんは百が個人メドレ一で一分二二秒一の日本新、二十五が自由形では自身が昨年作った日本記録に迫る一四秒七で泳いだ。「この大会は実に楽しい。百の「個メ」は気分転換のつもりで申し込んだ。新記録と聞かされ、驚いた。うれしくなったり」と大はしゃぎ。

山本さんは五十が自由形で二八秒五、二十五が自由形で一三秒〇といずれも日本新。「本

当は二七秒と一三秒ぐらい」と思ったのだが、練習していなかったのだから、まあ仕方ない。「いぜん衰えぬ山本さんのハッスルぶりに協会理事で大崎さんの夫、剛彦さん(西五)早大出・ローマ五輪二百が平泳ぎ銀メダリストにも驚嘆しきり。結局、みんなのハッスルが実り、この日、日本新(短水路)は33も数えた。

大崎理事の話では「協会への登録は現在、一万人だが、予備人口は十万人。国際協会もあり、この七月には代々木で第一回世界大会を開催する。これからどんどん盛んになるでしょう」とのこと。大崎喜子さんは「ドン・フレージャー(泰州)オリンピック百が自由形3連覇」と東京で再会できるのを楽しみにしています」とも言っていた。

61・4・21
神戸新聞

原稿募集

凌泳誌は会員相互の連絡と親睦を図り、併せて現役部員とOBとの連帯を強化する為の機関誌です。本誌をより楽しく親しい物とする為多数の方々の御投稿をお願い致します。

原稿は400字詰め原稿用紙に横書きをお願いします。

ワープロの場合は横書き一行40字に願います。

特に人名や固有名詞は正確、明瞭に御書き願います。

原稿締切は毎年2月末日、発行は5月中旬です。

原稿の送り先は、神戸大学 水泳部、または凌泳編集幹事宛てに願います。 以上

(凌泳編集幹事)

現 役 部 員 寄 稿

体育会水泳部員としての姿勢

主 将 甲 野 賢

部員諸君に問う。「体育会水泳部」という名称の重みを知っているか。伝統云々を言っているのではなく、組織としての堅牢さの話でもない。そこに籍を置く者の姿勢を問うているのである。おそらく毎年繰り返されていたであろう論議は今もある。曰く、「下級生は不熱心だ」「上級生の考えにはついていけない」「速い者と自分は、世界が違うんだ」等々……。主将として敢て私は雑音を無視する。「体育会」の看板を背負う限り、姿勢は一つしか無いと信ずるからである。

昨シーズン、我々はチームとしても個々人を見ても数多くの試合で、あと一步のところまで涙をのんだ。その原因は何であるか。私は、ぬるま湯につかっていた安易な満足感が、惨敗、惜敗を招いたと考える。伝統があった。速い者、ボロのうまい者が何とかしてくれると思っていた。一部昇格は、まあいけるだろうと思っていた。毎試合、あるいはそれに向ける練習中において、結構心地良い現状に満足していた。貧欲なまでに、自己をチームの現状突破を目指してはいなかった。

「体育会水泳部」に所属する者としての姿勢はそこに有るのではないだろうか。毎年一年生達は様々な動機で入部してくる。上級生になっても様々な目的で部活動をする。私が最も危険視するのは「水泳が好きだから」という考えである。良い事ではあるが、目的とすべきではない。我々は同好会ではない。現状突破に血へドを吐くまで燃えなければならない。現実的な問題として、授業との両立、バイトで生活費をかせがなければならない等、葛藤は有る。しかし何とか現状を打開しなければならない。朝早く来てウェイトをすれば良い。夜遅くまで泳げば良い。

京大は強い。関学は冬も泳いでいる。全国の国公立の地位が上がっている。認めよう。だが我々には才能がある。若さの特権で自惚れようではないか。その上で自己批判をする。何故自分は遅いのか。下手なのか。そして現状突破せよ。

私は、諸君らがサボったからといって、制限タイムを切らなかったからといって、罰則は与えない。自主性に任せる。しかし、部員としての姿勢は、断固諸君らに求める。理想のクラブとは、各々が現状突破の為に完全に自己管理できるクラブである。そうすればいつの日か、必ず神大水

泳部はインカレの覇者となることを信じる。「体育会水泳部」はなれあいのチームではない。全て練習中の姿勢と試合の結果で決まるのだ。

私を含め全部員が「体育会水泳部」の金看板の重みを、今一度考えてみる必要がある。そして、男ならケツを割ってはならない。女なら執念を見せなければならない。神大のド根性を見せてやろうではないか。

頑張って泳ごう

競泳主任 後 呂 忠 詳

競泳の目標は“速く泳ぐ事”である。各自体を鍛える為、シェイプアップの為等々の目的があるかも知れないが、私は速くなる事を第一義として練習メニューを設定する。私自身、競泳の理論という面において人に誇れる部分はほとんどない。が、どうすれば速くなるかを知っている。私の練習メニューを何も考えずにただこなすだけで、1日に最低1/100秒は速くなる。もちろん各自の努力と工夫に応じて、この伸びは数倍、時には数十倍にも増加する。とにかく、練習する事、泳ぐ事。これが速くなる為の唯一絶対の方法である。

次に、練習の効果を大きくする為に、現役諸君、特に初心者への提言をする。競泳の基本は水と親しむ事、水を知る事にある。従って、水の中に入って遊んでいるだけでもいい、いや、大いに遊んでもらいたい。そして、その中から水中での自分の姿勢、各部位の位置を知る。さらには、いかにすればスムーズに体の移動がなし得るか、といった事までを工夫する。つまり俗に言う、“水にのる”という感覚をつかんでもらいたい。平たく言えば、水に逆わず、水を利用して泳ぐという事を知ってもらいたい。

最後に、どんなスポーツにも共通して言える事だが、トップアスリートを目指すには、努力と工夫が必要不可欠である。頭を使わなくてはいけない。速くなろうというどん欲さが必要である。人の泳ぎを盗み、自分のものとして定着させる。常に前向きに、積極的に、速くなる為の泳ぎの盲者となろう。

素朴な疑問

水球主任 有 利 英 明

まず水球を経済的に分析してみよう。何故皆が水球を好きになれないか。これは我水泳部にとって古くて新しくこれからも続くであろう問題である。中高とタイムが伸びていく事に得られて

いた満足が水球にはない。つまり競泳をしてきた者にとって効用が低い。水温という外生変数もあろう。泳げない初心者にとっては売上税以上の酷税かも知れない。しかし、ほとんどが水球未経験者という新市場だ。魅力あるではないか。一方、競泳は選手一人でもいいコーチと巡り合えばどんどん伸びる。水球はその点労働集約的練習だ。やはりフォーメーションとかは2チーム分必要だ。我々は部員が多く皆が参加すれば比較優位に立てる。もちろん若吉先生のもと水球に特化すれば阪大も関西を制する事も可能であろう。現状では、皆一人一人が考えながら我チームの水球を作っていくしかないのである。現役部員シヨ君 / 4年最後のシーズンになってやる気を出しては後悔する。ポートフォリオは今だ /

……等々好き勝手な事を書いてしまったが、要するに水球を好きになって欲しいのである。その為にはやらされるというより積極的態様が出てくれればおもしろいはずだ。そしてそこにいろいろ頭で考えてみて、実際試してみても又考えてみるという行為が必要十分条件となる。ただ水球を特別視しすぎるのもいけない。先日、若吉先生に、マイボールになってからの敵ゴール前までのボールのつなぎ方が課題だと尋ねた所、

「皆右利きだったら、簡単に右展開でいいだろう。パスしやすいし。有利、難しく考えすぎちゃうか。」と言われた。また、

「フローターは常にシュートしてやろうとして動けばファールはもらえるんだよ。ファールをもらおうとするんじゃないんだぜ。」とも言われた。コート上の動きを考えれば自然に出てくるし、ファールというのは、ディフェンスがオフェンスが何かしかけてくるのを妨げようとする事だということを考え直してみると当然だ。先生の言う通り難しく考えすぎなのかとも思ったが、我々はそのボールの運び方自体を考える事が少なかったのである。ファールは顔を沈めたら取れると信じていた。解決策はすぐ見つかるかも知れない。必要なのは、いろんな点に着目してみるという事ではないだろうか。今シーズンからルールも変わり、我々もそれに対応していかなければならない。素朴な疑問、それが盲点であるかも知れないのだ。

「初泳ぎ」に思うこと

主務 近藤直明

今年も恒例の「初泳ぎ」が、1月11日、住吉の県立健康センターで行われました。—いや、正確には「行いました」と言った方がいいかも知れません。というのも、この初泳ぎは、準備・運営から会計まで、全て現役部員の側で行われているのですから。

それでは、初泳ぎとは、はたして「水泳部」の行事なのでしょうか。答はおそらくNoでしょ

う。水泳部の行事としての初泳ぎなら、年明け最初に集まった時に、その年の活躍勝利を誓いつつ何か行事を行うのが本来の姿でしょう。しかし、今年のように初泳ぎ前に既に厳しい練習が始まっているようでは、真の「初」泳ぎとは言えないでしょう。

では、初泳ぎは凌泳会の行事なのでしょう。おそらく凌泳会の行事とは言わないまでも、OBの方々のために行っている行事であることは確かでしょう。そのためにわざわざ日曜日を選んでいるわけですし、内容も単なる練習ではなく、参加OBの方にも楽しんでいただけるようなものにしようと努めているつもりです。

私は今までに3回、「初泳ぎ」を見て来ましたが、年を追うごとにこの「OBの方々のための行事」という目的がぼやけてきているように思えてなりません。特に今年に至っては、参加OBはわずか4名（平岡（P11）、杉野（T31）、山野（A32）、川原田（P34）の各氏）だけであり、これでは何のための初泳ぎなのかという疑問がおこっても不思議はないと思います。

私はここで、参加されなかったOBの方々や、初泳ぎの運営から全く手を引いた凌泳会幹事会に、その責を帰すつもりは全くありません。むしろ問題なのは、現役部員とOBの方々とつながりがうすれてきていること、そしてそれに対して現役側が積極的な動きかけをしようとしないうちにありたいと思います。後者の一例として、昨年の関西地区OB訪問をここで指摘しておきたいと思います。

本来、関西地区OB訪問は、現役とOBとの直接的なつながりを作るよい機会であるのに、年々その対応がいいかげんになり、ついに昨年はわずか4名（それも卒後1～4年のごく若い方のみ）のOBの方しか訪問できません（しません）でした。しかも、部員の中には、OB訪問を、「面倒臭い雑用」とでも考えたのか、担当するOBの方へ電話連絡さえとらなかった者もいて、はたしてこれでOBの方々から援助金をいただく資格があるのかと、悩んでしまいます。

来年からは、初泳ぎのあり方を今一度見直すと共に、現役部員にはOBの方々ともっと積極的に接触することを、将来の主務には部員の認識を高めることを、OBの方々には、水泳部の活動にもっと関心を抱き、初泳ぎなどの行事にもっと気軽に参加していただくことを希望したいと思います。

体育会リーダーストレーニング

三年 竹本和広

ある日突然、副務凌泳担当の奥村君から“凌泳にリートレのことを書いてくれないか”との電話がかかってきた。どうやら昨年のユニバーシアード特集に比べるとあまりにもページ数が少な

いので、なんとか年々軽薄になりつつある凌泳にとどめを刺してほしいのだと勝手な解釈をしてその依頼を承諾した。思えば後期試験も近づいていた2月の初旬のことであった。今、私の友人達は一生懸命に有機合成化学の勉強をしているというのに、誰も読みそうにない軽薄な文章を書いている私はとても情けない気持ちになっているのである。

いきなりグチをこぼしてしまったが、まず体育会リーダーズトレーニングについての説明から始めたいと思う。体育会とは神戸大学として大会に参加するクラブのすべてが属しており、40以上ものクラブから構成されている。そして、その組織のうちの幹事会が主催となって年に一回、各クラブの代表を集めて、各クラブの親睦を深めるとともにクラブを運営していく手がかりを得る為に行われる研修会がリーダーズトレーニングである。しかし私は昨年のリートレ以来、コンパに異常に燃える近藤氏を見てコンパの研修会だと思っていたし、そう教えられていた。

ということで、共通一次試験の休みを利用して二回生を中心とする各クラブの代表たちは三田市にある関西地区大学セミナーハウスへと向かった。セミナーハウスは確かにきれいではあるが、若干気温が低いように思えたのが第一印象であった。

講堂にはいると応援団の二回生が何か焦点の定まらぬまま椅子にすわっているのが目に入った。話を聞くとやはり彼らはコンパのためだけに来たのだという。そんな彼らを気の毒に思いながらあと数時間後に繰り広げられるであろう地獄絵を想像したのであった。

スケジュール表を見るとかなりハードスケジュールである。二日間で三つの講演と全体討議とコンパをこなさなければならない。とはいってもコンパだけがハードであると思ったのだが……。

まず初めに大塚食品の販売促進部の方の「スポーツと栄養について」というまるで体育理論の講義のような講演であった。私は一番前の席にすわっていたのだが、ふと後を振り返ると、かなりの人数が眠りに落ちていたようだ。さすがは体育会である。講義をすわって聴くと寝るのは条件反射になっているのだろうか。

ポカリスエットとカロリーメイトの宣伝の後は日本赤十字の方による「スポーツと血液について」という講演であった。折しも世間では“エイズ”なるものがはやりつつあったので、関係ないまでもついつい耳を傾けたのは私だけであろうか。しかし、多くの期待に反してただの献血の呼びかけであったのにはがっかりであった。その後各クラブの自己紹介があり、いよいよメインイベントのコンパまで約1時間となった。“本当に受けるだろうか？”ふと、こんな不安が私の頭の中をよぎった。私のネタというのは男性化粧品“ギア”のバックの変形版である。例の“俺は誰だ？”というやつである。じつはこれはブレ六甲祭で披露しそこなったもので、もしこれが受けなかったら他に私にできることは何もないのである。パートナーである守沖もどうやら化粧品のネタでいくようだ。やはり私と彼の考えることは同レベルであった。

ビールのあての横で食べる食事もそこそこに遂にコンパの幕開けである。といってもこれは一次会である。私は二次会用の芸しか用意していなかったのだ。まさか下ネタはあるまい、そうたかをくくっていた私は愚か者である。いきなり一番に指名された某クラブの二回生は“マリモ”を披露したのである。あまりの意外性に私は顔から血の気が引いていくのを感じた。“頼むから指名しないでくれ、せめて考える時間をくれ”そう祈るような気持ちでいたにもかかわらず、三番目の指名を受けてしまった。うろたえる私に守神は一言、“私の彼は左きき”を指示した。受けたかどうかは別にしてふりかかる火の粉は振り払った。その他のクラブも数々の芸を披露したが、はっきりいって親には見せることのできないものばかりで夜は更けていった。

そろそろ応援団と水泳部の三回生を中心とする“六甲オメズリ会”という集団が乱入してくる時間なのだが彼らは現れない。彼ら抜きでは二次会はどうも盛り上がりに欠けてしまう。

一次会も無事に終わり、宿舎の一室でオメズリ会とともに二次会が始まってしまった。私は一世一代の決心をして“メンズバック”をやった……。

応援団の二回生を中心とするコンパ芸が底をつきはじめると、いつしか話題は各クラブの事になる。特に横のつながりについて多くの不満がでていた。各クラブの横のつながりは現在ほとんどないといってもおかしくないぐらいである。この事はこれからの体育会の大きな課題のひとつとなるであろう。このあと朝までどうなったかは私は知らない。

一夜明けて、歌唱指導、「クーラカンリ初登頂」の講演、全体討議の後「宇宙を股に」の合唱でリートレは幕を閉じた。

全体討議の話題の中で、クラブと授業の両立についての討議があったのだが、私は今もこの事については暗中模索の状態である。工学部ということもあって、私はどうしてもぬけられない授業がある。それだけならいいのだがテストの近づいている課目まで出てクラブを犠牲にしてしまう。個人の自覚に任されているとはいえ今、クラブを休むことのできる基準があいまいになりつつあるような気がする。最後に部員全員にこれらの基準がどこにあるのかという問題提起で終わりにしたい。

けのわからない答えが返ってきたことがあると思います。ゲーム中においても、「このプールの水は、乳酸水溶液（枯葉などの沈澱物も観察され、緑色を呈する）で、その浸透率は、水温の低さと液体に接する身体の面積の関数であり、それゆえ、泳ぎ回って水温を上げ、胸まで水面に出して接触面積を減らさねばならないという教えがあるが、ポジション柄、両手を下げてジッとしている私は、皆より疲労が激しいのではないか……」

などと異次元にトリップしている間に、現世では、ビビーッ！とゴールインの笛が鳴っていたりする。

このような現実逃避癖は、至る所で顔を出し、水泳に対しても、練習が苦しい時や、タイムが伸び悩んだ時は、「自分は水泳には向いていない」とか、「生活時間がなくなる」とか、あれこれと泳ぎたくない理由を捜し出して自己弁護する側にまわる。今にして思えば、もっと自分の可能性に挑戦する積極性が必要だったと後悔している。

最後に、ナマケ者の私でしたが、大学生活に冷たくも熱い味付けをしてくれた水泳部に感謝したい。

（T35） 中川 善雄

映画を見た。

物語は少年の登場で幕を開ける。少年は未知の“世界”に足を踏み入れてしまう。当初、戸惑っていた彼も、様々な試練を経るうち、徐々に“世界”に馴染んでいき、力をつけていく。彼を育てていったのは、彼自身の努力と、なによりも取り巻く人々の愛だった（決して恋愛ではない）。順風満帆の少年の成長ぶりは、まさに成り上がりそのものだった。そのサクセス・ストーリーは僕を魅了し、物語のハッピーエンドは疑いのないものだった。

成長した少年は初めて目標をいだく。それは彼にとって悲願であり、また決して無理なものではなかった。調子に乗っている彼は夢の実現を疑わず、むしろ酔いしれていた。

そんな彼を待ち受けていたものは、現実の冷たいしっぺがえしであった。夢の実現を信じて疑わなかった彼にとっては、夢破れた事こそがまさに夢のような事であり、その心の中には、埋めることの出来ない穴が空いたままとなってしまう。やがて少年はそのまま“世界”を去っていく。

今、彼はカウンターに身を寄せ、お気に入りのハーバー・ロックを傾けながら、あの“世界”の事に思いを馳せている。出会った人達には深甚の敬意と感謝の気持ちでいっぱいであり、まさに一生の友人を得た思いがする。充実した生活であったと言えるだろう。しかし、埋まることのない穴は依然寒々しい風を運んでいる。でも、彼は決して後悔してはいなかった。ただ、もう少し努力できなかつたか？と反省しているだけだ。きっとそれは少年をより大きくすることだろう

・・・グラスが空になり、物語は終わった。

映画が終ると、僕は、夢を見たことを喜び、それを与えてくれた“世界”に感謝し、そこにいたことを誇りにしている、そんな少年に拍手を送った。

(B35) 浜田 昌己

私は水泳が好きである。そして、神大水泳部が好きである。なぜならそこは、唯一、自分自身が純粋に打ち込める場であったからである。

苦しいことや辛いこともあった。あまりの水の冷たさに、ぶっ倒れたこともあった。しかし、やめたいと思ったことは一度もなかった。クラブのために自分が犠牲にされていると思ったこともなかった。自分が自分のために、好きでやっていることだからである。

思えば、随分わがままを言ったし、迷惑をかけたかもしれない。しかしそれは、こうすれば速くなる、という自分の信念を貫きたかったからで、そのおかげでベストを出し続けることができたと思っている。また、そのように執着心を持ち続けることができたことを誇りに思っている。

後輩諸君にも、純粋に水泳に打ち込んでほしい。4年間はあっという間である。いまこの瞬間を大切にしてほしい。そして、たとえ一瞬でもいいから光り輝き、そして燃えつきてほしい。

最後になりましたが、多大なる影響を与えて下さった諸先輩方、同輩達、そして我が神戸大学水泳部、本当に、ありがとうございました。

(A35) 原田久富美

とうとう卒業となった。いろんなことがあったように思う。今まで考えてきたところを書いておこうと思う。この四年を振り返れば楽しいことばかりでなく、当然ながらしんどいことも数多くあった。しんどかった事のほうが多かったかも知れない。けれどもとても愉快に思えるのである。それは自分の人生は自分の思うようにやるしかないというような簡単な事を改めて実感した時からかもしれない。他人には分かってもらえなくても自分がしっかりしていればいいんだ。無理

に人に好かれるように気を使ったりしなくてもいいじゃないか。そんなふうに関心直ったときがぜん、楽しくなってきた。もしも今やりたくないならいますぐにも辞めてしまっても良いと思っている。またそうすべきだと思う。クラブのような一見打算のないように思われることでも、なんとなくわけも分からないまま終わらせてしまうことも出来る。しかし常に情熱を燃やすことは中途半端ではできない。体を鍛えるためや、勝つためや、泳ぐことが好き、理由はなんでもいけれど主人公は自分なのだから精一杯やるべきだ。決してクラブは考えてやっても面白くないもので、感じるものがあるからいいんだと思う。ただ自分としては、もっともっと競泳が速くなり、そしてもっともっと水球が上手になりたかったと思う。その点ではまだまだ未熟なまま卒業しなければならぬことが残念だ。理想に比べて余りに低い水準にとどまってしまったことが、悔いの残るところである。蛇足になるが、私はチームワークについて別に行動をある規範に従わせることだとは思わない。チームのメンバーが頑張ったから自分も頑張るというのも違うと思う。各個人が強くなれば良いのだ。弱いもの同士にはチームワークなど存在しない。後輩諸君に言い残すとすれば、情熱を燃やしてやるなら何か感じるものが有るはずだから、他人の言葉など信じないで感じるままにやればいいと思う。神大水泳部に決して飲み込まれて自分が分からなくなるようなことではいけない。くどくなるが自分が熱く感じるものを大事にしてほしい。出来ればそれが他人のためでなく全面的に自分のための行動であってほしい。それが強さになると思う。最後になってしまったが、私は頼りがいある先輩に、良い同輩に、可愛い後輩に恵まれたと思う。これらの人の恩恵にあずかって成長したのは実感である。このことを本当にみんなに感謝したい。

(J35) 日比 勝己

四年間の神大水泳部生活に別れを告げるにあたって、しみじみと思うのは、自分のような人間がよくこのクラブで四年間も続いたものだという事である。いや、むしろ続けさせてもらえたと言うべきかもしれない。

神大に入って、特別にやりたいということもなく、体をもてあましていた私は、高校の水泳部を引退して以来、ちょうど水が恋しくなってきたこともあり、いつの間にやら六甲台のプールに足を運ぶようになったのである。何も知らずにこのクラブに入った私ではあったが、高校時代と比べてあまりのレベルの違いに面喰らいながらも何とか端の方のコースを与えてもらって練習に参加することができたのである。一方、まだ単位修得の要領を得ていなかった私は講義という講

義には全て出席し、少しでもノートが欠けるとすぐ人に人の部分を借りて写すという無謀な事をやり、四限目はクラブで出られないと思ってわざわざ何も取らずに空けておくというバカな事をしていたのである。こんな具合で一年目のシーズンは朝は九時から講義に出て三時半には六甲台に上がり、暗くなるまでクラブをやって家に帰れば夕飯を食べてすぐに寝るという生活が長く続く、全てがクラブ中心に回転していたのである。しかし、極端な話だが私の大学生活はこの一年間に凝縮されるといっていいほど今振り返ってみて印象が強烈なのである。新歓、合宿、関ポロ、そして数多くの試合があったが、それらは全て自分が初めて体験するものであり、またそれに対して新鮮な感動を覚えたものだった。また、練習においては、少しでも先輩や同輩達に追いつこうと懸命になり、競泳では一つでも試合に出してもらえるように努力し、水球では泳力がないにもかかわらず、やるからには帽子をかぶりたいと思い東京弁のコーチに怒鳴られながらも必死で練習したのである。こうして一応水泳に関しては部の一員として何とか加わることができたと思うが、その反面、先輩の酒を拒み続け、仕事も目立たぬように怠慢し、自分勝手な事ばかりしていたことについては非常に申し訳なく思っております。

このように、ただプールに来て泳いでいるだけの私でしたが、こんな自分が四年間も水泳が続けられたのは全て神大水泳部の皆さんのお蔭であります。私の大学生活はこのクラブ抜きにしては考えられません。本当に良い思い出を作ることができ心から感謝しています。

(J35) 三好 岳

水泳部は、僕にとってひとつの大きな舞台でした。“誰の物でもない、これは自分の舞台なんだ！”そんなふうにずっと思い続けてきた僕なので、その実力の有無に関係なく、ワキ役では決して満足せずに常に主人公でありたいと願ってきました。だから毎日が本当に張りがあって楽しく充実したものでした。

この舞台の上で、僕はいろいろな人に出会いました。厳しく、そして優しく指導して下さった先輩、頼りない僕についてきてくれた後輩たち、とうとうまる4年、この舞台で一緒に生活した同じ学年のヤツら、それらの人々とこの4年間、一生懸命水泳部というものを演じてきた…そんな気がします。先輩に“軟弱だ”とおこられ続けたこと、初めて決勝に出て入賞したこと、水球で初得点をあげたこと、生まれて初めての殴り合い、試合に負けて泣いたこと、毎日笑っていたこと、そんなことを全部この舞台でのひとつひとつの情景として覚えているし、今思い出しても、ふっとそこへ戻れそうな気がします。この4年間、1人の水泳部員を真剣に自分の中の真実を精いっぱいぶつけて演じてきたことで、自分自身は本当に大きくなったと思うし、そうしてきたことこそ、僕にとっては1ばん大切なものです。

とにかく、4年間が過ぎてしまって、この舞台での僕の出番は終わりました。毎日のほとんどをすごしてきたこの舞台で、僕は僕らしく翔んで、跳ねて、吠えていきたいと思います。後輩諸君！ この舞台でどんどん活躍し、活気あふれるものにしてください。さらばです。

PS まる4年間、僕の性格を知りつくしながら好きなようにやらせてくれた同輩のみなさん、僕はあなた方に本当に感謝してるし、それに尊敬してます。こんなにいい仲間めぐりあって僕はとても幸せ者です。4年間ほんとうにありがとう。

(T35) 吉岡 成人

前略、おれにとって泳ぐことは、いつもやりたいことであつた訳で、決して、やらなきゃいけないことではなかつた訳で、4年前の5月に、六甲台に足を運んだ時も、ただ、泳ぎたいからやってきた訳で、けど、それから何となく変つてしまい、ただ、ただ、残念で仕方ないです。

おれにとって、この部を続けていく上で、使命感なんてものは、少しも要らなかつた訳で、自分の気持ちに、素直にやってきた訳で、それが、おれの大学生活での信念でもあつた訳で、ほんとおれ、楽しかつたです。

前略、青春とかいうものは、口に出して言うには、実に照れくさい訳で、他人には、絶対理解してほしくない訳で、これは、おれだけの、おれのためだけの、おれの青春であつてもらいたい訳で、おれさえ、満足していれば、それだけで、十分、価値があり、重たい訳で、でも、もしそれを、誰かと一緒に感じられたら、その一部でも、他人と共有できたら、それは、この上もなくすばらしい訳で、かっこ良く、熱く、体が震えるくらいうれしい訳で……。おれには、そんな誰かが、11人もいます。

前略、4年間というのは、やっぱり、長かつた訳で、おれを大人にしてくれるのには、十分な時間であつた訳で、ものの見方、感じ方、接し方まで、教えてくれた訳で、やっとおれ、一人歩きます。4年間、いろいろ勝手ばかりやらせてもらつて、迷惑だつたでしょうが、迷惑だつたでしょうが、おれもう一人でやってゆけます。

前略、おれにとって泳ぐことは、時には、やらなきゃいけないことであつた訳で、それは、もうこの上ない嫌悪なわけで、4年前の5月に、六甲台に足を運んだ自分に腹が立ち、どうしようもなく、やりきれない訳で、でも、それも少しずつなくなりました。

おれにとって、この部を続けていく上で、開放感こそが、必要だつた訳で、自分らしさをとりもどせた瞬間こそが、まさにそれであつた訳で、ほんとおれ、うれしかつたです。

前略、悲しみとかいうものは、男なら、顔に出してもいけない訳で、他人には絶対、見られたくない訳で、おれ自身の中でもみ消し、おれ自身の裏側におしこめてしまうものな訳で、こうい

うことを口にすることさえ、許されない訳で。でも、もしそれを誰かにぶつけることが出来、その一部でも、他人に、委ねることが出来たら、それはこの上もなく、安らく訳で……。おれには、そんな誰かがいます。

前略、4年間というのは、やっぱり短かった訳で、おれを、男にしてくれるのには、少し時間が足りなかった訳で、人の愛し方、心の通わせ方など、まだ、十分には学んでいない訳で、まだまだおれ、迷います。

この先、迷惑でしょうが、迷惑でしょうが、おれのこと、よろしくお願いします。なんてね。

(P35) 林 磨智子

私がこの水泳部に入った目的は、①友だちの輪をひろげるため、②100Frで大ベストを出すため、③やせるため、の3つでした。このうち②と③については、4年間かけても結局果たせなかったけど、①については今では誰にでも胸をはって自慢できます。

「私はクラブですばらしい仲間たちにめぐりあえた。」って……。

練習のしんどい時には声をかけあって励ましてくれたり、しょうもないギャグをとぼして余計に疲れさせてくれたり……。また、試合の日には他大学があっけにとられるような個性あふれる応援をしてくれたり、わずかな Best でも自分のことのように大喜びしてくれたり……。そして、P.S.コンパでは、ジャージをぬぐ余裕さえ与えずにプールに放り込んでくれたり……。ほんとうに、他の場では得られない数多くの貴重な思い出をつくってくれた仲間がいました。

そんな仲間の中で、果たして私はどんな存在だったのかな……って考えてみると、入部して1年ほどは何かにつけて先輩方(特に女子)のお世話になりっぱなしで、いろんなこと教えていただいてました。先輩方がとても頼もしく大人びてみえて、いつかきっと私もあんなふうになろうって思っていました。ところがいざ自分が先輩とよばれる立場になってみると、先輩らしいことは何一つしてあげられないばかりでなく、逆に後輩に助けられ、励まされ、教えられたことが数知れず……。なんとも頼りない存在だったようです。

泳いでもあんまり速くないし、お酒もあんまり強くないし(ほんまやでー)、性格もあんまり体育会にはむいてない私が4年間も泳ぎ続けてこられたのは、まわりでしっかり支えてくれた仲間のおかげやと思います。みなさん、ほんまにどうもありがとう。うまく言えないけど、水泳部を選んでよかったな……って、今、心からそう思えます。

尚 三住千里さん(A35)は、本人の御希望により、省略させていただきます。

っています。

木下 憲臣；P 36（初等）；自短：姫路西高



彼は“教師の卵”です。教育実習を今年ひかえた、去年の夏は、3Lのビールのたるを片手に2時間にもわたって熱のこもった講義をしていただきました。その場に不幸にも居合わせた我々1回生代表の3人は、たいへん為になるお話だったと今でも思い起こす次第です。我が師、木下教授から授かったことはただ1つ。“お前らコンパの時には先輩に酒ついでまわるのがふつうや。ワシらはその1杯がうれしいんや。”

甲野 賢（主将）；S 36（物理）；蝶：鳴尾高



ジョワッ！ キャプテンウルトラコーノだ。スーパーカブに乗って登場。ウエイトできたえた身体は敵をよせつけない。パワーでも誰にも負けない。しかし彼にも弱点がある。水中での戦闘能力は一分。ピコンピコン危い！ カラータイマーが赤に変わった。腕が上がらない。アルコールエネルギーを補給せよ。がんばれ我らのキャプテン。気合いは十分、自分に厳しい彼は、水泳部に気力を注ぎ我々を引っばっていってくれると思います。

郡 幸雄；T 36（建築）；蝶：姫路西高



彼はとてもやさしい先輩です。彼の怒った顔など見たことはありません。皆から「バカだ」「マヌケだ」「ケチだ」「せこい」「梅田まで行くのに定期かりるなよ！」「お前10円玉捜すんうまいのお」「お前実は貧乏なんやろ！」「医者が入院せえゆうたら入院せえよ！」「骨折ってまで学校くんよ！」と何を言われても絶対に怒りません。郡さ～ん、ケガがなおったら、また姿を現わしてくださいね。では、夏までさようなら。

近藤 直明（主務）；B 36（商）；自長：尼崎北高



<ウソハッケンキデス>あなたは、質問に対して「いいえ」としか答え
てはいけません。

「アナタハ、シンダイケイエイガクブデスカ？」

「いいえ」

「アナタハ、フリーロングデスカ？」

「いいえ」

「アナタハ、ダイガクニハイッテカラ、ガクシャトヨバレタコトガアリマスカ？」

「いいえ」

「アナタハ、シュムトシテ、チームニコウケンシマシタカ？」

「いいえ」

「アナタハ、コウコウジダイスイキュウラシタコトガアリマスカ？」

「いいえ」

「アナタハ、ユメノナカデ、ダレカニオソワレタコトガアリマスカ？」

「いいえ」

ブーノ ブーノ ブーノ

「アナタハ、ウソツキ、アナタハ、ウソツキ、アナタハウソツキ」

坂田 亨；A36（農工）：自長：加古川東高



トオルさんは加古川出身です。田舎者なんて口が裂けても言えません。トオルさんはお喋りです。口が裂けてもずっと喋っています。トオルさんは誰にでも話しかけます。タクシーに乗ればタクシーの運ちゃんに。コンサートに行けば隣りの見ず知らずの女の子に。ご飯を食べる時なんかふりかけをかけずに話しをかけて食べます（食べへん食べへん）。トオルさんはとってもおしゃれです。頭の先から足の先まで全部ブランド品です。頭はアデランス、下着はゲンゼ、靴の中身はオドイーター。まあ～おしゃれ～。どうりで顔が古谷君してると思った。

徳永 守；A36（農化）：背：長田高



学名：TOKU（守）（）内は通称

体長 約1.7 m **食べる物** 鶏肉は好まない。

生息地 高倉台付近、同地域にARI, TAKEなども生息
(英明) (和広)

生活態形 同種でNAKAという生物がいるが、殊んど同種とは思えない。童話「アリとキリギリス」を思いおこさせる。
(泰弘)

特徴 TAKE, MAME等と同様、背泳が得意とする。速い。HASE, ADO等と同様、
(朝隆) (智文) (和彦)
無類の麻雀好き。強い。

分布地 同種の生物としては珍しく、実験室にはあまりいない。

中塚 泰弘；A 36（農化）：平：富田林高



人は彼のことをロリコンと呼びます。なぜなら彼は、おニャン子が大好きだからです。彼のお金の単位は、〇千円、〇百円ではなく、おニャン子の写真〇冊、おニャン子のレコード〇枚だそうです。こんな彼ではあります、同回生で同学部同学科のT氏とは比べものにならないくらい授業にも、練習にも出席をされ、昨シーズン、水球ではレギュラーとして鮮やかなプレーをみせてくれました。今シーズンは、水球のためにプレストからフリーロングに転向されるとか。そんな彼の活躍を我々は期待しています。

森田 武士；J II 36：コ：大和川高



今晚は水野晴郎のコンパがいっぱいの時間です。今回御紹介するコンパは今世紀最大のコンパとして脚光を浴びている「ザ・モリタ」です。主演、監督ともに森田武士。このコンパの見所というとなんといっても、あの次々と飛び出すコンパ芸。中でも究極のコンパ芸“人間噴水”には場内騒然ノ失神者続出ノ一部の区域では、すでに上映中止になった所もあるということです。また、彼のすごい所は、コンパ芸のシーンで一切スタントマンは使わず、すべて自分でやってのけるところです。コンパのお好きな方は是非一度御覧になったらいかがでしょう。いや〜やっぱりコンパっていいですね〜。それでは、また。

井口 恵理；T 36（建築）：マネージャー：京都教育大学付属高



彼女は京女である。マネージャーである。工学部である。彼女は気の効く京女である。やさしい先輩である。透る声である。そして何よりも自分の名前を書くことが好きである。部室内のボール、机からはじまり、あらゆるものに名前を書き、あげくの果ては部室の天井いっぱい、うどんのような字で名前を書いてしまうほど自分の名前が気に入っているのである。彼女も自分の作品に「信じれ〜ん。」と喜びの声をあげていたが、私どもは今後の作品により多くの期待をつのらせるのである。京女マネージャーバンザイノ

加地 恵；J 36：背：京都教育大学付属高

A：「おっと今の娘90点。」

B：「お前、知らねえの、彼女、神大水泳部で、親父さんが京都で政治家やっているという有名



な人だぜ。」

A：「マネだろ？」

B：「いや、話では7コースを支配し、大会では入賞しまくりらしいぜ。」

A：「そ、そうか。」

B：「おまけに、酒に強く、コンパではつきまくり。」

A：「……………」

次の日から、酒に弱く、おまけに泳げないAは、酒を飲みながらスイミングに通いだしたそうです。

高元 智子；甲南大（文）：マネージャー：神戸高



ポートアイランド星から神大水泳部のためにやってくるスーパーマネージャー“ちいちゃん”とは私のことよ。夜のおつとめが忙しい中を、今日もウォッチ片手に華麗な指さばきを披露して部員の信頼を一身に集めているのもこの私。練習後には、タコ焼き屋、アイスクリーム屋に、マメに出没してパワーを蓄えているのもこの私。つまり、神大水泳部の影の女帝とは私のことなのよっ！ ……そういうわけで、また今シーズンもちいちゃん先輩のこと本当に頼りにしてますよ。

（三回生）

植松 忠士；T 37（電子）：平：兵庫高



神大水泳部植松度チェック

- ① 寒さに弱い。
- ② 体重計にのると必ず“やせすぎている”になる。
- ③ ブレーメンの最後尾を泳いでいたことがある。
- ④ その翌年、7コースでトップを泳いでいた。
- ⑤ 肩透かしのようなギャグをとばしたことがある。
- ⑥ ビールよりも梅酒が好き。
- ⑦ 自動二輪の免許をもっている。
- ⑧ *雀風会に入会している。 *水泳部に創設された麻雀組織の呼称。
- ⑨ 泳法違反で失格したことがある。
- ⑩ 教養部は仮進級である。

上記のチェック項目フルマークの方こそが植松である。

奥村 直樹（副務会計）；E37；自短：沼津東高



二回生から入部したにもかかわらず、1シーズンでリレーメンに加わるほどの大躍進を遂げた、妙な東京弁を使う静岡人。実家に帰った時は、クラブのために「うなぎパイ」をさし入れて下さり、さわやかさあふれる好青年ですが、お酒が入った時に、しばしば見せる笑顔により「さわやかさあふれる好青年」は偽ということも可能です。

黒田 茂（副務内渉）；A37（畜産）；マネージャー；豊中高



一昨年の冬、ぱったりと姿を見せなくなった彼に対し、周囲の目は冷たかった。「あいつやめたんちゃうか」「やっぱり無理やってんで」「かわいそーに」などなど。しかし次の年の夏、突然プールに現れ「僕、マネージャーになります」と一言。誰もが予想しえなかった展開に部員一同口をあんぐり…。その驚きの大きさは当時キャプテンであったあの三好さんが

黙ってしまった程ですから容易に想像がつくでしょう。マネージャーになってからの彼は全く人が変わったようで、選手当時の暗く沈んだ表情なんてどこ吹く風、毎日が光り輝いているようでした。冬になってもその勢いは劣えることがなく、陸トレ、スイミングなどへの出席率は選手をも上まわるほどです。最近耳にした話によると「お前、水泳部のマネージャーやってんねんで」の問に対し「いいえ選手です！」と答えるとか、彼が選手として復活する日も近いことでしょう。

竹本 和広；T37（工化）；背；長田高



いつもヘラヘラいや、ニコニコ笑っているとてもやさしそうな先輩です。彼の目は笑うと線になるのですが、その線は異常に太い。同回生の某氏の怠慢のおかげで去年は一人で一回生の世話をしていたかわいそうな先輩であります。今年も去年に続く彼のバック面での成長を祈ります。「三好さ～ん、アメリカ行ったらノーカットのエロ本買ってきて下さいよ。」彼は

AIDSの心配のない不難な人でもあった。

守神 敦；J37；個；広島修道高

一回生の時は、ただの広島のイモだった彼も、昨年は公私ともに一大転機。水球に情熱を燃やす彼は、日頃、他の部員よりも多くの合宿をこなし、体力を養っています。また、彼はカラオケが大好きで、18番は「時の流れに身をまかせ」で、プレ六甲祭では、その見事な歌唱力を披露



してくれました。それでは皆さん一緒に歌いましょう。サンハイ♪いまは
○○しか愛せない♪

川上 景子；P 37（体育）：個：尼崎北高



この先輩は驚異の人である。凄まじいばかりの水しぶきをあげ、今日も
プールを行ったり来たり。あの小さな体のどこにあれ程のパワーがあるの
だろうか。先輩のスピードの秘密は、あのたくましい太ももにあるのだそ
うだ。体には恵まれていない先輩だが持ち前のバネと根性には頭の下がる
思いである。それでは最後に、「川上さんの足とかけて、ヤクザの人生と
とく」「その心は?」「太くて短い」「うまい！ 座布団一枚!」

村上 美和；P 37（体育）：背：天王寺高



大学に入ってから背泳ぎを泳ぎ始めました。練習はそこそこでもベスト
はたくさん。多くの大会で上位入賞。がんばりました。神大女子水泳部の
名はまだまだ忘れさせませんよ。絶対に！でも、シーズンが終わってち
ょっと休憩。私の姿を見たかったらパスポートでも取ってハワイにでも来
てね。

植原こずえ；松蔭女大（文）：マネージャー：市岡高



やはり『キョンシー』はいたのだ。キョンシーは人にとりつく亡霊であ
り、「キョンシー」とは日本語で「こずえ」という意味です。この人の話
になると決まって1人の男が浮かび上がって来ます。彼女の強引さに次第
にやつれ行く彼の姿は見るに耐えられません。しかし、彼女はたとえクラブに
来なくともクラブ内で、コンパで、酒の肴として皆につつかれ、楽しい話
題を醸し出させるという貴重な存在なのです。今年はクラブ全体のために良きマネージャーとし
て頑張ってもらいたく存じます。

藍 公明；M 38：自：千葉高

藍で〜す。有名なCHIBAから来ました。烏丸せつ子の弟みたいですけど、池上季実子の方

が好みです。僕にキーボードを貸しておくんなせえ。ファンキーミュージックを演奏しましょう。僕に柔道着を着せてくんなせえ。三四郎してみましよう。今シーズンはしんどかったなあ。でも先輩には親切にしてもらったし、国公立にも出れたし、おっと麻雀もしたし、「ウーノ」あっ、またわけのわからない言葉が出ちゃった。

(二回生)

浅川 明弘；M38；背：甲府東高



彼がいつ生まれ、どこで何をしていたのか誰も知らない。だが部内の誰よりも人生経験が豊富なことは確かだ。彼のあの低い声にはフランク永井もびっくり。代わりにレコードデビューするという噂もチラホラ。彼のあの“腕蛇行バック”にはインドのコブラもびっくり。代わりにマンガースと戦うという噂もチラホラ。彼のあの“拜みブレスト”には恐山のいたこもびっくり。代わりに岡田有希子の霊を……あぶ・な〜い。多種多才の彼に全員、脱毛。もとい、脱帽。

岡崎 憲之；P38（初等）；蝶：尼崎北高



僕は岡崎憲之です。「君、小学生？」と間違える人もいますが、今年、三回生のKさんと共に“七五三”いや成人式をむかえたのですよ。いくら背が低いからといっても、僕のおじさん顔を見てどうして間違えるのでしょうか。僕はもの真似が得意です。いつも人の行動をよく観察していますからね。また、ギャグを言うことも得意ですが、最近シャレにならないほどえぐくなってきたので、控え目にしています。

小笠原朝隆；T38（計測）；背：彦根東高



彼は、滋賀県立長浜商工高等学校水球部を率いて国体優勝を果たし、また、インターハイにおいても優勝という数々の輝かしい成績を残し、その後、大学に進学してからも水球チームのエースとして活躍し、この程、めでたくデサントに就職なさった小笠原元己さんの弟です。

是枝 良文；S38（地球科学）；自長：鶴丸高

1986年春、はれて神戸大学理学部地球科学学科というパツと思いつきそうにもない学科に入



学し、第二外国語にロシア語をとっている彼は、言葉のイントネーションで地方出身と見破られてしまう鹿児島県人だ。彼は何かと話題多き人であった。一時は、先輩の男子部員に淡い恋心を抱いた事もあったのだが、そんな彼を一躍二回生のスターダムにおしあげたのは、“茶碗むしの唄”であった。あの振り付けで踊ったときには、その場を放沸させ、我々の彼に対する認識を一変させたのだった。

「いや〜」「あー」などと独特のアクセントでしゃべる彼は、こんなことを書かれながらも黙々と練習し続けるのでした。

田中 和彦；P 38（心理）：自短，GK：尼崎東高



「おお！ 外人が麻雀やとる!!」彼との出会いはセンセーショナルであった。神大水泳部で限りなく外人に近い奴、それが彼、アドルフ＝フォン＝ハインリッヒフィッケンこと田中和彦君である。彼の手はデカイ。水球のボールでフォークボールが投げれるぐらいだ。おっと、気を付けろ！彼の口の中に機関銃が見える。うわ〜、しゃべり出したら止まらない。今日も阪急電車の中で金縛りにあう僕でした。

羽瀬 智文（副務外渉）；J 38：自短：港高



彼は努力家である — 「オレ、上腕三頭筋が弱いわ、もっと鍛えなあかんわ」

彼は自分の体を知っている — 「オレ、肩が痛いわ」

彼は研究熱心だ — 「後呂さんを見てたらこうしてはるなあ」

彼の解説は天下一品である — あまり詳しくて思い出せない。

彼は男である — 「男は、やりたい時にやればいいんや」

彼の夜はうるさい — ギリ、……ギギギギ!!

そして彼はよく悩む。ひたすら悩み、また悩む。

〜♪ 静かな湖畔の森の影から〇×△!? と羽瀬が言う

ハセノ ハセノ ハセハセハセ♪〜

林 均；T 38（化工）：平：膳所高

ガオーッ、ガオーッ！ 二回生の中で無暗にパワーを放出する僕は、リン・キン。チャームポイントには豊かな毛。六甲台プールの寒さもこれでバッチリ。でも人は「熊」とか「胸毛」とか、



「危ない病気の名前か?」とか「自分でサークル作っという勝手につぶすなよ」とか「お前のもってきた合コンろくな女おれへんやんけ」とか言うんです。二回生一の酒豪で、そのパワーはものすごいです。が、人知れず涙を流すこともあります。あぁっ! なんて僕ロマンチストなの。こんな僕ですが、水球のプロフェッショナルとして命をかけるつもりです。

古谷 拓裕; B 38 : 個 : 大田高



国体に出場したことのある彼は、それを誇りにしてか、入部した時に言ったのは「え〜こんな楽な練習できませんよ。」(翌日、その生意気さを裏切ってヘコヘコ頭を下げてやって来ました)その後、酒のため身を滅した彼には“ベスト”という言葉はやって来ない。しかし、それなりに泳ぎが速い古谷君は、我が部の貴重な戦力である。ただ先輩の御好意にあずからうとニタニタと後ろについて行く姿は醜いものです。また彼の先輩に対する挨拶が「こんにちは!」ではなく「ごちそうさま!」であるということも隠しきれない事実である。

村田 功; B 38 : 個 : 洛星高



練習に対する自分の気持ちに疑問を抱きながらも地道に努力を続ける個々の彼は“指摘が鋭い”とか“新人類”とか言われておりますが、誰も彼を責めないで! ただ、自分の気持ちに正直過ぎた彼は、感じたことを言っているだけなのです(それが真実をついていたりして……)。とにかく、時々耳にする彼の明るい笑い声は、眼鏡の縁から斜め約ぎに出る眉とはりねずみのような髪と、眼鏡の奥に光る黒い目から得る印象とはまた違ったものを私たちに与えてくれます。

枝沢百合子; P 38 (教育衛生) : 自 : 明石清水高



“明石の奴は変な奴”そんな印象をどっぷり植えつけてくれたのは何を隠そうこのエダコです。一見おとなしそうな外見とはうらはらにハイクロンを入れ忘れた翌日の緑色に濁ったプールを見て“わーグリーンティーの中で泳ぐみたいで気持ちええやろなあ”と言ってみたり、道の真ん中で急に“ブレ山ブレ雄”のギャグを始める彼女は同時に“バへ食べにいこ”が口癖で甘い物に対しては、とてもマメです。昨シーズンは、そのエダコパワーで泳ぐ度に自己

best を出した彼女ですが、今年もより一層の活躍が期待できそうです。

小椋 栄理；B 38；マネージャー；岐阜高



私ね、小椋エリっていうの。私とっても人気者なのよ。応援団の人達まで〇〇〇って呼んでくれるわ。私、足に自信があるからプールサイドにいる時は、短パンをはくの。私が「足太いからはずかしい」って言ったらみんなの目は、もう私に釘付け。私が愛車に乗ったら彼はゆっくり走ってくれるわ。ヘルメットだってやさしく頭の上に乗ってくれるの。それからね、私オシャレだから街で売ってるような服は着ないの。全部オーダーよ。下着だってワコールじゃ合うのがないから、これもオーダー。こんな私だけど、クラブの中に私のハートをくすぐっちゃう人がいるの。それは、ヒ・ミ・ツ♡

昭和61年度活動報告

昨年、不本意な成績を残した神大水泳部であるが、今年は全く一から挑戦者として再出発である。いろいろな面で我が水泳部は過渡期にあり、ひとつまちがえれば崩れ去ってしまいそうな今、一度、原点に立ちかえることが必要である。練習も、まず大きな目標を掲げ、それに向けて決して付け焼き刃ではない、長期的な展望に立ったものでなくてはならない。そのような観点から今年度の活動へ向けて冬季トレーニングを始めた。

基本的な体力の欠如を補強する目的で距離の長いランニングやローパワーのトレーニング、サーキットなどを取り入れ、除々にミドルパワーからハイパワーのトレーニングへとすすめていった。またOB金コーチの御尽力で神戸イトマンのプールを借りることができ、短時間ではあるが集中的に泳ぎこんだ。そしてやはり金コーチの御尽力で太子スイミングスクールを1日中ほぼ全面貸切の状態で使用し、春合宿を行った。一部調子を崩した者もあったが、全体的には気合いの入った練習ができ、充分泳ぎこめたし、午後からは水球にも取りくんだ。

このように今年のシーズンに向けて練習を積んでいった。目標は、まず関ポロ優勝、関西インカレ2部優勝である。

(三好 記)

4月	春季合宿	姫路・太子SS
5月10日	新入生歓迎コンパ	六甲台生協食堂
5月18日	凌泳総会	六甲台教官食堂
6月1日	京阪神三大学戦	京都大学プール
6月2～6日	水球合宿	六甲台プール
6月8, 14, 15日	関西学生水球リーグ戦	大阪市大プール
6月29日	兵庫県学生選手権	神戸市民プール(西代)
7月12, 13日	関西国公立戦	京都大学プール
7月15～18日	競泳合宿	六甲合プール
7月20日	旧三商大戦	大阪市大プール
7月27～29日	関西学生選手権	大阪プール
7月31日	京阪神三大学Jr.戦	大阪大学プール
8月11日	対大阪市大戦	神戸六甲台プール
8月20, 21日	全国国公立大会	福岡県営プール
8月29, 30日	近畿国立大学体育大会	城山公園プール
9月1～5日	日本学生選手権	日体大健志台プール
		明治神宮プール
9月13～15日	関西学生水球リーグJr.戦	大阪市大プール
9月21日	月見の宴	六甲台プール
11月8, 9日	六甲祭	
1月11日	初泳ぎ	県立健康センター(住吉)
3月21日	4回生追い出しコンパ	文理農学部生協 LANSBOX

京阪神三大学戦

水泳に関しては、全くの初心者として入部した僕は、この京阪神三大学対抗戦が生まれて初めての競泳の試合でした。今まで競泳の試合なんて、テレビのニュースぐらいしか見た事はなく、何もかもが初めての経験でした。朝早くからの場所とり、そしてテント張り。他大学の人たちと入り混じっての試合前のアップetc。どれも新鮮な体験でした。

試合の方は、シーズン最初の試合をとってその後も波に乗ろう、といった意気込みでのぞみ、見事優勝しました。

その後は、京都市内の屋上ビアガーデンで三大学合同コンパを行ない、盛り上がった後には、輪になってそれぞれの大学の部歌などをうたい、この大会は幕を閉じていったのでした。

(田中 記)

☆京阪神三大学戦

6月1日 於 京都大学プール

・100m自由型

浜田 59-7 1位
島崎 1-02-5 3位
木下 1-05-1 6位

・400m自由型

中川 5-15-9 3位
奥村 5-41-8 5位
坂田 5-42-6 6位

・800m自由型

近藤 11-01-9 2位
吉岡 11-56-9 3位
安井 11-57-0 4位

・200mバタフライ

郡 2-35-9 2位
岡崎 2-57-9 5位
甲野 3-21-8 6位

・200m背泳

徳永 2-34-0 1位
小笠原 2-37-4 2位
竹本 2-44-2 4位

・200m平泳

後呂 2-42-2 1位
中塚 2-55-0 2位
日比 3-05-3 6位

・200m個人メドレー

原田 2-43-9 3位
村田 2-47-8 4位
守神 3-05-2 6位

・400m個人メドレー

三好 5-51-2 3位
古谷 5-56-4 4位

・400mメドレーリレー

徳永・後呂・郡・浜田
4-29-0 1位

・800mリレー

島崎・中川・近藤・浜田
9-50-3 2位

総合

1位 神戸大 94点
2位 京都大 89点
3位 大阪大 25点

関西学生水球リーグ戦

今年も関ポロがやってきた。優勝を目指して最高に気合の入った試合だった。自分達の力の過信から市大戦に苦戦する場面もあったが、何とか辛うじて乗り切った。立命戦、京教戦ともに快勝した。阪大戦は、思うようにはなかなか勝たせてもらえなかったが地力差により斥けた。優勝決定戦である京大との最終戦は緊迫した好ゲームとなり一点差で神大はまたしても優勝できなかった。反省すべきことは多く残ったがここでは書かない。敗戦は水球主任であった私のいたらなさのゆえでもあり、またすべては私の責任でもない。しかし次に何をしなければいけないのかその他いろいろ得ることの多い試合であったように思う。告白すると私は試合中に不謹慎だと思う

れるかもしれないが鼻歌を歌ってるような気分だった。そんなふうに私の関ボロは夢のごとく終わった。最後に、御声援いただいたOB諸兄に誌面を借りて御礼申し上げます。（原田 記）

☆関西学生水球リーグ戦

6月8・14・15日 於 大阪市立大学プール

神戸大	Q	大阪市立大
2	I	2
4	II	1
3	III	6
5	IV	3
14	計	12

1. 有利
2. 郡 (2)
3. 後呂
4. 中塚(4)
5. 木下(4)
6. 中川(2)
7. 浜田(1)
8. 吉岡
9. 近藤
10. 甲野
11. 坂田
12. 守沖
13. 岡崎(1)

神戸大	Q	京都教育大
9	I	0
4	II	2
4	III	1
7	IV	1
24	計	4

1. 田中(真)
2. 三好(4)
3. 林 (1)
4. 郡 (2)
5. 原田(3)
6. 中塚(2)
7. 岡崎(2)
8. 徳永(2)
9. 吉岡(3)
10. 近藤(3)
11. 坂田(2)
12. 竹本
13. 小笠原

神戸大	Q	立命館大
6	I	0
3	II	0
4	III	1
4	IV	4
17	計	5

1. 有利
2. 三好(2)
3. 中川
4. 日比
5. 原田(2)
6. 後呂(7)
7. 中塚
8. 浜田
9. 木下(4)
10. 島崎
11. 甲野
12. 守沖(2)
13. 植松

神戸大	Q	大阪大
3	I	0
3	II	4
5	III	2
2	IV	3
13	計	9

1. 田中(真)
2. 三好(3)
3. 日比
4. 中川(2)
5. 原田(4)
6. 郡 (1)
7. 浜田(1)
8. 中塚(1)
9. 岡崎(1)
10. 木下
11. 吉岡
12. 近藤
13. 有利

神戸大	Q	京都大
3	I	3
4	II	6
2	III	3
3	IV	1
12	計	13

- | | | |
|----------|----------|--------|
| 1. 田中(真) | 6. 郡 (I) | 11. 木下 |
| 2. 三好(I) | 7. 後呂(I) | 12. 岡崎 |
| 3. 日比 | 8. 中川 | 13. 有利 |
| 4. 林 | 9. 浜田(I) | |
| 5. 原田(8) | 10. 中塚 | |

1位 京都大 5勝	4位 大阪市立大 2勝3敗
2位 神戸大 4勝1敗	5位 立命館大 1勝4敗
3位 大阪大 3勝2敗	6位 京都教育大 5敗

兵庫インカレ

6月29日、神戸市民プールにおいて兵庫インカレが行われた。昨年と同じく天候には恵まれず、朝から一日中雨という空模様であった。本格的な競泳シーズンの幕明けともいえるこの試合では、全員参加の方針のもとにエントリーがなされ、新入生にとってはデビュー戦、上級生にとっては今シーズンの自己の調子を試す場であったようである。今年は、「昨年、一昨年とは異なり」、競泳合宿が7月後半に計画され、この時期においては強化練習のみとなった。泳ぎ込みには少々不安を感じつつ当日を迎えたわけであるが、個人的には今シーズンに向けての明るい材料も多かったようである。しかし、チーム全体としては盛り上がり欠けるものであった。試合そのものの印象の薄さとは対称的に、その後三宮で起こった事件については部員一同の記憶に鮮やかであると確信する。内容についてはふせておくが、数名の人々の普段には見られない一面をあらわした大事件であった。

(加地 記)

☆兵庫インカレ 6月29日 於 西代市民プール

〔男子〕

・100m自由型

浜田	59-5	3位
島崎	1-02-4	
木下	1-05-9	

・200mバタフライ

郡	2-29-3	1位
		・大会新
岡崎	2-45-3	4位
吉岡	3-05-3	

・200m個人メドレー

古谷	2-35-8	2位
原田	2-36-6	3位
守沖	3-05-5	

・200m自由型

奥村 2-26-8 5位
木下 2-38-2 6位
田中和 3-00-7

・400m自由型

近藤 4-57-6 2位
中川 5-12-8 5位
坂田 5-30-5

・1500m自由型

近藤 20-21-3 2位
中川 20-57-8 5位
安井 22-11-0

・100mバタフライ

郡 1-05-4 2位
岡崎 1-12-5
甲野 1-20-8

・100m背泳

徳永 1-08-6 1位
小笠原 1-11-3 2位
神原 1-27-9

・200m背泳

徳永 2-33-3 2位
小笠原 2-34-6 3位
竹本 2-43-7 4位

・100m平泳

後呂 1-12-3 1位
・大会新
中塚 1-20-4 5位
植松 1-23-4

・200m平泳

後呂 2-43-8 1位
有利 3-00-7 6位
日比 3-03-6

・400m個人メドレー

古谷 5-39-9 4位
三好 5-54-0 5位
村田 6-05-1 6位

・400mメドレーリレー

徳永・後呂・郡・浜田
4-24-0 1位
・大会新

・800mリレー

浜田・古谷・郡・後呂
9-10-5

総合

1位	関西学院大
2位	神戸大
3位	神戸商船大
4位	神戸商科大
5位	甲南大
6位	兵庫教育大

[女子]

・100m自由型

枝澤 1-38-1

・200m自由型

加地 2-50-1 5位
林 2-59-3
枝澤 3-54-3

・400m自由型

加地 5-54-9 3位

・200m背泳

村上 2-49-7 3位

・200m個人メドレー

川上 2-50-1 4位

・400m個人メドレー

川上 6-07-2 4位

・400mリレー

川上・林・加地・村上
4-53-0

総合

1位	武庫川女子大
2位	兵庫教育大
3位	神戸大
4位	甲南大
5位	神戸商船大
6位	関西学院大

・100m背泳
村上 1-17-3 3位

・400mメドレーリレー
村上・林・川上・加地
5-52-2 3位

関西国公立戦

「明日の試合は京大や阪大に勝ちにくいんじゃない。それよりもひとりひとりがきっちりしたレースをすることを心がけてほしい。」前日のミーティングで私はそう言った。シーズンがまだ途中でチーム全体として足並みがそろっていないように思われたので、勝負を意識してプレッシャーを感じるよりも、各自がのびのびとしたレースをすることを願ったのである。

結果としてはまずまずというところで決して良いとはいえなかった。次の関西ICに目標をおいていたので、十分に調整をしていない状態であり、各種目ともエースのタイムが今ひとつで盛りあがり欠けたが、去年より力をつけている者たちがベストを出し、また1年生も力を発揮してその存在を示すなど、次の試合に向けて充分いけるという感じであった。

試合前には勝負を意識するなど言いながらも、いざ始まってみるとどうしても気になって結局得点計算しながら試合をすすめてしまい、私自身がみんなにプレッシャーをかけてしまったようで、大いに反省している。男子は一時阪大にリードされるなど危なかったが2位、女子はわずか5名の選手でリレーを含めフル回転であったが余裕で2位と、男女とも全国国公立戦へと駒をすすめた。

(三好 記)

☆関西国公立大戦

7月12・13日 於 京都大学プール

[男子]

・100m自由型
浜田(予) 1-00-7
(決) 59-9 5位

島崎 1-02-5
木下 1-06-0

・200m自由型
浜田 2-23-6

坂田 2-27-5
奥村 2-29-3

・400m自由型
古谷(予) 4-48-6
(決) 4-46-4 2位

近藤(予) 5-02-1
(決) 5-00-3 (7位)

中川(予) 5-03-7
(決) 5-11-0 (8位)

・1500m自由型
近藤 19-45-0 5位
中川 20-45-3 (8位)
安井 21-58-1

・100 mバタフライ

郡 (予) 1-08-7
 (決) 1-06-3 4位
 岡崎 1-10-1
 甲野 1-19-7

・200 mバタフライ

郡 (予) 2-33-8
 (決) 2-29-9 2位
 岡崎 2-51-3
 吉岡 3-13-3

・100 m背泳

小笠原(予)1-12-7
 (決)1-09-5 3位
 徳永(予)1-10-6
 (決)1-09-6 4位
 竹本 2-14-8

・200 m背泳

徳永(予)2-37-3
 (決)2-30-5 1位
 小笠原(予)2-37-8
 (決)2-31-8 3位
 竹本(予)2-43-0
 (決) 43-2 (8位)

・100 m平泳

後呂(予)1-14-9
 (決)1-12-2 1位
 林 1-18-8
 日比 1-22-0

・200 m平泳

後呂(予)2-47-5
 (決)2-40-0 1位
 中塚 2-55-3
 有利 3-00-6

・200 m個人メドレー

原田(予)2-40-4
 (決)2-35-8 6位
 三好(予)2-42-7
 (決)2-43-4 (8位)
 村田 2-43-9

・400 m個人メドレー

古谷(予)5-37-1
 (決)5-27-8 4位
 三好 5-47-0
 守沖 6-45-7

・400 mリレー

(予)奥村・原田・島崎・浜田
 4-08-6
 (決)浜田・郡・徳永・後呂
 3-58-4 3位

・800 mリレー

(予)奥村・近藤・古谷・郡
 9-30-9
 (決)浜田・古谷・郡・後呂
 9-10-5 3位

・400 mメドレーリレー

(予)徳永・後呂・郡・島崎
 4-35-7
 (決)徳永・後呂・郡・浜田
 4-26-0 1位

総合

1位 京 都 大 92点
 2位 神 戸 大 66点
 3位 大 阪 大 62点
 4位 京 都 教 育 大 20点
 5位 大 阪 府 立 大 19点
 6位 神 戸 商 船 大 19点

[女子]

・100 m自由型

枝澤 1-36-0

・200 m自由型

枝澤 3-37-9

・100 mバタフライ

林 (予)1-45-1
 (決)1-42-1 5位

<ul style="list-style-type: none"> • 100 m 背泳 村上 (予) 1-23-9 (決) 1-19-2 1位 加地 (予) 1-26-9 (決) 1-26-1 4位 	<ul style="list-style-type: none"> • 400 m 個人メドレー 川上 (予) 6-10-4 (決) 6-02-1 1位 林 (予) 7-16-1 (決) 7-20-0 6位 	<ul style="list-style-type: none"> • 400 m メドレーリレー (予) 村上・林・川上・加地 5-54-7 (決) 村上・林・川上・加地 5-46-0 2位 																					
<ul style="list-style-type: none"> • 200 m 背泳 村上 (予) 2-54-4 (決) 2-51-3 1位 加地 (予) 3-09-6 (決) 3-06-5 3位 	<ul style="list-style-type: none"> • 200 m リレー (予) 林・加地・川上・村上 2-13-2 (決) 川上・村上・加地・林 2-11-0 2位 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">総合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>大阪教育大</td> <td>76点</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>神戸大</td> <td>51点</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>兵庫教育大</td> <td>33点</td> </tr> <tr> <td>4位</td> <td>大阪大</td> <td>26点</td> </tr> <tr> <td>5位</td> <td>大阪府立大</td> <td>21点</td> </tr> <tr> <td>6位</td> <td>京都教育大</td> <td>20点</td> </tr> </tbody> </table>	総合			1位	大阪教育大	76点	2位	神戸大	51点	3位	兵庫教育大	33点	4位	大阪大	26点	5位	大阪府立大	21点	6位	京都教育大	20点
総合																							
1位	大阪教育大		76点																				
2位	神戸大	51点																					
3位	兵庫教育大	33点																					
4位	大阪大	26点																					
5位	大阪府立大	21点																					
6位	京都教育大	20点																					
<ul style="list-style-type: none"> • 200 m 個人メドレー 川上 (予) 2-56-7 (決) 2-47-2 2位 	<ul style="list-style-type: none"> • 400 m リレー 川上・林・加地・村上 4-53-0 2位 																						

三商戦を見て

今年の三商戦は、7月20日大阪市大プールにて行われた。水温の高い中、競泳の部では優勝。だが、水球の部では一橋に敗れ、惜しくも完全優勝は逃した。

対一橋戦は、関東と関西のレベルの違いというものをごまかすと見せつけられた試合であった。得点から見るとあまり差はないが、技術面では大きな差があったように思える。関東で鍛えられているせいか、当りの強さも断然一橋の方が上のような感じだ。ゴール前での迫力も全然違っていた。一橋側のボールがゴール前に入ると“何か起きる”という緊張感があったが、神大側の攻撃にはそういうものがなかった。

来年もこの調子でいくと一橋に負けるのではないだろうか？ 否、来年のみならず神大が関西で水球をしている限り、これから先、一橋や他の関東のチームに勝つことは難しいであろう。それではどうすれば一橋に勝つことができるだろうか？ そこで私は、新しい型の三商戦を考えた。具体的には、競泳の部はそのまま、水球の部をなくしてしまい、新たに“お笑いの部”を作るのである。お笑いなら関西のレベルの方が断然上である。一橋なんかに負けはしない。試合前に

は梅田花月やなんば花月に行って、どんどん練習試合をするのである。これで完全優勝も間違いなしだ。え？ そんなことできるかって。いや～面目ない。冗談はこのくらいにして、来年の三商戦へ向けての抱負などを語ってみたい。やっぱり抱負は、もめんよりきぬこしがええなあ。それは豆腐。やっぱり抱負はウール100%。それは毛布。山梨の県庁のある……それは甲府！ 冗談は本当にこのくらいにして、この辺でまともに入りたいと思う。

来年の三商戦は、一橋で行われる。わざわざ東京まで行って試合をするのだから是非とも完全優勝をして帰って来たいものだ。 (岡崎 記)

☆旧三商大戦

7月20日 於 大阪市立大プール

[競泳]

・100m自由型

兵田 1-00-5

島崎 1-03-0

・400m自由型

坂田 5-31-7

安井 5-36-9

・800m自由型

近藤 10-27-4

中川 10-53-0

・200mバタフライ

郡 2-30-8

吉岡 3-17-0

・200m背泳

徳永 2-34-3

小笠原 2-43-9

・200m平泳

後呂 2-45-2

中塚 2-55-9

・200m個人メドレー

古谷 2-35-1

村田 2-42-6

・400mメドレーリレー

小笠原・後呂・郡・浜田

4-31-6

・800mリレー

古谷・近藤・郡・後呂

9-23-0

1位	神戸大	74点
2位	大阪市立大	63点
3位	一橋大	49点

[水球]

神戸大	Q	一橋大
2	I	4
3	II	3
2	III	4
3	IV	2
10	計	13

- | | | |
|----------|----------|--------|
| 1. 有利 | 6. 原田(5) | 11. 近藤 |
| 2. 三好(3) | 7. 後呂(1) | 12. 坂田 |
| 3. 林(1) | 8. 日比 | 13. 甲野 |
| 4. 中川 | 9. 中塚 | |
| 5. 郡 | 10. 徳永 | |

神戸大	Q	大阪市立大
2	I	1
1	II	1
3	III	2
3	IV	2
9	計	6

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 有利 | 6. 原田 (1) | 11. 近藤 |
| 2. 三好 (3) | 7. 守神 | 12. 坂田 (1) |
| 3. 林 (3) | 8. 日比 | 13. 甲野 |
| 4. 木下 | 9. 中塚 | |
| 5. 郡 (1) | 10. 徳永 | |

1 位	一橋大	2勝
2 位	神戸大	1勝1敗
3 位	大阪市立大	2勝

総合優勝 神戸大

関西インカレ——1部へ

“1部昇格は当然、なんとしても優勝を！”これが我々がうちだした目標であり、これに向けて練習してきた。4回生にとっては全員が出場する最後の試合であることもあり、いろいろな思い、決意を胸に大阪プールにのりこんだのである。当面の敵は関学であり、これに勝てば優勝である。兵庫ICで負けているが、参考にならぬと考え真正面からぶつかった。

1日目は神大の得意種目がかたまっており12点の差をつけてリードしたが、2日目は大きく負け越し、逆に8点の差をつけられた。200背で3人入賞、不利と見られた400継で優勝などは光るが、200自で決勝進出がなかったこと、400混継で神大新を出しながらも関学に競り負けたのは残念であった。しかしながら決勝に残れなかった者も含め、ベストタイムをどんどん出しており雰囲気も盛りあがっていた。

3日目、神大は100背で1, 2, 3位独占するなど大きく盛り返し、800継前で関学と全く並んだ。しかしながら800継で地力の無さがさらけ出されて4位、総合で2位に終わったのである。

ふり返って見ると、常に競り合い得点も少差で非常に残念な負けであったが、内容的には完敗だったと私は思う。チーム全体としてまだまだ力が不足していることが800継における完敗によく表れているのではないだろうか。練習がまだまだ足りない、練習方法に研究余地がまだまだある、練習やレースに対する態度が甘いといった精神的なことなど、考えられることはたくさんある。逆に言えば考えられることはすべて克服すべきことであろう。

とにかく、なんとか1部に復帰したが前途は険しいだろう。“がんばってくれ。二度と2部落ちするなよ。”これが主将としての私が最後に思ったことだった。(三好 記)

☆関西インカレ

7月27・28・29日 於 大阪プール

〔男子〕

<ul style="list-style-type: none"> • 100 m自由型 浜田(予) 1-00-2 (決) 59-2 2位 島崎 1-02-1 木下 1-05-3 	<ul style="list-style-type: none"> 甲野 1-13-0 • 200 mバタフライ 郡(予) 2-30-8 (決) 2-26-8 2位 岡崎(予) 2-39-8 (決) 2-38-4 5位 吉岡 3-07-4 	<ul style="list-style-type: none"> 後呂(予) 1-11-1 (決) 1-10-5 1位 林(予) 1-16-2 (決) 1-17-2 6位 日比 1-20-6
<ul style="list-style-type: none"> • 200 m自由型 浜田 2-18-6 奥村 2-25-8 守沖 2-41-9 	<ul style="list-style-type: none"> • 100 m背泳 小笠原(予) 1-14-6 (決) 1-08-4 1位 徳永(予) 1-11-6 (決) 1-09-1 2位 竹本(予) 1-14-9 (決) 1-14-5 3位 	<ul style="list-style-type: none"> • 200 m平泳 後呂(予) 2-44-9 (決) 2-38-4 1位 中塚(予) 2-53-6 (決) 2-52-4 (8位) 有利 2-58-8
<ul style="list-style-type: none"> • 400 m自由型 近藤(予) 4-58-3 (決) 4-54-7 6位 中川 5-00-1 坂田 19-8 	<ul style="list-style-type: none"> • 200 m背泳 小笠原(予) 2-38-6 (決) 2-30-9 1位 徳永(予) 2-39-4 (決) 2-32-8 2位 竹本(予) 2-41-5 (決) 2-41-6 5位 	<ul style="list-style-type: none"> • 200 m個人メドレー 古谷(予) 2-38-7 (決) 2-33-2 5位 原田(予) 2-40-8 (決) 2-34-7 6位 三好(予) 2-40-9 (決) 2-39-4 (8位)
<ul style="list-style-type: none"> • 1500 m自由型 近藤 19-51-2 4位 中川 20-26-4 6位 安井 21-27-8 	<ul style="list-style-type: none"> • 100 mバタフライ 郡(予) 1-06-2 (決) 1-05-3 3位 岡崎 1-11-0 	<ul style="list-style-type: none"> • 400 m個人メドレー 古谷(予) 5-37-7 (決) 5-25-3 3位 三好(予) 5-53-1 (決) 5-41-1 6位

村田(予) 5-57-1 (決) 5-53-3 (7位)	• 400mメドレーリレー 小笠原・後呂・郡・浜田 4-21-1 2位	総合 1位 関西学院大 93点 2位 神戸大 89点 3位 大阪工業大 47点 4位 大阪商業大 45点 5位 大阪府立大 23点 6位 立命館大 15点
• 400mリレー 浜田・原田・郡・後呂 3-57-7 1位	• 800mリレー 郡・浜田・古谷・後呂 9-05-4 4位	

[女子]

• 100m自由型 枝澤 1-31-5	• 200m背泳 村上(予) 2-49-7 (決) 2-49-5 (8位) 加地 3-05-9	• 400mリレー 川上・林・加地・村上 4-50-7 (5位)
• 200m自由型 林 2-54-3 枝澤 3-25-7	• 200m個人メドレー 川上 失格	• 400mメドレーリレー 村上・林・川上・加地 5-37-7 (6位)
• 400m自由型 林 6-25-6	• 400m個人メドレー 川上 6-03-1 (8位)	総合 1位 武庫川女子大 130点 2位 天理大 129点 3位 大阪体育大 48点 4位 大阪教育大 16点 5位 神戸大 5点 6位 兵庫教育大 4点
• 100m背泳 村上(予) 1-22-9 (決) 1-17-4 (8位) 加地 1-24-7	• 200mリレー 川上・村上・加地・林 2-09-8 (5位)	

京 阪 神 Jr

我輩は猫である。阪大にたむろし、生協の残飯をもらう毎日を過ごしている。
 今日暑い。こんな日はプールサイドに行って、のみのそうじをするのが最高である。そんな
 わけでプールに行こうと思う。となにやら見慣れぬ連中が我輩の指定席を陣取ってゴロゴロして
 いる。時々、何人かが爆音といっしょに泳ぎ出しては、きゃーきゃーいっている。泳いでは息を

切らして、またゴロゴロとしている。我輩も彼らの横でゴロゴロしてみることにした。話を聞いていると彼らは2〜3日前にも同じ様な事をしたそうである。我輩は彼らの話を聞いているうちに第一の真理を発見した。大学生とは暇なおかつ単純な人間のことである、と。ああ、ねむくなってきた。

昼寝して起きてみると、彼らはボールでたわむれている。しかも水の中で。またも我輩は第二の真理を発見した。彼らはしんどい事をあきもせずにする生物である、と。

おや、彼らはビールなるものを飲みだした。あらあら、彼らはみるみるうちに変化していく。もう我輩は彼らについていけない。さて残飯でもさらいに行くか。 (奥村 記)

☆京阪神 Jr

7月31日 於 大阪大プール

・100m自由型

奥村 1-03-5
羽瀬 1-08-0
守沖 1-19-6

・200m自由型

中塚 2-27-2
林 2-50-6

・400m自由型

竹本 5-31-2
羽瀬 6-06-2

・100mバタフライ

竹本 1-19-7
是枝 1-51-8

・200mバタフライ

村田 2-52-3
坂田 3-22-6
川上 3-02-3

・100m背泳

奥村 1-20-3
近藤 1-26-7

・200m背泳

村田 2-52-3
坂田 3-22-6
林 3-22-7

・100m平泳

守沖 1-28-1
浅川 1-33-1

・200m平泳

植松 3-01-2
藍 4-31-4
枝澤 5-04-6

・200m個人メドレー

木下 3-00-8
坂田 3-02-8
浅川 3-07-2

・400m個人メドレー

岡崎 5-58-5
小笠原 6-00-4
田中(和) 7-39-1

・200mリレー

林・岡崎・小笠原・田中(和)
1-57-0

・400mリレー

村田・竹本・奥村・坂田
4-22-8

・400mメドレーリレー

村田・林・岡崎・奥村
4-53-3

市大戦 —— 緑のプール

神大・市大対抗戦——通称市大戦——は最も古い対抗戦であるときいて、僕は素直に感動してしまった。8月11日、今年もこの伝統ある対抗戦がやってきた。場所は神大六甲台プール。はっきりいって、よそに較べうちのプールはとてきまない。試合前のウォーミングアップのとき、市大が、「ワカメとってこよう」と言ってプールの底に沈んでいる落葉を拾いにもぐって行かれた。それをプールサイドから見ていたうちの先輩方の顔が、ややひきつっていたのを僕は憶えている。

さて結果はというと、競泳、水球ともに神大の圧勝!! だったように思えたのですが、先輩方の話をきくと、去年までは水球はもっと点差があったとのお話、神大のレベルが落ちたのか、市大のレベルがあがったのか? とにかく、もっと真剣に、もっとたくさんの練習をこなしていかなないと、近い将来追い越されるのではないかと、という印象のかけらが見えはじめた一戦でありました。競泳は競泳でウォーミングアップのとき、はりきりすぎてクウィック・ターンを失敗し、ふくらはぎを打ったアホな男もおりました。

偉大な先輩方が卒業してしまわれたら、競泳の面でも不安がたえません。 (羽瀬 記)

☆対大阪市立大定期戦

8月11日 於 神戸大六甲台プール

[競泳]

・400m自由型

古谷 4-44-4 1位
近藤 5-05-8 2位
守沖 5-42-2

・800m自由型

坂田 11-03-3 2位
安井 11-29-3 3位
植松 13-23-7

・200mバタフライ

郡 2-33-4 1位
岡崎 2-35-5 2位
甲野 3-04-2

・200m背泳

徳永 2-41-0 2位
浅川 2-41-5 3位
竹本 2-41-7

・200m平泳

後呂 2-42-3 1位
中塚 2-51-1 3位
有利 2-53-3

・200m個人メドレー

村田 2-37-8 1位
林 2-47-3 3位
木下 2-52-1

・400mメドレーリレー

徳永・後呂・岡崎・奥村
4-30-3 1位

・800mリレー

郡・近藤・古谷・後呂
9-16-2 1位

総合

1位 神戸大 105点
2位 大阪市立大 73点

〔水球〕

神戸大	Q	大阪市立大
4	I	0
2	II	1
4	III	2
4	IV	1
14	計	4

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 有利 | 6. 徳永 (4) | 11. 坂田 (1) |
| 2. 林 (3) | 7. 後呂 (2) | 12. 守沖 (1) |
| 3. 郡 (1) | 8. 木下 | 13. 竹本 |
| 4. 岡崎 (1) | 9. 甲野 | |
| 5. 中塚 (1) | 10. 近藤 | |

惨敗——全国国公立戦

先の関西インカレで一部復帰を決めた神大水泳部は、一週間にわたる強化練習をこなし気合い充分で九州入りした。

だが、1日目を終えて我神大は近藤が1500m自であげた2点のみ。各選手の泳ぎは重く、沈滞ムードと思うようにタイムが伸びないという焦りの中、競泳はどんどんと進んでいった。結局リレー種目においても混雑を除いて全て予選落ち、総合でも惨めな敗退を喫してしまった。

新幹部に移行して初めての試合であったが、気負いのみが先行し、各自の能力を十分に引き出せなかった、という大きな反省と教訓が残った。

試合後のコンパも盛り上がり欠け、2時間にわたる涙の説教を演じた木下と、新主将甲野の「俺、指つめなあかん」という発言が印象深かった。 (後呂 記)

☆全国国公立戦

8月20・21日 於 福岡県営プール

〔男子〕

・100m自由型

奥村 1-02-47

木下 1-05-05

羽瀬 1-07-69

・200m自由型

奥村 2-23-74

坂田 2-26-13

藍 4-11-81

・400m自由型

近藤 4-56-86

坂田 5-22-18

是枝 6-41-32

・1500m自由型

近藤 19-40-79 5位

安井 21-37-03

・100mバタフライ

郡 1-06-15

岡崎 1-11-68

甲野 1-19-98

- 200 m バタフライ
郡 (予) 2-27-67
 (決) 2-26-72 (9位)
岡崎 2-42-65
甲野 3-14-14

- 100 m 背泳
徳永 (予) 1-08-86
 (決) 1-08-70 (8位)
小笠原(予) 1-09-15
 (決) 1-08-72 (9位)
浅川 1-12-34

- 200 m 背泳
小笠原(予) 2-30-50
 (決) 2-29-96 (9位)
徳永 2-31-47
竹本 2-43-35

- 100 m 平泳
後呂 (予) 1-13-29
 (決) 1-12-61 4位

- 林 1-17-84
植松 1-24-35

- 200 m 平泳
後呂 2-44-32
中塚 2-53-05
有利 2-59-12

- 200 m 個人メドレー
古谷 2-35-44
村田 2-39-26
田中(予) 3-13-39

- 400 m 個人メドレー
古谷 5-30-49
村田 5-48-31
守沖 6-35-40

- 400 m リレー
奥村・郡・徳永・後呂
4-03-18

- 400 m メドレーリレー
(予) 小笠原・後呂・郡・徳永
4-29-27
(決) 小笠原・後呂・郡・徳永
4-27-80 (7位)

- 800 m リレー
郡・近藤・古谷・後呂
9-10-46

総合

- | | | |
|-----|-------|------|
| 1位 | 筑波大 | 128点 |
| 2位 | 鹿屋体育大 | 46点 |
| 3位 | 金沢大 | 30点 |
| 4位 | 東京学芸大 | 22点 |
| 5位 | 東北大 | 21点 |
| 6位 | 京都大 | 17点 |
| 12位 | 神戸大 | 5点 |

[女子]

- 100 m 自由型
林 1-19-37

- 200 m 自由型
林 2-55-45
枝澤 3-20-73

- 400 m 自由型
枝澤 7-24-92

- 100 m 背泳
村上(予) 1-18-66
 (決) 1-18-72 5位
加地 1-25-58

- 200 m 背泳
村上(予) 2-49-85
 (決) 2-49-49 5位
加地 3-05-64
- 200 m 個人メドレー
川上(予) 2-50-15

川上 (決) 2-48-24 6位
 ・400m個人メドレー
 川上 (予) 6-00-25
 (決) 6-04-24 6位
 ・200mリレー
 川上・村上・加地・林
 2-13-37

・400mリレー
 川上・林・加地・村上
 5-07-37
 ・400mメドレーリレー
 村上・林・川上・加地
 5-47-24

総合	
1位	筑波大 101点
2位	鹿屋体育大 47点
3位	愛知教育大 34点
4位	東京学芸大 26点
5位	群馬大 20点
6位	大阪教育大 16点
10位	神戸大 6点

近 国 体

第1日目は朝から大雨だった。試合会場はおっそりしく遠かった。男子はインカレへむけて、ボロ主体の練習をしてきたため、競泳の練習不足と強練の疲れがみられた。また、東京へ発つ直前の試合だったことや、順位がほぼ予想されたことから緊張感がやや薄れていたようでもあった。これらの悪条件のため、タイムの伸びない者が多かったが、400混継での大会新には注目したい。

女子は総勢5人という層の薄さも何のその、川上の神大新をはじめ、全員がベストタイムを出すという奮闘ぶりで、400継ではチャンスを生かして、大教大、兵教大をおさえて優勝するという快挙をなしとげた。一回生枝澤の成長ぶりも目をみはるものがあり、来年からの活躍を大いに期待できる。

来年度は男女ともなんとか層を厚くし、すべての種目で確実に点をとれるようになって欲しいと思う。 林 記

☆近畿地区国立大学体育大会 8月29・30日 於 山城公園プール

〔男子〕

・100m自由型
 浜田 (予) 59-66
 (決) 59-63 5位
 木下 1-05-37
 羽瀬 1-11-51

・200m自由型
 近藤 (予) 2-17-81
 (決) 2-16-42 (7位)
 奥村 2-24-34
 坂田 2-28-23

・400m自由型
 近藤 (予) 5-04-27
 (決) 4-54-29 5位
 安井 5-23-12
 坂田 5-23-46

・800m自由型
 安井(予)11-16-72
 快11-13-17 (7位)
 田中 13-39-62

・100mバタフライ
 郡 (予)1-06-49
 快1-05-31 4位
 岡崎 1-10-14
 甲野 1-17-59

・200mバタフライ
 郡 (予)2-34-61
 快2-27-83 2位
 岡崎(予)2-41-66
 快2-45-50 (7位)
 甲野 3-15-22

・100m背泳
 小笠原(予)1-13-02
 快1-09-08 1位
 徳永(予)1-12-79
 快1-09-31 3位
 竹本(予)1-15-56
 快1-18-00 (9位)

・200m背泳
 小笠原(予)2-38-77
 快2-31-51 1位
 徳永(予)2-41-28

徳永(快)2-32-81 2位
 竹本(予)2-42-60
 快2-40-85 5位

・100m平泳
 後呂(予)1-13-83
 快1-11-57 1位
 林 1-17-25
 中塚 1-20-13

・200m平泳
 後呂(予)2-45-40
 快2-38-93 1位
 中塚(予)2-53-37
 快2-55-08 (9位)
 有利 3-01-38

・200m個人メドレー
 古谷(予)2-41-14
 快2-34-81 6位
 村田(予)2-41-29
 快2-41-35 (8位)
 守沖 3-01-09

・400m個人メドレー
 古谷(予)5-42-50
 快5-25-57 3位
 村田(予)5-57-10
 快5-54-32 (9位)
 守沖 6-36-39

・200mリレー
 (予)奥村・郡・徳永・浜田
 1-47-86
 (快)浜田・奥村・徳永・後呂
 1-45-70 3位

・400mメドレーリレー
 (予)小笠原・後呂・郡・近藤
 4-35-89
 (快)小笠原・後呂・郡・徳永
 4-24-46 1位
 ・大会新

・800mリレー
 (予)奥村・近藤・古谷・郡
 9-38-68
 (快)郡・近藤・古谷・後呂
 9-04-38 3位

総合

1位	京都大	116点
2位	神戸大	71点
3位	大阪大	46点
4位	大阪教育大	27点
5位	神戸商船大	26点
6位	京都教育大	13点
	和歌山大	13点

〔女子〕

<ul style="list-style-type: none"> • 100 m自由型 枝深 1-26-68 	<ul style="list-style-type: none"> 村上 決 1-17-56 1位 加地 予 1-29-08 決 1-24-74 2位 	<ul style="list-style-type: none"> • 400 mリレー 川上・村上・加地・林 4-50-15 1位
<ul style="list-style-type: none"> • 200 m自由型 川上 予 2-34-04 決 2-26-98 2位 ・大会新 林 予 2-56-26 決 2-52-68 6位 枝深 3-15-84 	<ul style="list-style-type: none"> • 200 m背泳 加地 予 3-06-00 決 3-04-81 2位 	<ul style="list-style-type: none"> • 400 mメドレーリレー 村上・林・川上・加地 5-41-50 3位
<ul style="list-style-type: none"> • 400 m自由型 林 予 6-15-03 決 6-08-93 2位 	<ul style="list-style-type: none"> • 200 m個人メドレー 川上 予 2-58-93 決 2-45-51 2位 村上 予 3-02-34 決 2-54-89 3位 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 1位 大阪教育大 69点 2位 神戸大 52点 3位 兵庫教育大 41点 4位 滋賀大 36点 5位 京都教育大 23点 6位 奈良教育大 21点 </div>
<ul style="list-style-type: none"> • 100 m背泳 村上 予 1-18-70 	<ul style="list-style-type: none"> • 200 mリレー 川上・村上・加地・林 2-11-44 3位 	

全国インカレ

対戦相手が、2部下位の成城と決まった時、4Qまで試合ができるし、あわよくば勝てるかも知れないという期待も出てきた。その為、宿も初戦に勝った時の事を考え、3泊分とったのである。そして当日、相手メンバーは9人しかいなかった。ますます期待を膨らませ、センターボールを向かえたのである。

果たして、結果は別記の通りである。単なる思い上がりの田舎チームだった。1Qにいきなり逆チャンで5失点をくらい、2Qに入り3点先取し、波にのりかけたかに見えたが結局ゴール前にボールすら入らなかった。上を押さえられ苦しまぎれにしたパスは全てサイドのディフェンスにカットされた。我々としては対策を立てる術すらないまま逆チャンをかけられまくってコールド負けと相成った。

またフローターのフェールのもらい方が、ただ顔が沈むだけでフェールとなる笛になれていたため通用せず苦しんでいた。とにかくもっとルールを読み頭を使うことである。インカレという最高の舞台は参加する事に意義があるのではないのである。(有利 記)

神宮プールで行われた今年のインカレは、出場者3名。そして、去年の7種目出場に対して、今年は3種目。インカレのレベルは急速に上昇している。

私自身、インカレ出場という名誉な事に対して、非常に醒めていた。この試合に対する練習はおろそかであり、参加するだけのもので、何らの決意もなかった。舞台からはみ出し、ふりおとされそうな自分を実感した。

最後に、お世話になった大阪教育大の皆様感謝したい。(川上 記)

☆日本学生選手権

9月1～5日 於 { 明治神宮プール
日体大健志台プール

〔競泳〕

〔男子〕	後呂 忠詳	100m平泳	1-11-91
〔女子〕	村上 美和	200m背泳	2-50-47
	川上 景子	400m個人メドレー	6-02-3

〔水球〕

神戸大	Q	成城大
0	I	5
3	II	3
0	III	8
0	IV	2
3	計	15

(4Q コールド)

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 1. 有利 | 6. 徳永 | 11. 近藤 |
| 2. 三好 | 7. 後呂(1) | 12. 甲野 |
| 3. 郡 | 8. 木下 | 13. 小笠原 |
| 4. 中塚 | 9. 岡崎(1) | |
| 5. 林(1) | 10. 坂田 | |

関 ポ ロ J r

関ポロでの4回生の涙を心の底にしまい込んで、この大会に臨んだ。もちろん京大戦が全てだと思っていた。そこには京大しか相手でないという気持ちからきているものであったが、その甘さが阪大戦に出てしまった。メンバーを落としても楽勝と読んでいた所、攻め手に欠き、逆に点を取られ1Qから劣勢に立った。波にのった阪大の前に我々は動揺し敗れたのである。水球にもゲームの流れによって勝敗が決まってしまうという事を思い知らされた。

考え直してみればそんなチームで京大と互角に戦えるはずなかったのである。フローターマークの甘さ、退水の多さ、どう回せばボールがゴール前に集められるかが全くわかっていなかった事、などが目に付いた。また大会を通じて選手層の薄さもはっきりした。関ポロJr 3位という最低の成績を背負って、もう一度一から水球を考え直す必要が生じてきた事がこの大会での収穫である。(有利 記)

☆関西学生水球リーグ Jr 戦

9月13・14・15日 於 大阪市立大プール

神戸大	Q	立命館大
5	I	0
6	II	2
4	III	1
1	IV	1
16	計	4

- | | | |
|----------|----------|--------|
| 1. 有利 | 6. 岡崎(2) | 11. 羽瀬 |
| 2. 林(1) | 7. 後呂(3) | 12. 村田 |
| 3. 中塚(5) | 8. 甲野(1) | 13. 藍 |
| 4. 徳永(3) | 9. 奥村 | |
| 5. 郡(1) | 10. 古谷 | |

神戸大	Q	京都教育大
4	I	1
4	II	1
5	III	3
9	IV	2
22	計	7

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1. 田中(和) | 6. 村田(3) | 11. 郡(1) |
| 2. 坂田(2) | 7. 奥村(2) | 12. 後呂(1) |
| 3. 甲野(2) | 8. 是枝 | 13. 有利(1) |
| 4. 近藤(3) | 9. 岡崎 | |
| 5. 小笠原(1) | 10. 林(6) | |

神戸大	Q	大阪大
2	I	2
4	II	4
0	III	4
2	IV	2
8	計	12

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1. 田中(和) | 6. 小笠原 | 11. 徳永(1) |
| 2. 甲野 | 7. 木下(1) | 12. 中塚(2) |
| 3. 坂田 | 8. 竹本 | 13. 有利 |
| 4. 近藤 | 9. 林(1) | |
| 5. 守沖(1) | 10. 郡(2) | |

神戸大	Q	大阪市立大
5	I	1
5	II	1
3	III	2
6	IV	0
19	計	4

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| 1. 有利 | 6. 岡崎(1) | 11. 守沖(1) |
| 2. 林(2) | 7. 後呂(5) | 12. 小笠原(1) |
| 3. 郡(2) | 8. 甲野(1) | 13. 竹本 |
| 4. 徳永(3) | 9. 坂田 | |
| 5. 中塚(2) | 10. 木下(1) | |

神戸大	Q	京都大
1	I	4
2	II	4
0	III	4
2	IV	4
5	計	16

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1. 有利 | 6. 木下 | 11. 近藤 |
| 2. 林(1) | 7. 後呂(1) | 12. 守沖 |
| 3. 郡 | 8. 岡崎(1) | 13. 小笠原 |
| 4. 徳永 | 9. 甲野 | |
| 5. 中塚(2) | 10. 坂田 | |

1位	京都大	5勝	4位	大阪市立大	2勝3敗
2位	大阪大	4勝1敗	5位	立命館大	1勝4敗
3位	神戸大	3勝2敗	6位	京都教育大	5敗

現役自己ベスト一覧表

	自 由 型					バタ
	100 m	200 m	400 m	800 m	1500 m	100 m
男子の部						
安井啓史	1-09-7	2-32-9	5-22-9	11-10-5	21-27-8	
有利英明						1-28-7
後呂忠詳	56-7	2-13-4				
木下憲臣	1-04-6	2-31-9				
甲野賢	1-05-9					1-13-9
郡幸雄	1-00-2	2-13-5	5-00-4			1-05-0
近藤直明	1-01-9	2-16-4	4-54-2	10-11-7	19-25-4	1-14-9
坂田亨	1-04-7	2-25-8	5-19-6	11-03-3	21-36-7	1-23-7
徳永守	59-9	2-29-4				
中塚泰弘	1-05-9	2-27-2				
森田武士	1-23-4					
植松忠士			6-30-0	13-23-7		
奥村直樹	1-00-5	2-19-5	5-41-8			
竹本和広			5-31-2			1-19-7
守沖敦	1-10-9	2-41-9	6-21-9			
藍公明		4-11-5				
浅川明弘						
岡崎憲之		2-19-8				1-09-1
小笠原朝隆	1-02-7	2-20-3				1-19-0
是枝良文	1-27-5	3-09-1	6-40-9	14-13-1		1-51-8
田中和彦	1-09-6		6-40-9	13-39-7		
羽瀬智文	1-05-4	2-39-8	5-52-0			
林均						
古谷拓裕	1-01-9		4-44-4			1-12-0
村田功						1-16-0
女子の部						
加地恵	1-16-9	2-50-1	5-54-9			1-38-6
川上景子	1-07-9	2-26-9	5-15-2	10-48-5		1-20-9
村上美和	1-10-7					1-37-4
枝澤百合子	1-26-6	3-20-7	7-24-9			

は長水路記録

フ ラ イ	背 泳		平 泳		個人メドレー	
	200 m	100 m	200 m	100 m	200 m	400 m
					3-12-6	
	1-24-8		1-21-3	2-50-2		6-15-9
	1-14-6		1-10-5	2-37-9	2-31-0	
			1-33-2		2-52-8	6-44-7
3-04-2		4-28-5				
2-24-6				3-12-6		5-45-8
	1-26-7		1-40-2			6-12-5
3-22-6	1-36-4		1-39-5	3-19-0	3-02-7	
	1-07-9	2-29-7			2-38-9	
3-29-3			1-18-6	2-51-1	2-52-9	6-26-0
					3-35-9	8-14-8
			1-21-4	2-54-0		
	1-20-3					
3-21-2	1-14-5	2-40-8	1-38-7			6-26-0
3-47-6			1-24-0		3-01-0	6-35-4
				4-31-4		
	1-12-3	2-41-5				5-43-8
2-35-5					2-37-9	6-00-4
	1-08-1	2-29-9			3-39-2	8-07-1
					3-13-4	7-39-1
	1-35-7		1-34-2			
3-30-2		3-32-7	1-16-2	2-54-1	2-47-3	
2-39-0		2-45-1			2-33-2	5-25-3
2-52-3	1-21-8			2-59-0	2-36-9	5-47-9
	1-24-7	3-04-8	1-45-9		3-18-8	7-12-9
3-00-7			1-32-3	3-06-4	2-45-5	5-55-1
	1-16-8	2-49-3		3-43-0	2-54-8	6-35-2

歴代 10 傑 (男子の部)

○ 100 m 自由型

1	後呂 忠詳	56-7(S)	S. 61
2	川原田 貢	57-1(S)	57
		57-3(L)	59
3	金 一波	58-6(S)	56
		58-9(L)	57
4	浜川 広海	58-8	26
	杉山 和広	58-8(S)	53
6	吉田不二彦	58-9(S)	59
		59-8(L)	59
7	浜田 昌己	59-2(L)	61
8	徳永 守	59-9(S)	61
9	原田久富美	1-00-0(S)	60
10	久保田勝己	1-00-2(S)	56
	郡 幸雄	1-00-2(S)	60

○ 400 m 自由型

1	久保田勝己	4-37-4(L)	S. 58
2	古谷 拓裕	4-44-4(S)	61
		4-46-4(L)	61
3	川原田 貢	4-46-9(S)	57
4	浦野 敏明	4-53-1(S)	59
		5-00-9(L)	58
5	中川 善雄	4-54-0(L)	60
6	近藤 直明	4-54-2(L)	61
7	上田 剛弘	4-54-3(S)	55
		5-02-8(L)	55
8	山本 隆	4-55-1(L)	53
9	杉山 和広	4-55-2(S)	52
10	金 一波	4-57-0(S)	56

○ 800 m 自由型

1	久保田勝己	9-47-4(S)	S. 56
		9-49-0(L)	57
2	近藤 直明	10-11-7(L)	60
3	中川 善雄	10-19-2(S)	60
		10-25-0(L)	60
4	山本 隆	10-22-1(S)	53
5	上田 剛弘	10-26-4(S)	51
6	浦野 敏明	10-33-2(L)	57
7	丸末 一之	10-36-3	51
8	松野 圭悟	10-38-0(L)	57
9	酒井 康司	10-40-5(S)	55
10	杉山 和弘	10-46-1(S)	52

○ 200 m 自由型

1	川原田 貢	2-07-5(L)	S. 59
2	久保田勝己	2-08-5(S)	58
3	浜川 広海	2-09-0	26
4	後呂 忠詳	2-13-4(S)	60
5	郡 幸雄	2-13-5(L)	61
6	金 一波	2-13-8(S)	57
		2-16-5(L)	56
7	杉山 和広	2-14-0(S)	52
8	浜田 昌己	2-14-4(L)	60
9	浦野 敏明	2-15-6(S)	59
10	原田久富美	2-16-2(S)	60

○ 1500 m 自由型

1	久保田勝己	18-37-5(L)	S. 58
2	近藤 直明	19-25-4(L)	60
3	中川 善雄	20-07-0(L)	60
4	浦野 敏明	20-08-3(L)	57
5	松野 圭悟	20-31-4(L)	57
6	上田 剛弘	20-40-0(L)	55
7	酒井 康司	20-55-0(L)	55
8	安井 啓史	21-27-8(L)	61
9	坂田 亨	21-36-7(L)	60
10	玉置 明	22-04-0(L)	43

○100mバタフライ

1	吉岡 宏之	1-04-0(L)	S.58
	坂田 純孝	1-04-0(L)	59
3	佐敷 定雄	1-04-8(L)	48
4	郡 幸雄	1-05-0(L)	60
5	富岡 洋三	1-07-0(S)	56
6	山本 隆	1-07-4(S)	54
		1-08-4(L)	53
7	浦野 敏明	1-08-5(S)	58
8	大橋 進	1-09-1(S)	44
	岡崎 憲之	1-09-1(S)	61
10	久保田勝己	1-09-3(L)	55

○100m背泳

1	杉山 和弘	1-07-7(S)	S.53
		1-08-4(L)	53
2	徳永 守	1-07-9(L)	60
3	小笠原朝隆	1-08-1(L)	61
4	吉田不二彦	1-08-6(L)	59
5	坂田 純孝	1-08-7(S)	58
6	川原田 貢	1-09-6(S)	59
7	太田 雅彦	1-10-9(S)	56
8	田淵 五郎	1-11-8(S)	27
9	浅川 明弘	1-12-3(L)	61
10	酒井 正人	1-12-5(S)	51
		1-13-6(L)	52

○200mバタフライ

1	郡 幸雄	2-24-6(L)	S.60
2	坂田 純孝	2-26-6(L)	59
3	佐敷 定雄	2-29-6	48
4	吉岡 宏之	2-34-0(S)	57
		2-35-9(L)	58
5	山本 隆	2-35-2(S)	53
		2-36-9(L)	53
6	岡崎 憲之	2-35-5(S)	61
		2-38-4(L)	61
7	浦野 敏明	2-35-6(L)	56
	久保田勝己	2-35-6(S)	55
9	古谷 拓裕	2-39-0(S)	61
10	阿部 洋三	2-40-1(L)	41

○200m背泳

1	徳永 守	2-29-7(L)	S.60
2	小笠原朝隆	2-29-9(L)	61
3	坂田 純孝	2-30-4(S)	56
4	吉田不二彦	2-31-2(S)	58
5	杉山 和弘	2-34-1(S)	54
		2-34-2(L)	53
6	木村多加緒	2-34-8(S)	43
		2-37-0(L)	43
7	酒井 正人	2-35-2(S)	52
8	太田 雅彦	2-40-7(L)	56
9	竹本 和広	2-40-8(L)	61
10	浅川 明弘	2-41-5(S)	61

○ 100 m 平泳

1	後呂 忠詳	1-10-5(L)	S. 61
2	長崎 真人	1-13-6(S)	57
		1-14-0(L)	58
3	鈴木 俊彦	1-14-3(S)	42
		1-14-7(L)	42
4	慈幸 弘樹	1-15-3(S)	53
		1-16-8(L)	53
5	浦野 敏明	1-15-6(S)	58
6	林 均	1-16-2(L)	61
7	池辺 正雄	1-16-5(L)	56
8	山野 和則	1-17-1(S)	55
		1-17-2(L)	57
9	富岡 洋三	1-17-4(S)	55
		1-18-5(L)	53
10	平石 康	1-17-4(S)	51
		1-19-1(L)	52

○ 200 m 平泳

1	後呂 忠詳	2-37-9(L)	S. 60
2	長崎 真人	2-40-5(L)	58
3	平石 康	2-45-3(S)	52
4	鈴木 俊彦	2-45-5	43
5	慈幸 弘樹	2-49-2(S)	53
		2-52-5(L)	53
6	山野 和則	2-50-0(S)	57
		2-50-1(L)	57
7	中塚 泰弘	2-51-1(L)	61
8	浦野 敏明	2-51-2(S)	58
9	富岡 洋三	2-51-9(L)	53
10	南谷 昌宏	2-52-7(L)	57

○ 200 m 個人メドレ

1	浦野 敏明	2-29-5(L)	S. 59
2	後呂 忠詳	2-31-0(L)	60
3	原田久富美	2-32-7(L)	60
4	慈幸 弘樹	2-33-0(S)	52
		2-35-6(L)	53
5	古谷 拓裕	2-33-2(L)	61
6	坂田 純孝	2-34-0(L)	58
7	富岡 洋三	2-34-2(S)	56
		2-35-2(L)	55
8	吉岡 宏之	2-34-9(S)	57
		2-36-7(L)	55
9	川原田 貢	2-35-1(S)	58
10	久保田勝己	2-36-0(S)	57

○ 400 m 個人メドレ

1	浦野 敏明	5-20-3(L)	S. 59
2	古谷 拓裕	5-25-3(L)	61
3	山本 隆	5-25-9(S)	53
		5-43-6(L)	53
4	久保田勝己	5-38-4(S)	55
5	原田久富美	5-40-1(S)	60
	坂田 純孝	5-40-7(L)	57
7	三好 岳	5-40-7(L)	60
8	富岡 洋三	5-42-0(L)	56
9	吉岡 宏之	5-43-1(L)	57
10	岡崎 憲之	5-43-8(S)	61

○ 400mメドレーリレー

1	小笠原・後呂・郡・浜田	4-21-1	S. 61
2	徳永・後呂・郡・川原田	4-21-6	60
3	吉田・後呂・坂田・川原田	4-22-8	59
	徳永・後呂・郡・浜田	4-24-0	61
	小笠原・後呂・郡・徳永	4-24-4	61
	徳永・後呂・郡・浜田	4-25-0	60
	徳永・後呂・坂田・川原田	4-25-6	59
4	坂田・長崎・吉岡・川原田	4-26-3	57
	坂田・長崎・吉岡・金	4-29-5	57
	徳永・後呂・岡崎・奥村	4-30-3	61
5	吉田・浦野・坂田・川原田	4-31-3	58

○ 400mリレー

1	川原田・浜田・原田・後呂	3-56-4	S. 60
2	川原田・吉田・浜田・後呂	3-57-0	59
	川原田・浜田・島崎・後呂	3-57-1	60
3	浜田・原田・郡・後呂	3-57-7	61
	吉田・原田・後呂・川原田	3-58-2	59
	浜田・郡・徳永・後呂	3-58-4	61
4	吉田・久保田・金・川原田	3-58-5	57
	原田・島崎・浜田・川原田	3-59-1	60
	吉田・原田・浜田・川原田	3-59-5	59
	川原田・島崎・郡・後呂	3-59-8	60
5	吉田・坂田・久保田・川原田	4-01-2	58

○ 800mリレー

1	浦野・坂田・後呂・川原田	8-56-5	S. 59
2	浦野・金・久保田・川原田	8-57-2	57
3	川原田・浦野・坂田・久保田	8-59-8	58
4	郡・浜田・後呂・川原田	8-59-8	60
	郡・近藤・後呂・川原田	9-01-8	60
	浜田・郡・原田・川原田	9-01-9	60
5	郡・近藤・古谷・後呂	9-04-3	61

(女子の部)

○ 100m自由型

1	川上 景子	1-07-9(L)	S. 61
2	村上 美和	1-10-7(L)	60
3	坂東 美枝	1-11-7(S)	56
4	木村 典子	1-12-9(L)	59
5	土井 紀子	1-13-6(L)	54

○ 100m背泳

1	村上 美和	1-16-8(L)	S. 61
2	坂東 美枝	1-21-7(S)	58
3	加地 恵	1-24-7(L)	61
4	石本日和子	1-25-5(S)	55
5	竹畠 信子	1-27-9	

○ 200m自由型

1	川上 景子	2-26-9(L)	S. 61
2	坂東 美枝	2-37-3(S)	56
3	山口 敦与	2-37-4(L)	60
4	土井 紀子	2-41-5(S)	
5	木村 典子	2-44-2(L)	59

○ 200m背泳

1	村上 美和	2-49-3(L)	S. 60
2	坂東 美枝	2-58-6(S)	56
3	加地 恵	3-04-8(L)	61
4	石本日和子	3-10-6(S)	
5	桑本 万里	3-11-3	

○ 400m自由型

1	川上 景子	5-15-2(L)	S. 60
2	坂東 美枝	5-18-5(S)	56
3	山口 敦与	5-28-7(L)	60
4	土井 紀子	5-45-0(S)	
5	桑本 万里	5-54-3	

○ 100m平泳

1	松井 玲子	1-30-3	
2	川島えみこ	1-32-0(S)	S. 56
3	国本 温代	1-33-1(S)	
4	坂東 美枝	1-33-8(S)	56
5	石本日和子	1-34-1(S)	56

○ 100mバタフライ

1	坂東 美枝	1-14-3(S)	S. 57
2	川上 景子	1-20-9(L)	60
3	大野 智恵	1-25-6(S)	52
4	石本日和子	1-26-6(S)	55
5	嶋田 陽子	1-32-8(S)	

○ 200m平泳

1	川上 景子	3-06-2(S)	S. 61
		3-10-2(L)	60
2	川島えみこ	3-16-6(S)	58
3	坂東 美枝	3-17-6(S)	
4	松井 玲子	3-20-3	52
5	桑本 万里	3-23-8	

○ 200mバタフライ

1	坂東 美枝	2-44-7(L)	S. 57
2	川上 景子	3-00-7(L)	60
3	大野 智恵	3-26-9	
4	嶋田 陽子	3-32-4(L)	55
5	石本日和子	3-45-9(L)	

○200m個人メドレー

1	川上 景子	2-45-5(L)	S.61
2	坂東 美枝	2-54-5(L)	56
3	村上 美和	2-54-8(L)	61
4	石本日和子	3-07-5(S)	56
5	桑本 万里	3-09-7(S)	52

○400m個人メドレー

1	川上 景子	5-55-1(L)	S.60
2	坂東 美枝	6-04-0(S)	56
3	村上 美和	6-35-2(S)	61
4	石本日和子	6-52-5(L)	
5	嶋田 陽子	7-00-9(L)	55

○200mメドレーリレー

1	長谷川・栗野・高木・大野	2-21-8	S.50
2	桑本・酒井・大野・土井	2-35-4	53
	長谷川・松井・大野・高木	2-35-5	50
3	石本・国本・坂東・小井戸	2-36-4(L)	56
4	越智・川島・坂東・木村	2-38-5(L)	57

○200mリレー

1	木村・山口・村上・川上	2-08-3	S.60
2	川上・村上・加地・林	2-09-8	61
	加地・山口・村上・川上	2-10-6	60
	川上・村上・林・山口	2-13-4	60
3	土井・小井戸・石本・坂東	2-14-3	56
4	長谷川・桑本・高木・大野	2-16-3	51
5	桑本・嶋田・大野・土井		53

○400mメドレーリレー

1	村上・山口・川上・木村	5-31-1	S.60
2	加地・三住・坂東・木村	5-35-6	59
3	村上・林・川上・加地	5-37-7	61
	村上・三住・川上・山口	5-38-8	60
4	石本・川島・坂東・木村	5-40-0	57
5	石本・国本・坂東・土井	5-41-0	56

○400mリレー

1	川上・村上・山口・木村	4-45-1	S.60
2	川上・村上・加地・林	4-50-1	61
	村上・加地・山口・川上	4-51-8	60
	林・加地・村上・川上	5-01-6	60
3	坂東・林・加地・木村	5-06-7	59
4	木村・石本・川島・坂東	5-07-8	57
5	坂東・林・川島・木村	5-09-4	58

凌 泳 会 会 則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 (名 称) 本会は凌泳会と称する。
- 第 2 条 (事 務 局) 本会は事務局を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学体育会水泳部気付「凌泳会」とする。
- 第 3 条 (目 的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 (事 業) 本会は前条の目的を達成する為に下記の事業を行なう。
1. 会誌「凌泳」の発行
 2. 会員相互の連絡
 3. 定例総会及び各種の親睦会合
 4. 神戸大学水泳部発展の為に指導及び援助
 5. その他、本会の目的を達成するに必要な事項
- 第 5 条 (会則の改廃) 本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

第 2 章 会 員

- 第 6 条 (会 員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員、準会員及び在学会員とする。
- 第 7 条 (正 会 員) 正会員とは、次のものを云う。
- 国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 同附属経営学専門部
神戸大学 以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。
- 第 8 条 (特 別 会 員) 特別会員とは次のものを云う。
1. 前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。
 2. その他、総会の決議によって推薦した者。
- 第 9 条 (準 会 員) 準会員とは前2条に該当する者以外のもので神戸大学水泳部と行動を共にし、その活動に協力した者の内、本人が入会を希望し且つ在学会員より推薦のあった者を云う。
- 第 10 条 (在 学 会 員) 在学会員とは次のものを云う。
- 現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。
- 第 11 条 (会 員)
1. 正会員は会費として年額 6,000 円を当会へ納入する。但し卒業後 44 年を経

過した者は会費を免除する。

2. 準会員は会費として正会員の半額を当会へ納入する。
3. 会員相互間で、結婚した場合は、夫婦で年額 6,000 円を当会へ納入する。

第 3 章 役 員

第 12 条 (役 員) 本会に次の役員を置く。

会 長	1 名
副 会 長	2 名
監 事	若 干 名
幹 事 長	1 名
本部幹事	若 干 名
支部幹事	若 干 名
運営委員	若 干 名

第 13 条 (改 選) 役員の変更は総会の決議によって行なう。

第 14 条 (任 期) 役員は任期は 1 年とし再選を妨げない。

第 15 条 (会 長) 会長は本会を代表し且つ統轄する。

第 16 条 (副 会 長) 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第 17 条 (監 事) 監事は本会の会務及び会計を監査する。

第 18 条 (幹事長及び本部幹事) 幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第 19 条 (支 部 幹 事) 支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第 20 条 (運 営 委 員) 運営委員は、会の円滑な運営を行う為に会費徴収の促進をはかる。

第 4 章 総 会

第 21 条 (招 集) 総会は少なくとも 2 週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以て会長がこれを招集する。

第 22 条 (時 期) 総会は毎年 5 月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第 23 条 (議 長) 総会の議長は会長がこれにあたる。

第 24 条 (議 決) 総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。但し、当該議事

につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

第 5 章 会 計

第 25 条 (経 理) 本会の経理は、会費・寄付金及びその他の収入によって賄う。

第 26 条 (決 算) 本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告しその承認を受ける。

第 27 条 (期 間) 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

第 6 章 凌 泳 の 送 付

第 28 条 本会員で会費を 3 年間滞納した者には「凌泳」の送付を停止する。但し特別の事情が有る者(海外駐在員等)は除くものとする。

第 7 章 雑 則

第 29 条 本会則は昭和 61 年 5 月 28 日より発効する。

附記(退会者の取扱について)

昭和 57 年度総会において下記のとおり決定した。

文書その他の方法で退会の意志を表明した者は退会を認める事とし、その事実を明確にする為、名簿の最後に退会者欄をもうける。

凌泳会役員名簿

会 長	小 山 賢之助(学1)	
副 会 長	吉 野 栄(学9)	山 口 宗 樹(学10)
監 事	伊 藤 英 二(学7)	三 宅 林(学16)
監 事 長	岡 田 重 義(B10)	
幹 事	酒 井 正 人(A26)	
	久保田 勝 己(E32)	
会計担当幹事	山 本 隆(E129)	
凌泳編集幹事	石 井 義 章(学22)	
支 部 幹 事		
(関 東)	支部長 山 口 宗 樹(学10)	
	山 田 貴 彦(E10)	
	宮 部 高 博(L15)	阿 部 洋 三(T15)
(中 部)	支部長 井 上 隆 史(B10)	
(中 国)	支部長 大 内 義 仁(学8)	
(四 国)	支部長 中 村 市 治(学9)	
(九 州)	支部長 印 藤 勝 美(学13)	
(関 西)	支部長 吉 野 栄(学9)	
	京 都 柳 本 正 雄(B10)	
	阪 神 橋 本 力(T3)	富 岡 道 雄(B4)
	姫 路 山 口 仁 郎(B5)	
運 営 委 員	三 宅 林(学16)	
	石 井 義 章(学22)	
	富 岡 道 雄(B4)	
	岡 田 重 義(B10)	

物 故 会 員

氏 名	卒業年次(回)	氏 名	卒業年次(回)
藤 井 正太郎	特	太 田 清	昭 7高26
多 田 徳 雄	特	土 肥 駒次郎	7 26
山 田 幸 男	特	鍵 本 芳 次	8学 2
北 村 五 良	大 6高11	熊 野 利 夫	8 2
小笠原 房 穂	10 15	小 西 熊 雄	9 3
白 山 源三郎	10 15	片 山 四 郎	11 5
中 村 精 一	10 15	野 村 弘	11 5
天 野 俊 一	10 15	栄 口 昌 二	12 6
加 納 茂	11 16	村 上 秀 造	13 7
野 田 曾 一	11 16	高 橋 徹	13 7
岡 本 幸 一	12 17	富 岡 喜一郎	13 7
榊 原 零 一	12 17	和 泉 真 弘	14 8
山 村 馨	12 17	松 本 勇	14 8
山 下 虎 蔵	13 18	福 永 拓 造	14 8
中 村 信 三	13 18	新 原 拓 夫	15 9
鈴 木 不覇雄	14 19	尾 原 芳 行	16 8
繁 益 繁治郎	14 19	部 坂 克 夫	16 10
古 林 喜 楽	14 19	恩 地 正 伍	16 10
三 輪 嘉一郎	15 20	鈴 木 啓 介	16 10
高 田 寿 三	15 20	井 上 正 平	11
大 谷 親之輔 (旧姓) 井関	昭 2 21	柏 木 慶 三	16 11
大 島 勝 利	2 21	稻 垣 懋	16 11
中 村 毅	2 21	山 口 八 郎	17 12
浅 野 猛 雄	3 22	池 田 勲 治	18 13
田 川 亮 一	3 22	前 田 礼 之	19 14
阪 本 豊 一	3 22	伊 藤 一 郎	21 16
作 田 耕 三	3 22	齐 藤 嘉一郎	21 16
白 井 儀 三	3 22	衣 川 昭	24専 1
東 光 武 三	4 23	鈴 木 富 夫	25学20
尾 上 長三郎	4 23	中 島 功	28E 1
川 西 武 雄	7 26	今 井 彰	30J 3

商 神

1. 商神彩なす翹をあげて
靈杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を漏りて
秋津島根に落つとぞ見えし
所はここぞ菊水かおる
湊河原の近きほとりに
かく伝わりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし
靈果いかで地に朽つべき
豊栄のぼる朝日のかけに
八州の外の潮風吹きて
いつしか催す気運に乗じ
わが学校ぞ世に生まれたる
眠る 商界夢さますべき
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰
連り亘る山ぶところに
数の若鷹はぐくまれ居て
静かにうかぶ雲の行きかい
朝妙なる琴のひびきは
敏馬の浜に松を吹く風
夕やさしき舞の姿は
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の
寄せてはかえず清き渚や
熱誠もゆる夏の盛りを
いたわる風の葎合の里
須磨や明石をかけて照るらん
月には物のあわれをぞ知る
冬は凍たる後に嵐
奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は
偉人傑士を起たしむとかや
天の使命を胸に収めて
清き自然に抱かれながら
筋骨鍛え智徳を研く
切磋琢磨の三年の春秋
養い得たるうつ勃の意気
抱負を語れや千余のおのこ
6. 金毘無欠の三千余年
かがやく光は劍の誉
心はおなじ大和男子の
我等は牙籠を執って起ちなん
日出ずる旗を高くかさして
日入らぬ国と手を携えて
目ざす平和の戦の場に
切り御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて
野に立出ずる蒼鷹幾羽
爪も研ぎぬ力も足りぬ
尋にも余るつばさを張れば
枝の百鳥皆おそれ伏す
扶揺万里の風を起して
おのが向々東に西に
雲に突き入る勢見るや

商 神

しゅうしん あやなす つばさをあげて
 れいじょう はるかに ひがしをさせば
 くしき このみは くもまをもりて
 あきつー しまねに おつとぞ みえしと
 こーろは こそぞ きくすいか おるみ
 つなとが わらの ちかきほとりに
 かくつ たわりし あめのさとしも
 ひとは さとらで いくとせかへぬ

宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽

作曲 竹内 平吉

勇壮に元気よく

まやろっこりに いだかれーて
みどりのそのに はなふりかゝる
ここおかのーべの わこりどーが
もゆるおもいを むねにひーめ
まなぶやゆうひの ときをきし

三

燃ゆる紅葉たそがれて
宵闇せまる山路を踏めば
真理に挑む若鷹が
ネオンの海を見おろして
いよよ決意をかたむ哉

四

身に泌みわたる峯おろし
冬来りなば春近し
巢立つ晴れの日時せまる
翼ひろげて悠然と
宇宙を股に羽ばたかん

一、
摩耶六甲に抱かれて
緑の園に花ふりかかる
ここ丘の上の若人が
燃ゆる思いを胸に秘め
学ぶや雄飛の時を期し

二

ヒマラヤ杉を背に受けて
茅渚の浦ゆ紀伊の山
右手に四国よ淡路島
左手にうかぶ金剛山
大らかにぞ抱負わく

栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 敷島富四雄

作曲 黒田 浩一

編曲 土橋 康宏

た て や た ー て わ れ ら が え ら ば れ
 し せ ん し ぼ う の た か き ぼ ま れ に か け て た
 た め さ す し ゅ り の か む り
 ふ る え い ざ ふ る ー え ち か ら の か ぎ り か が や か ん え い
 こ う は う ー ね に わ れ ら ー に ー
 こ う べ こ う べ こ う べ わ れ ら が こ う べ だ い が ー く ゆ け

<p>三</p> <p>聞けや聞け われらが選ばれし戦士 青春の若き血潮たぎらせ 相和するかちどきの歌 振るえいざ振るえ意気いや高く 輝かん栄光は常にわれらに 神戸 神戸 神戸 われらが 神戸大学</p>	<p>二</p> <p>征けや征け われらが選ばれし戦士 若人の大き誇を秘めて 胸深く制覇の誓 振るえいざ振るえ雄々しく強く 輝かん栄光は常にわれらに 神戸 神戸 神戸 われらが 神戸大学</p>	<p>一</p> <p>起てや起て われらが選ばれし戦士 母校の高き誓にかけて ただ目指す勝利の栄冠 振るえいざ振るえ力の限り 輝かん栄光は常にわれらに 神戸 神戸 神戸 われらが 神戸大学</p>
---	---	--

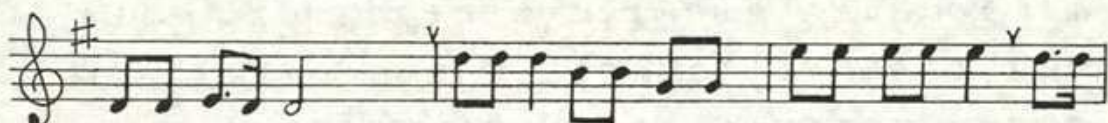
水 泳 部 歌

作詩 古林 喜楽

作曲 山田 貴彦



1. ま や ろ っ こ り に い だ か れ て こ こ む こ が お か の
 2. フ リ ー ブ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク リ レ ー に
 3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ り だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ
 ポ ロ ま で も め っ せ い け ん じ の い き た か し い ざ
 ブ ー ル ベ に つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る



き(しぶき) を あ げ る け ん だ ー ん じ
 や(いざや) - き そ わ ん り で を - ぶ し
 な(くるな) つ ま っ - て い き り - た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し
 茅渚の浦曲を見下して
 しぶきをあげる健男子

二、フリーブレスト バタフライ

バックリレーにポロまでも
 凌泳健児の意気高し
 いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のプール辺に
 月見の宴で泳ぎ止め
 来る夏待っていきり立つ

